

C M E S

ANNUAL

REPORT

2 0 Vol.
019 1 8

愛媛大学 沿岸環境科学研究センター 年報

愛媛大学沿岸環境科学研究センター 年 報

(第 19 号)

2018年

ま え が き

例年のように、愛媛大学沿岸環境科学研究センター（CMES）の年報2018年度版を出版しましたのでお届けします。本年報は2017年度のCMES活動内容をまとめていますが、「まえがき」に関しては2017年度下期と2018年度上期の主な出来事について解説しました。

昨年のCMES年報およびニュースレターでお知らせしましたように、CMES設立に尽力された立川 涼愛媛大学名誉教授が2017年5月9日にご逝去されました。CMESでは、立川先生の貢献に感謝するとともに哀悼の意を込めて追悼文集「立川 涼先生と環境化学」を作成し、2017年12月末に発刊しました。この文集には、環境化学の学術研究と地方大学の発展に生涯を捧げ活躍された立川先生の思い出が凝集されています。ご一読いただければ幸いです。追悼文集を入手希望の方は、田辺宛（shinsuke@agr.ehime-u.ac.jp）メールでお知らせください。

さて、文部科学省の共同利用・共同研究拠点形成事業に認定されたCMESの「化学汚染・沿岸環境研究拠点（LaMer）」は継続的・発展的に推進され、事業3年次は初年度（49件）および2年次（55件）を上回る63件の共同研究の申請を採択しました。また、当該分野で定評のあるハイインパクトファクター誌（IF>3）掲載論文数も2017年は32報に達し、2016年（21報）を大幅に上回る成果が得られました。

加えて、次世代の研究者を育成する目的で、学長戦略経費などを活用して大学院生やPD研究員の国際共同研究および国際学会参加・発表等を継続的に支援し、その効果は2017年度下期～2018年度上期に国内学会における7件の優秀ポスター賞・優秀発表賞・未来博士3分間コンペティション企業賞の受賞として結実しました。さらに、2018年2月には1名の教員が第14回三浦保環境賞奨励賞を、2018年5月には1名の教員が第27回環境化学学術賞を受賞しました。また、2名の教員が2017年度ベストティーチャー賞・ベストレクチャー賞を受賞し表彰されました。

なお、LaMerは、2018年に文部科学省の中間評価を受け、最高位の「S評価」を得ました。また、同省の国際共同利用・共同研究拠点の新規認定にも応募しましたが、残念ながら採択には至りませんでした。2018年以降18歳人口が再び減少期に突入する影響で私学を中心に経営難に陥る大学が各所に出現し、とりわけ地方では国公立さえ安泰でないと言われています。地方大学が生き残りをかけた戦場で勝利するには、もはや総花的発想は通用せず、「小さくても強い大学」すなわち特色の枕詞が大学名の前につくような「とがった大学」を目指すことが肝要と思われ、CMESは研究面でとんがりの先端を担えるセンターでありたいと願っています。関係各位のご指導とご協力をお願い申し上げます。

平成30年10月

愛媛大学沿岸環境科学研究センター
センター長 田辺 信介

目 次

まえがき	1
1. 総 説	4
1.1 組 織（平成30年4月現在）	4
1.2 各部門の概要	5
2. 研究者要覧（平成30年5月現在）	7
3. 研究プロジェクト（平成29年度）	17
3.1 科学研究費等	17
3.2 共同研究	19
3.3 受託研究	19
3.4 各種研究助成金（民間・財団等）、奨学寄付金等	20
3.5 受託事業	20
4. 研究成果（暦年で2017に出版、掲載されたもの）	21
4.1 著 書	21
4.2 学協会誌等	21
4.3 学内、所内誌等	26
4.4 一般誌等	26
4.5 報告書等	26
4.6 学会発表等	26
5. 学会及び社会における活動（平成29年度）	41
5.1 併任・委員会委員等	41
5.2 学協会委員等	42
5.3 学会、講演会などの開催（センター主催または共催）	44
5.4 学会、講演会などの開催（個人）	45
5.5 学会賞等	46
6. 国際的活動（平成29年度）	47
6.1 国際研究プロジェクト	47
6.2 在外研究等	48
6.3 海外調査・国際学会等	48
6.4 外国人客員研究員等	51
6.5 海外からの訪問者	51
6.6 招聘研究員	52
6.7 留学生	52
7. 教育活動（平成29年度）	54
7.1 卒業論文・修士論文・博士論文 題目	54
7.2 講義・集中講義	55
8. 設 備（平成29年度導入）	59
9. 広 報（平成29年度）	60
9.1 CMES ニュース	60
9.2 報道関係	61
9.3 講座、講演会等	62
10. 調査実習船「いさな」運航状況（平成29年度）	64
11. 研究員名簿（平成29年度）	65
12. 客員研究員名簿（平成29年度）	66
13. 運営委員会（平成29年度）	68
14. センター規則および運営委員会規程	69

1. 総 説

1. 1 組 織（平成30年4月現在）

センター長 : 田辺 信介

環境動態解析部門

教授 : 郭 新宇
 教授 : 森本 昭彦
 准教授 : 加 三千宣
 講師 : 吉江 直樹
 兼任教員（社会連携推進機構 特命教授） : 武岡 英隆
 兼任教員（理工学研究科 教授） : 日向 博文
 研究員 : 柴野 良太
 * 研究員 : 齋藤 類（平成30年4月より国立研究開発法人 水産研究・教育機構 西海区水産研究所）
 * 研究員 : 王 玉成（平成29年11月退職）
 * 研究員 : 于 曉杰（平成30年3月退職）
 事務補佐員 : 宮地 順（平成30年1月着任）
 * 事務補佐員 : 松本亜紀子（平成29年5月退職）
 * 事務補佐員 : 中村 彩加（平成30年2月退職）

化学汚染・毒性解析部門

特別荣誉教授 : 田辺 信介
 教授 : 岩田 久人
 教授 : 国末 達也
 准教授 : 野見山 桂
 講師 : 仲山 慶
 兼任教員（農学研究科 教授） : 高橋 真
 兼任教員（農学研究科 准教授） : 石橋 弘志
 研究員 : Nguyen Minh Tue
 研究員 : 落合 真理
 研究員 : Guo Jiahua
 研究員 : Bak Su min
 研究員 : 田上 瑠美
 研究員 : 後藤 哲智（平成30年4月着任）
 学術振興会外国人特別研究員 : Kanerva Mirella Maria（平成29年5月着任）
 研究補助員 : 満汐 美穂
 研究補助員 : 松田 昌子
 * 研究補助員 : 森 久美子（平成29年6月退職）
 * 研究補助員 : 倉田 智美（平成30年3月退職）
 * 研究補助員 : 上城戸香奈（平成29年12月退職）
 技術補佐員 : 渡部はる江
 技術補佐員 : 仲山 教子

1. 総説

技術補佐員	： 飛田 圭子（平成29年9月退職）
技術補佐員	： 田中 順子（平成29年11月着任）
事務補佐員	： 中村絵理日
* 事務補佐員	： 里本 彩（平成30年3月着任）

生態系解析部門

教授	： 鈴木 聡
准教授	： 北村 真一
助教	： 大林由美子
兼任教員（社会共創学部 教授）	： 大森 浩二
兼任教員（理工学研究科 教授）	： 渡辺 幸三
兼任教員（理工学研究科 准教授）	： 三宅 洋
兼任教員（農学研究科 教授）	： 渡辺 誠也
研究補助員	： 門屋 綾
* 技術補佐員	： 村上 祥子（平成30年3月退職）
事務補佐員	： 金谷 由美

国際・社会連携部門

客員教授	： 高菅 卓三（株式会社島津テクノリサーチ 取締役）
客員教授	： Kurunthachalam Kannan（State University of New York at Albany 教授）
客員教授	： 呉 明柱（韓国国立全南大学校水産生命医学科 教授）
客員准教授	： 金 恩英（韓国慶熙大学 准教授）

共通

技術専門職員	： 大西秀次郎
技術職員	： 小川 次郎

研究支援部研究支援課

研究支援部長	： 長谷川和彦（平成30年4月着任）
研究支援部研究支援課長	： 石田 昭夫
研究支援部研究支援課副課長	： 猪野 周宣
研究支援部研究支援課部員	： 山田 道子
事務補佐員	： 渡部江利子
事務補佐員	： 中山 真理

* は転任または退職した職員

1.2 各部門の概要

環境動態解析部門

研究内容：沿岸海域の環境は、様々な人間活動や気候変動などの影響によって変動する。これらの変動の実態やメカニズムを解明し、将来の沿岸環境の変動を予測することが本部門の目標である。調査船や各種モニタリングシステムによる現地調査、数値シミュレーションなどの手法を用い、他部門とも連携しながらこの目標に向けた各種の課題に取り組んでいる。また、現在の様々な沿岸環境問題のメカニズムを物理学的側面から解明していくことも当部門の研究課題である。

主な研究テーマ：瀬戸内海の栄養塩環境の長期モニタリングと将来予測、高解像度数値生態系モデルによる瀬戸内海の環境変動機構の解明、豊後水道の急潮および底入り潮の発生機構とそれらの環境への影響の解明、宇和海水温情報システムの開発、瀬戸内海の物質循環と生物生産機構の解明、赤潮や貧酸素水塊の物理機構の解明、

養殖漁場の物質循環と環境保全，クラゲ類の大量発生と集群メカニズム，黄海・東シナ海の海洋循環，長江河水質汚染の挙動，海岸漂着ゴミの予報実験，黒潮による栄養塩輸送，日本海におけるスルメイカとズワイガニのふ化幼生の経年変動，大気海洋結合相互作用，宇和海の環境変遷史解明，力学現象に対する生物学的応答の非線形性，海洋堆積物変質過程の数値構造，分野横断的な数値モデリング

化学汚染・毒性解析部門

研究内容：生物蓄積性有害化学物質の汚染モニタリングとリスク評価を通して，生態系を保全する方途を提言する。具体的には，内分泌かく乱物質（環境ホルモン）やその代謝物など生物やヒトの健康に悪影響を及ぼす化学物質に注目して，環境や生態系汚染の現状と推移，分布・挙動・ゆくえ，生物蓄積の特徴を地域的・地球的視点で解明することを目的としている。また，無脊椎動物・魚類・両生類・爬虫類・鳥類・哺乳類などの野生生物や実験動物を対象に，異物代謝酵素や脂溶性リガンドレセプターの機能特性を分子レベルで解析し，毒性発現の種多様性や感受性の種差を解明する研究（敏感・鈍感のサイエンス）にも取り組んでいる。

主な研究テーマ：地球規模での大気，水質，堆積物（土壌），生態系汚染の実態解明と動態解析，途上国（とくにアジア）の陸域および沿岸海洋汚染の実態解明と動態解析，廃棄物投棄場やリサイクル施設の化学汚染と影響の解明，野生生物（プランクトン，両生類，爬虫類，魚類，鳥類・哺乳類）の汚染実態の解明と生物濃縮機構の解析およびリスク評価，ヒトの汚染実態解明と健康影響評価，海洋汚染および陸域汚染の過去復元と将来予測，化学物質汚染による野生生物個体群の異物代謝酵素への影響，核内レセプターの比較機能学的研究，シトクロム P450 およびメタロチオネインの比較機能学的研究，多元的オミックス解析による生物の遺伝子ネットワーク攪乱のモニタリングと新規バイオマーカーの探索，化学物質暴露による胚発生への毒性影響とその発現メカニズムの解明，毒性影響の感受性を支配する分子機構の解明，野生生物による化学物質の代謝能を評価する研究，in silico シミュレーションによる有害化学物質のハイスループットスクリーニング手法の開発

生態系解析部門

研究内容：海洋および陸水を含めた水圏における生物過程の研究を行っている。海洋での物質循環と遺伝子伝播過程における微生物機能に関する研究，海洋微生物・魚病ウイルスの分子生態学的研究，魚類感染症の発症と環境汚染の関連性の研究などに取り組んでいる。また，安定同位体解析による瀬戸内海生態系構造と化学物質の生物濃縮の研究も行なっている。

主な研究テーマ：環境微生物の抗生物質耐性に関する研究，微生物間での遺伝子伝播の研究，魚介類の日和見・再興感染症ウイルスの生態，重油汚染の魚類生体防御系への影響，瀬戸内海の生態系構造解析，海洋での生物間相互作用，微生物の新規機能の開発，河川環境の保全

国際・社会連携部門

研究および活動の概要：CMES はこれまでも活発な国際的活動を展開してきたが，環境科学の世界的拠点の一つとして発展しつつある現在，その必要性はさらに増している。一方，設立時の目標の一つであった社会貢献についても，環境問題の深刻化の中で CMES に対する期待は一層高まっている。特命教授や外部の客員教員により構成される本部門では，各種の連携研究に加え，若手研究者の国際性涵養のための人材育成や社会科学的視点導入のための教育，国際共同研究，研究者交流および社会連携を推進し，環境情報の公開なども含む多様な活動を展開している。

主な研究テーマと活動内容：残留性有機汚染物質・臭素系難燃剤等による途上国の化学汚染の実態解明，微量環境汚染物質の分析技術開発と未知成分の検索，有機フッ素化合物による環境汚染の実態解明，化学物質に対する感受性の種差を規定する分子機序の解明と野生生物のリスク評価，魚病制御と水産食品の安全性に関する研究，国際学会におけるプレゼンテーション能力および学術論文作成能力育成のための若手研究者教育，インターンシップや講座等によるキャリアパス支援，途上国出身留学生の支援と留学生教育の高度化推進

2. 研究者要覧

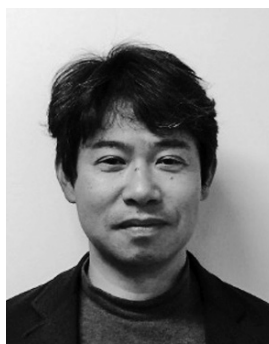
(平成30年5月現在)

環境動態解析部門



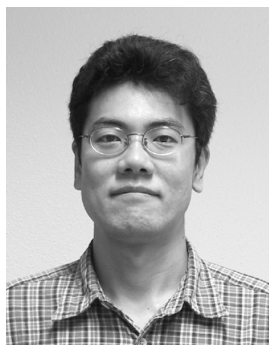
郭 新宇 GUO Xinyu

【職名】教授 理学部地球学科・スーパーサイエンス特別コース地球惑星科学コース・理工学研究科数理物質科学専攻及び先端科学特別コース兼任 【電話】089-927-9824
【FAX】089-927-9846 【E-mail】guoxinyu@sci.ehime-u.ac.jp 【学歴】昭和63年7月 中国天津大学海洋船舶工学科卒業，平成3年1月 中国ハルビン船舶工程学院修士課程海洋流体力学専攻修了，平成9年3月 愛媛大学理工学研究科博士後期課程生産工学専攻修了
【学位】平成9年3月 愛媛大学博士（工学）【所属学会】1. 日本海洋学会，2. 日本海洋学会沿岸海洋研究部会，3. 日本地球惑星科学連合，4. American Geophysical Union，5. American Meteorological Society 【専門分野】1. 海洋物理学，2. 沿岸海洋学 【主な研究テーマ】1. 東シナ海の流動構造と栄養塩の動態，2. 瀬戸内海の流動構造と栄養塩の動態，3. 黒潮流域における栄養塩輸送，4. 瀬戸内海及び黒潮内側域における水温の経年変動，5. 日本海高次生態系モデリング 【受賞歴】2014年6月 Reviewing Excellence Award for Continental Shelf Research



森本 昭彦 MORIMOTO Akihiko

【職名】教授 理学部地球科学科・スーパーサイエンス特別コース環境科学コース・理工学研究科数理物質科学専攻及び先端科学特別コース兼任 【電話】089-927-9674
【FAX】089-927-9846 【E-mail】morimoto.akihiko.cl@ehime-u.ac.jp 【学歴】平成6年愛媛大学工学部海洋工学科卒業，平成8年愛媛大学大学院工学研究科博士前期課程土木海洋工学専攻修了 【学位】平成12年9月 九州大学博士（理学）【所属学会】日本海洋学会，日本海洋学会沿岸海洋研究会 【専門分野】1. 沿岸海洋学，2. 海洋物理学 【主な研究テーマ】1. 対馬暖流流路の変動に関する研究，2. 東シナ海から日本海への栄養塩供給が低次生態系に与える影響，3. 北部タイランド湾の貧酸素の挙動，4. 分散型海洋レーダの開発



加 三千宣 KUWAE Michinobu

【職名】准教授 理学部地球科学科・スーパーサイエンス特別コース環境科学コース・理工学研究科数理物質科学専攻及び先端科学特別コース兼任 【電話】089-927-9654
【FAX】089-927-9654 【E-mail】mkuwae@sci.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成14年3月 大阪市立大学大学院理学研究科後期博士課程（生物地球系専攻）修了 【学位】平成14年3月 大阪市立大学大学博士（理学）【所属学会】1. 日本第四紀学会，2. 日本海洋学会，3. 日本地球化学会，4. 日本珪藻学会，5. 日本水産海洋学会，6. 日本海洋学会沿岸海洋研究会，7. 地球環境史学会，8. 日本地球惑星科学連合，9. American Geophysical Union 【専門分野】1. 第四紀学，2. 古陸水学，3. 古海洋学 【主な研究テーマ】1. 琵琶湖湖底堆積物の珪藻化石を用いた過去40万年間の環境変遷史，特に古気候変動記録の復元に関する研究，2. 珪藻及び安定同位体比を用いた西南日本沿岸浅海域における基礎生産の気候変動に対する応答，3. 魚鱗を用いた多様性小型浮魚類のバイオマスの長期変動に関する研究，4. 浮遊性有孔虫及び底生有孔虫殻のMg/Ca比を用いた西南日本沿岸浅海域の海洋温暖化に関する研究，5. 日本沿岸域における高解像度古海洋変動の解明 【受賞歴】2008年日本海洋学会日高論文賞受賞，2004年日本第四紀学会日本第四紀学会論文賞



吉江 直樹 YOSHIE Naoki

【職名】講師 工学部環境建設工学科兼任 【電話】089-927-9839 【FAX】089-927-9846
 【E-mail】yoshie.naoki.mm@ehime-u.ac.jp 【学歴】平成9年3月 北海道大学水産学部水産化学科卒業，平成14年9月 北海道大学大学院地球環境科学研究科博士課程大気海洋圏環境科学専攻修了 【学位】平成14年9月 北海道大学博士（地球環境科学）【所属学会】1. 日本海洋学会，2. 日本海洋学会沿岸海洋研究部会，3. 日本地球惑星科学連合，4. 水産海洋学会，5. The American Society of Limnology and Oceanography，【専門分野】1. 生物地球化学，2. 海洋生態系モデリング，3. 海洋学，4. 海洋生物学 【主な研究テーマ】1. 瀬戸内海における低次生態系・物質循環の現場モニタリングおよび数値モデリング，2. 沿岸域への外洋水進入現象に伴う生態系応答の現場モニタリングおよび数値モデリング，3. 超高解像度観測と数値モデルを組み合わせた沿岸域における栄養塩動態に関する研究，4. 瀬戸内海における藻場の時空間分布に関する研究，5. 瀬戸内海における有害赤潮の時空間分布に関する研究，6. 東シナ海におけるサブメソスケール渦が海洋生態系に及ぼす影響に関する研究，7. トカラ周辺海域における栄養塩・低次生態系動態に関する研究，8. 栄養塩等の水質環境が小型浮魚生産量に及ぼす影響に関する研究
 【受賞歴】2010年 日本海洋学会岡田賞，2011年 北太平洋海洋科学機構（PICES）Best Presentation Award



武岡 英隆 TAKEOKA Hidetaka

【職名】兼任教員（社会連携推進機構南予水産研究センター 教授・センター長）【電話】089-927-8513 0895-82-1025 【FAX】089-927-8820 0895-82-1026 【E-mail】takeoka.hidetaka.mx@ehime-u.ac.jp 【学歴】昭和49年3月 京都大学理学部卒業，昭和51年3月 京都大学大学院理学部研究科修士課程地球物理学専攻修了 【学位】昭和59年3月 京都大学理学博士 【所属学会】1. 日本海洋学会，2. 日本海洋学会沿岸海洋研究会，3. 水産海洋学会 【専門分野】1. 沿岸海洋学，2. 海洋物理学 【主な研究テーマ】1. 沿岸海域の流動と物質輸送，2. 豊後水道の急潮と底入り潮，3. 瀬戸内海の物質循環と生物生産機構，4. 養殖場の物質循環と環境保全，5. 地球環境変動の沿岸域への影響，6. クラゲ類の大量発生機構と移動集積機構 【受賞歴】1999年 日本海洋学会日高論文賞，2003年 愛媛県政発足記念日知事表彰，2003年瀬戸内法30周年記念環境大臣表彰，2009年原子力安全功労者表彰（経済産業大臣），2016年 日本海洋学会宇田賞



日向 博文 HINATA Hirofumi

【職名】兼任教員（大学院理工学研究科生産環境工学専攻 教授）【電話】089-927-9835 【FAX】089-927-9851 【E-mail】hinata.hirofumi.dv@ehime-u.ac.jp / hinata@cee.ehime-u.ac.jp 【学歴】東京工業大学大学院理工学研究科土木工学専攻修了（1991）【学位】平成12年1月 東京工業大学博士（工学）【所属学会】土木学会，日本海洋学会，水産海洋学会 【専門分野】沿岸海洋学，海岸工学 【主な研究テーマ】海洋プラスチックの海岸—沿岸域における挙動の解明，海洋レーダを用いた津波計測に関する研究，黒潮変動が沿岸域の物質輸送に与える影響に関する研究 【受賞歴】土木学会論文奨励賞（2001），日本港湾協会論文賞（2013），土木学会四国支部研究・論文賞（2018）



化学汚染・毒性解析部門

田辺 信介 TANABE Shinsuke

【職名】教授（特別荣誉教授）・センター長 【電話】089-927-8171 【FAX】089-927-8171 【E-mail】shinsuke@agr.ehime-u.ac.jp 【学歴】昭和50年3月 愛媛大学大学院農学研究科農芸化学専攻修士課程修了 【学位】昭和60年2月 名古屋大学農学博士 【所属学会】

1. 日本海洋学会, 2. 日本海洋学会沿岸海洋研究部会, 3. 日本極地研究振興会, 4. 日本環境科学会, 5. 日本環境化学会, 6. 日本環境毒性学会, 7. 日本 BICER 協議会, 8. 日本内分泌攪乱化学物質学会, 9. 日本化学会, 10. 日本微量元素学会, 11. 日本セトロロジー研究会, 12. ダイオキシン・環境ホルモン対策国民会議, 13. 東南アジア国際農学会, 14. 環境放射能除染学会, 15. Society of Environmental Toxicology and Chemistry (SETAC), 16. American Chemical Society (ACS) 【専門分野】環境化学 【主な研究テーマ】1. 生物蓄積性有害物質 (PTS) による地球規模の海洋汚染とその動態, ゆくえおよび歴史トレンドに関する環境化学的研究, 2. PTS による海棲哺乳動物の汚染と毒性影響に関する研究, 3. PTS による北海の汚染とアザラシへの蓄積および毒性影響に関する研究, 4. PTS による鳥類の汚染と毒性影響に関する研究, 5. PTS による深海生物の汚染と毒性影響に関する研究, 6. マッセルウオッチ: 二枚貝を生物指標としたアジアの海洋汚染モニタリング, 7. 魚介類を指標にした有害物質の蓄積および毒性影響に関するモニタリング手法の開発, 8. 海棲哺乳動物における重金属の蓄積特性に関する研究, 9. 鳥類における重金属の蓄積特性に関する研究, 10. 野生高等動物におけるヒ素の蓄積特性に関する研究, 11. 環境保全型漁業をめざした有害物質のリスク評価と管理に関する研究, 12. 途上国の廃棄物投棄場におけるダイオキシン類, 農薬, 重金属類等有害物質の汚染と毒性影響に関する研究, 13. 途上国におけるヒ素の地下水汚染とヒトへの影響に関する研究, 14. 有機臭素化合物等難燃剤による環境汚染, 生物蓄積, 経年変化, 生態影響に関する研究, 15. 水酸化代謝物の生物蓄積特性と影響評価に関する研究, 16. 生活関連物質 (PPCP) による環境と生物の汚染, 17. 生物環境試料バンクを基盤とした国際的・学際的研究

【受賞歴】1985年4月 日本海洋学会岡田賞, 1999年3月 日産科学賞, 2000年10月 ISI 引用最高荣誉賞, 2003年12月 ベトナム政府フレンドシップメダル, 2004年7月 日本環境化学会学術賞, 2004年10月 日本環境科学会学術賞, 2005年11月 The 2005 SETAC (Society of Environmental Toxicology and Chemistry) Founders Award 国際賞, 2006年6月 日本環境化学会環境化学論文賞, 2007年11月 Excellence in Review Award for Environmental Science & Technology 国際賞, 2007年11月 SETAC/Menzie-Cura Environmental Educational Award 国際賞, 2009年11月 日本学術振興会科学研究費補助金第一段審査貢献表彰, 2010年6月 Marine Pollution Bulletin Highly Cited Author Award 2005-2009, 2010年11月 Environmental Pollution Highly Cited Author Award 2007-2010 (2編), 2011年4月 紫綬褒章, 2012年1月 愛媛大学特別荣誉教授称号, 2015年2月 Fellow of the Society of Environmental Toxicology and Chemistry Award, 2015年4月 愛媛大学理学部ベストレクチャー賞, 2015年5月 廃棄物資源循環学会 Best Paper Award, 2015年6月 日本環境化学会第24回環境化学功績賞, 2016年3月 愛媛大学永年勤続者表彰, 2016年4月 愛媛大学名誉教授称号, 2017年1月 愛媛新聞賞



岩田 久人 IWATA Hisato

【職名】教授 スーパーサイエンス特別コース環境科学コース・理学部生物学科・理工学研究科環境機能科学専攻生物環境科学コース及び先端科学特別コース・大学院医学系研究科兼任 【電話】089-927-8172 【FAX】089-927-8172 【E-mail】iwata.hisato.mz@ehime-u.ac.jp 【学歴】平成6年3月 愛媛大学大学院連合農学研究科生物環境保全学専攻博士課程修了 【学位】平成6年3月 愛媛大学博士（学術）【所属学会】1. 日本環境科学学会, 2. 日本環境会議, 3. 日本環境化学会, 4. 日本 BICER 協議会, 5. 日本環境毒性学会, 6. 日本獣医学会, 7. 日本内分泌攪乱化学物質学会, 8. 日本生化学会, 9. 日本分子生物学会, 10. Society of Environmental Toxicology and Chemistry (SETAC), 11. Society of Toxicology 【専門分野】環境毒性学 【主な研究テーマ】1. 環境汚染物質による生態系の汚染とその毒性影響の解明, 2. 多元的オミックス解析による環境汚染物質の毒性発現機序の解明, 3. 環境汚染物質による毒性影響の多様性および種特異的感受性を決定する分子機構の解明, 4. シトクロム P450 を指標とした化学物質暴露および毒性影響の評価, 5. 野生生物のリスク評価を目指した核内受容体リガンドの網羅的解析法の開発 【受賞歴】1994年9月 QUINTESSENCE Excellence in Environmental Contamination and Toxicology, 2011年7月 第16回生態学琵琶湖賞



国末 達也 KUNISUE Tatsuya

【職名】教授 スーパーサイエンス特別コース環境科学コース・理学部化学科・理工学研究科環境機能科学専攻分子科学コース及び先端科学特別コース兼任 【電話】089-927-8162 【FAX】089-927-8171 【E-mail】kunisue.tatsuya.ew@ehime-u.ac.jp 【学歴】平成16年3月 愛媛大学大学院連合農学研究科生物環境保全学専攻博士課程修了 【学位】平成16年3月 愛媛大学博士（農学）【所属学会】1. 日本内分泌攪乱化学物質学会, 2. 日本環境化学会, 3. 日本廃棄物資源循環学会, 4. Society of Environmental Toxicology and Chemistry (SETAC), 5. American Chemical Society (ACS) 【専門分野】環境化学, 機器分析化学 【主な研究テーマ】1. 多様な動物種に対する化学物質の曝露とリスクの評価, 2. 新規環境汚染物質の探索とアジア地域の汚染, 3. ホルモン様物質の分析法開発と環境毒性学への応用 【受賞歴】2018年5月日本環境化学会学術賞



野見山 桂 NOMIYAMA Kei

【職名】准教授 理学部化学科・理工学研究科環境機能科学専攻分子科学コース兼任 【電話】089-927-8196 【FAX】089-927-8196 【E-mail】keinomi@agr.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成19年3月 熊本県立大学大学院環境共生学研究科環境共生学専攻博士課程修了 【学位】平成19年3月 熊本県立大学博士（環境共生学）【所属学会】1. Society of Environmental Toxicology and Chemistry (SETAC), 2. 日本環境化学会, 3. 日本水環境学会, 4. 日本セトロロジー研究会, 5. American Chemical Society (ACS), 6. 日本内分泌攪乱化学物質学会 【専門分野】1. 水環境化学, 2. 環境分析化学, 3. 異物代謝学 【主な研究テーマ】1. 有機ハロゲン化代謝物の分析法開発と代謝物をマーカーとした比較生物学的研究, 2. 野生高等生物の肝ミクロゾームを用いた有機ハロゲン化合物の / in vitro / 代謝系の確立 3. 哺乳類に残留する有機ハロゲン代謝物の脳移行と甲状腺ホルモンへの影響評価 4. 野生生物に残留する医薬品類および生活関連化学物質 (PPCPs) の蓄積特性に関する研究 5. 極性環境汚染物質の新規分析法開発 6. メタボロミクス, プロテオミクスによる有機ハロゲン代謝物の生体影響評価 7. ペット動物の汚染実態解明とリスク評価 8. 神経伝達物質の高感度分析法の開発 9. 臓器・組織中内因性ホルモンの高感度分析法の開発 【受賞歴】2007年11月日本水環境学会博士研究奨励賞（オルガノ賞）, 2009年10月 第15回日本環境毒性学会・バイオアッセイ研究会合同研究発表会奨励賞, 2016年4月 ソニー・ワールドフォトグラフィーアワード2016, 2018年2月第14回三浦保環境賞奨励賞, 2018年3月 愛媛大学理学部ベストレクチャー賞

2. 研究者要覧



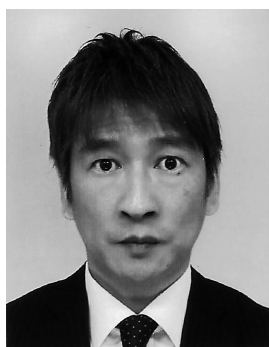
仲山 慶 NAKAYAMA Kei

【職名】講師 理学部生物学科・理工学研究科環境機能科学専攻兼任 【電話】089-927-8132 【FAX】089-927-8133 【E-mail】kei_n@ehime-u.ac.jp 【学歴】平成15年9月 九州大学大学院生物資源環境科学府生物機能科学専攻博士（後期）課程修了 【学位】平成15年9月 九州大学博士（農学） 【所属学会】1. 日本環境毒性学会, 2. 日本水産学会, 3. 日本環境化学会, 4. Society of Environmental Toxicology and Chemistry (SETAC) 【専門分野】1. 環境毒性学, 2. 水産化学 【主な研究テーマ】1. トキシコゲノミクスおよびメタボロミクスによる化学物質の毒性影響の評価およびメカニズムの解明, 2. 化学物質の複合暴露による毒性影響の評価手法の開発, 3. 複合的な環境要因の変化に対する生体応答の詳細解析, 4. 有機汚染物質が魚類の発生や脳神経系および行動に及ぼす影響の解明 【受賞歴】2006年9月第12回バイオアッセイ研究会・日本環境毒性学会合同研究発表会奨励賞, 2015年9月平成27年度日本環境毒性学会 CERI 学会賞.



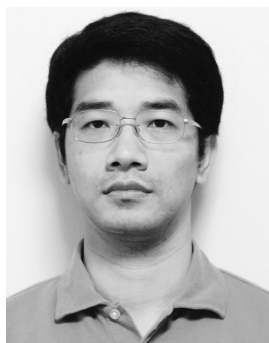
高橋 真 TAKAHASHI Shin

【職名】兼任教員（大学院農学研究科生物環境学専攻 教授） 【電話】089-946-9907 【E-mail】takahashi.shin.mu@ehime-u.ac.jp 【学歴】平成12年3月愛媛大学大学院連合農学研究科生物環境保全学専攻博士課程修了 【学位】平成12年3月 愛媛大学博士（農学） 【所属学会】1. 日本環境科学会会員, 2. 日本環境毒性学, 3. 日本内分泌攪乱化学物質学会, 4. 日本環境化学会, 5. 廃棄物資源循環学会, 6. American Chemical Society (ACS), 7. Society of Environmental Toxicology and Chemistry (SETAC) 【専門分野】1. 環境化学, 2. 環境計測学, 3. 資源循環工学 【主な研究テーマ】1. POPs およびその関連物質による地球環境汚染の実態と時空間分布の解明, 2. アジア途上国等における非制御的廃棄物処理に伴う環境負荷および生体影響の評価, 3. 先端機器分析と生物学的検定法を統合した影響指向の環境評価法の確立と応用 【受賞歴】2014年7月京都大学環境衛生工学会最優秀プロジェクト賞, 2015年5月 廃棄物資源循環学会 Best Paper Award



石橋 弘志 ISHIBASHI Hiroshi

【職名】兼任教員（大学院農学研究科生物環境学専攻 准教授） 【電話】089-946-9583 【FAX】089-946-9583 【E-mail】hiroishi@agr.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成15年3月 長崎大学大学院生産科学研究科海洋資源学専攻博士課程修了 【学位】平成15年3月 長崎大学博士（学術） 【所属学会】1. 日本内分泌攪乱化学物質学会, 2. 日本環境毒性学会, 3. 日本水環境学会 【専門分野】生態毒性学 【主な研究テーマ】1. 環境汚染物質による生態毒性影響とその発現機序の解明, 2. 核内受容体—リガンド相互作用の統合ケミカルスクリーニング評価系の開発, 3. 医薬品・生活関連物質による環境汚染と水生生物に対する毒性影響およびリスク評価に関する研究, 4. 造礁サンゴの白化メカニズム解明と生態系保全に関する研究 【受賞歴】2001年1月 日本水環境学会九州支部学術奨励賞, 2008年3月 International Symposium on Biological Response to Chemical Pollutants Best Poster Award, 2011年7月 日本環境化学会第18回環境化学論文賞, 2012年7月 日本毒性学会第2回ファイザー賞



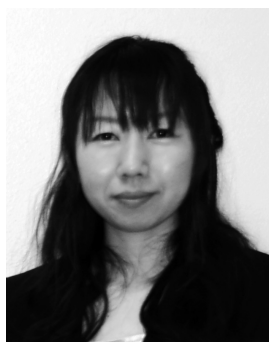
グエン・ミン・トゥエ Nguyen Minh Tue

【職名】 研究員 【電話】 089-927-8196 【FAX】 089-927-8196 【E-mail】 nguyen.minh_tue.vp@ehime-u.ac.jp 【学歴】 平成17年3月 スイス連邦工科大学大学院環境科学修士課程修了 【学位】 平成22年9月 愛媛大学博士（理学） 【専門分野】 1. 環境化学, 毒性学 【主な研究テーマ】 1. アジア地域の廃棄物処理活動に由来する内分泌攪乱化学物質の曝露影響評価 2. バイオアッセイおよび GC (LC) –TOFMS を用いた内分泌攪乱化学物質の毒性同定・評価手法の確立



落合 真理 OCHIAI Mari

【職名】 研究員 【電話】 089-927-8194 【FAX】 089-927-8194 【E-mail】 ochiai@agr.ehime-u.ac.jp 【学歴】 平成26年3月 愛媛大学大学院理工学研究科環境機能科学専攻博士後期課程修了 【学位】 平成26年3月 愛媛大学博士（理学） 【所属学会】 1. 日本環境化学会, 2. 日本セトロロジー研究会, 3. Society of Environmental Toxicology and Chemistry (SETAC), 4. The Endocrine Society, 5. The Society for Marine Mammalogy 【専門分野】 1. 環境化学, 2. 環境毒性学 【主な研究テーマ】 鯨類における有機ハロゲン代謝物の脳内移行とそのリスク評価 【受賞歴】 2015年6-7月 第65回リンダウ・ノーベル賞受賞者会議 選抜派遣（文部科学省）, 2013年8月 第22回環境化学討論会 優秀学生賞, 2013年12月 20th Biennial Conference on the Biology of Marine Mammals, Student Travel Grant (US\$400), 2013年2月 SETAC 3rd Young Environmental Scientists (YES) Meeting, Travel Grant (€1100)



田上 瑠美 TANOUÉ Rumi

【職名】 研究員 【電話】 089-927-8174 【FAX】 089-927-8174 【E-mail】 tanoue.rumi.lw@ehime-u.ac.jp 【学歴】 平成27年3月 愛媛大学大学院理工学研究科博士後期課程修了 【学位】 平成27年3月 愛媛大学博士（理学） 【所属学会】 日本環境化学会, 日本水環境学会, 日本環境毒性学会 【専門分野】 1. 環境科学 2. 環境分析化学 【主な研究テーマ】 1. 微量環境汚染化学物質の分析法開発 2. 生理活性化学物質の水生生物への移行残留性とその影響の解析 【受賞歴】 2011年7月 第20回環境化学討論会「優秀学生賞」（博士前期課程の部）, 2012年7月 第21回環境化学討論会「優秀学生賞」（博士後期課程の部）, 2013年8月 第22回環境化学討論会「最優秀学生賞」（博士後期課程の部）, 2014年11月 SETAC North America 35th Annual Meeting Student Travel Award (USA), 2016年9月 第22回日本環境毒性学会研究発表会若手研究奨励賞, 2016年9月 平成28年度日本水環境学会博士研究奨励賞（オルガノ賞）優秀賞, 2017年6月 第26回環境化学討論会「優秀発表賞」（35歳以下の社会人, 若手研究者, および博士後期課程学生の部）



グオ・ジーファ Guo Jiahua

【職名】 研究員 【電話】 089-927-8194 【FAX】 089-927-8194 【E-mail】 guo.jiahua.vu@ehime-u.ac.jp 【学歴】 平成27年4月 University of York (UK), Environment Department Environment Science 博士課程修了 【学位】 平成27年4月 Ph.D. University of York (UK) 【所属学会】 1. Society of Environmental Toxicology and Chemistry (SETAC), 【専門分野】 1. Ecotoxicology 2. molecular toxicology 3. pharmaceutical and personal care products (PPCPs) 4. algal physiology 5. chicken embryos 6. exposure and effects modelling 7. environment risk assessment 【受賞歴】 2016年 KM Stott Prize for best thesis of the year in the Environment Department, University of York, 2016年 Best Published Paper Demonstrating an Application of Risk Assessment Award in 2016, Society of Toxicology (SOT).

2. 研究者要覧



パク・スミン Bak Sumin

【職名】 研究員 【電話】 089-927-8194 【FAX】 089-927-8194 【E-mail】 bak.sumin.vk@ehime-u.ac.jp 【学歴】 平成29年2月 University of Kyung Hee (Korea), Department of Life and Nanopharmaceutical Sciences 博士課程修了 【学位】 平成29年2月 Ph.D University of Kyung Hee, Doctor of Philosophy in Nanopharmaceutical Science 【専門分野】 1.Ecotoxicology 2. molecular toxicology 3.environment risk assessment 【受賞歴】 2017年 Outstanding Graduate Student Award 2016; BK21 PLUS Integrated Education and Research Center for Nature-Inspired Drug Development Targeting Healthy Aging, 2017, 2012 年 Best Presentation Award; Evaluation of dioxin susceptibility by using isoform specific-TCDD equivalency features and in silico analysis of aryl hydrocarbon receptor from red sea bream, The Korean Society of Environmental Health and Toxicology, 2012



後藤 哲智 GOTO Akitoshi

【職名】 研究員 【電話】 089-927-8174 【FAX】 089-927-8174 【E-mail】 goto.akitoshi.xn@ehime-u.ac.jp 【学歴】 平成30年3月 愛媛大学大学院理工学研究科博士後期課程修了 【学位】 平成30年3月 愛媛大学博士（理学） 【所属学会】 日本環境化学会, 日本質量分析学会 【専門分野】 1. 環境化学, 2. 質量分析学 【主な研究テーマ】 1. 日本沿岸におけるハロゲン化ダイオキシン類の時空間分布と発生起源の解明 【受賞歴】 2014年5月 第23回環境化学討論会「最優秀学生賞」(博士後期課程の部), 2015年6月 第24回環境化学討論会「最優秀学生賞」(博士後期課程の部), 2017年5月 第65回質量分析総合討論会「ベストプレゼンテーション賞・優秀賞」(口頭発表部門)



カネルバ・ミレラ・マリア Kanerva Mirella Maria

【職名】 日本学術振興会外国人特別研究員 【電話】 089-927-8194 【FAX】 089-927-8194 【E-mail】 kane-207@dpc.ehime-u.ac.jp 【学歴】 平成28年8月 University of Turku (Finland), Department of Biology, Division of Physiology and Genetics, Laboratory of Animal Physiology 【学位】 平成26年12月 PhD University of Turku (Finland) 【専門分野】 1.Ecophysiology 2. Ecotoxicology 3.Oxidative stress 4. Omics 5.non-model organisms 【受賞歴】 none unless travel grants etc. are considered as awards then: travel grants from: 2012 University of Turku, travel grant, 2011 Society for experimental Biology, travel grant, 2011 Biological interactions graduate school, grant for course, 2010 University of Turku foundation, travel grant, 2010 Finnish Concordia Fund, travel grant

生態系解析部門



鈴木 聡 SUZUKI Satoru

【職名】 教授 農学部生物環境学科・スーパーサイエンス特別コース環境科学コース・農学研究科生物環境学専攻・連合農学研究科生物環境保全学専攻兼任 【電話】 089-927-8552 【FAX】 089-927-8552 【E-mail】 ssuzuki@ehime-u.ac.jp 【学歴】 昭和60年9月 北海道大学大学院薬学研究科博士課程製薬化学専攻修了 【学位】 昭和60年9月 北海道大学薬学博士 【所属学会】 1. 日本微生物生態学会, 2. 国際微生物生態学会, 3. 日本海洋学会, 4. 日本細菌学会 【専門分野】 1. 環境微生物学, 2. 環境分子生物学, 3. 生態系生化学 【主な研究テーマ】 1. 薬剤耐性遺伝子の環境での伝播と変異の研究, 2. 海洋中溶存態タンパク質の形成と分解過程に関する研究 【受賞歴】 1999年 日本魚病学会研究奨励賞, 2001年 日本微生物生態学会論文賞, 2017年度 愛媛大学農学部ベストティーチャー賞



北村 真一 KITAMURA Shin-Ichi

【職名】准教授 理学部生物学科・理工学研究科環境機能科学専攻兼任 【電話】089-927-8998 【FAX】089-927-8998 【E-mail】kitamura@ehime-u.ac.jp 【学歴】平成11年 高知大学大学院農学研究科栽培漁業学専攻修士課程修了 【学位】平成15年3月 北海道大学博士（水産科学） 【所属学会】1. 日本魚病学会, 2. 韓国魚病学会, 3. 日本水産学会, 4. 日本微生物生態学会 【専門分野】魚病学 【主な研究テーマ】1. ヒラメのスクーチカ症に関する研究, 2. マボヤの被囊軟化症に関する研究 【受賞歴】2012, 2013, 2017年度 愛媛大学理学部ベストティーチャー賞



大林由美子 OBAYASHI Yumiko

【職名】助教 農学部生物環境学科・農学研究科生物環境学専攻兼任 【電話】089-927-8551 【FAX】089-927-8551 【E-mail】obayashi.yumiko.nn@ehime-u.ac.jp 【学歴】平成14年 名古屋大学大学院理学研究科博士課程後期課程地球惑星理学専攻修了 【学位】平成14年12月 名古屋大学博士（理学） 【所属学会】1. 日本海洋学会, 2. Association for the Sciences of Limnology and Oceanography, 3. 日本微生物生態学会, 4. 日本地球惑星科学連合, 5. 日本分析化学会 【専門分野】1. 生物地球化学, 2. 微生物生態学 【主な研究テーマ】1. 海洋での有機物の微生物分解に関する研究, 2. 水圏生態系における微生物間相互作用に関する研究 【受賞歴】2016年度 愛媛大学農学部ベストティーチャー賞



大森 浩二 OMORI Koji

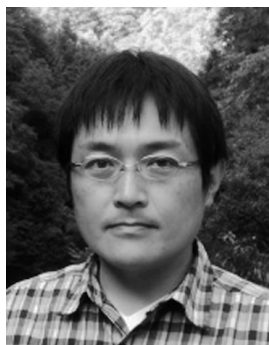
【職名】兼任教員（社会共創学部環境デザイン学科 教授） 【電話】089-927-9643 【FAX】089-927-9630 【E-mail】omori.koji.mj@ehime-u.ac.jp 【学歴】昭和58年3月 九州大学理学研究科修士課程修了 【学位】昭和60年1月 九州大学理学博士 【所属学会】1. 日本生態学会, 2. 日本ベントス学会, 3. 日本海洋学会沿岸海洋部会, 4. 個体群生態学会 【専門分野】1. 水域生態学, 2. 生態系生態学 【主な研究テーマ】1. 基礎生態学解析, 2. 河川・流域生態系の解析, 3. 沿岸海洋生態系の解析



渡辺 幸三 WATANABE Kozo

【職名】兼任教員（大学院理工学研究科生産環境工学専攻 教授） 【電話】089-927-9847 【FAX】089-927-9847 【E-mail】watanabe_kozo@cee.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成17年東北大学大学院工学研究科博士課程後期修了 【学位】平成17年3月 東北大学博士（工学） 【所属学会】1. 土木学会, 2. 応用生態工学会, 3. 日本熱帯医学学会, 4. 日本水環境学会 【専門分野】1. 応用生態工学, 2. 分子進化生物学, 3. 生態疫学 【主な研究テーマ】1. DNA 情報を活用した正確・迅速・安価な河川生態系の種多様性評価技術の開発, 2. 適応進化の観点から流域環境変化が遺伝子・種レベルの生物多様性に及ぼす影響評価, 3. 熱帯バクテリア感染症制御を目的とした分子生物学的調査（例、フィリピンとインドネシアのデング熱媒介蚊調査） 【受賞歴】平成26年度地球環境優秀講演賞, 日本水環境学会平成21年年間優秀論文賞（メタウォーター賞）, 平成16年度東北大学総長賞, 平成15年度土木学会論文奨励賞

2. 研究者要覧



三宅 洋 MIYAKE Yo

【職名】兼任教員（大学院理工学研究科生産環境工学専攻 准教授）【電話】089-927-9836 【FAX】089-927-9836 【E-mail】miyake@cee.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成14年3月 京都大学大学院理学研究科博士後期課程生物科学専攻修了 【学位】平成14年3月 京都大学博士（理学）【所属学会】1. 日本生態学会, 2. Society for Freshwater Science, 3. 応用生態工学会, 4. Ecological Society of America, 5. 日本陸水学会, 6. 土木学会 【専門分野】1. 応用生態工学, 2. 河川生態学 【主な研究テーマ】1. 流況が河川生物の広域分布に及ぼす影響の解明, 2. 干上がりが河川生物分布・動態に及ぼす影響の解明, 3. 河川性底生動物を指標とした河川環境の評価, 4. 集水域特性が河川性底生動物群集に及ぼす影響の解明. 【受賞歴】2002年3月生態学会日本生態学会ポスター発表優秀賞



渡辺 誠也 WATANABE Seiya

【職名】兼任教員（大学院農学研究科生命機能学専攻 教授）【電話】089-946-9848 【FAX】089-946-9848 【E-mail】irab@agr.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成15年3月北海道大学大学院理学研究科生物科学専攻修了 【学位】平成15年3月 北海道大学博士（理学）【所属学会】1. 日本生化学, 2. 日本農芸化学会, 3. 日本生物工学会 【専門分野】1. 生化学, 2. 分子生物学, 3. タンパク質工学 【主な研究テーマ】1. 微生物の新規代謝経路の解明, 2. 微生物酵素の産業応用

国際・社会連携部門



高菅 卓三 TAKASUGA Takumi

【職名】客員教授（株式会社島津テクノリサーチ 執行役員 環境事業部事業部長）【電話】075-811-3183 【FAX】075-821-7837 【E-mail】t_takasuga00@shimadzu-techno.co.jp 【学歴】昭和60年3月 愛媛大学大学院農学研究科環境化学専攻修士課程修了 【学位】平成13年5月 東京大学博士（農学）, 平成15年2月 スウェーデン Örebro 大学名誉博士 【所属学会】1. 日本環境化学会, 2. 日本分析化学会, 3. 日本内分泌攪乱化学物質学会, 4. 廃棄物資源循環学会 【専門分野】1. 環境化学, 2. 分析化学, 3. 環境分析化学, 4. 廃棄物処理 【主な研究テーマ】1. 廃棄物関連試料及び環境試料中の微量有機ハロゲン化合物の分析化学的研究, 2. POPs モニタリングにおける大気・生物試料の超高感度分析方法の最適化に関する研究, 3. 臭素化ダイオキシン類及び臭素系難燃剤の超微量測定方法の開発, 4. GC/MS (EI 及び NCI) 法を用いた生物試料中有機臭素化合物の調査研究, 5. GC-HR-TOFMS を用いた環境試料の微量有機ハロゲン化合物の検索と同定および高感度・高精度スクリーニング分析, 6. 新規 POPs を含む各種有機ハロゲン化合物等の測定分析法開発 【受賞歴】1994年6月 日本環境化学会技術賞, 1997年6月 日本環境化学会学術賞, 1999年11月 環境測定分析功労者賞（社団法人日本環境測定分析協会）, 2003年2月 スウェーデン Örebro 大学名誉博士, 2009年5月 協会功労者賞（社団法人日本環境測定分析協会）



クルンタチャラム・カンナン KANNAN Kurunthachalam

【職名】客員教授（State University of New York at Albany 教授）【学歴】平成6年3月 愛媛大学大学院連合農学研究科博士課程修了 【学位】平成6年3月 愛媛大学博士（学術）【所属学会】1. Society of Environmental Toxicology and Chemistry (SETAC), 2. American Chemical Society (ACS), USA, 3. Society of Toxicology (SOT), USA, 4. American Society for the Advancement of Science, USA 【専門分野】環境化学 【主な研究テーマ】有機フッ素化合物による環境汚染の実態解明 【受賞歴】Thomson ISI, Highly Cited Researcher in Environment/Ecology in 2005, ranked #8 in 2005, #7 in 2007, Thomson ISI, Highly Cited Researcher- Special Topics- PCBs, ranked #17 in 2003, United States Society of Environmental Toxicology and Chemistry (SETAC) /Weston F. Roy Award in Environmental Chemistry in 1999, Excellence in Review Award by American Chemical Society Journal – Environmental Science and Technology in 2004, ISI Highly Top 10 Highly Cited Researcher in Environment/Ecology in 2012, ES&T Super Reviewer Award in 2013



呉 明柱 OH Myung-Joo

【職名】客員教授（韓国国立全南大学校水産生命医学科教授）【電話】+82-61-659-3173 【FAX】+82-61-659-3173 【E-mail】ohmj@chonnam.ac.kr 【学歴】北海道大学大学院水産科学研究科博士課程修了 【学位】平成7年3月 北海道大学水産学博士 【所属学会】1. ヨーロッパ魚病学会, 2. 韓国魚病学会, 3. 日本魚病学会, 4. 韓国水産学会, 5. 世界水産学会, 6. アジア水産学会, 7. 日本水産学会, 8. 韓国マリンバイオテクノロジー学会, 9. 韓国生物科学会, 10. 韓国微生物学会 【専門分野】1. 魚病学, 2. 病原微生物学 【主な研究テーマ】1. 魚類ウイルス病に関する研究, 2. 食中毒原因病原体の分子疫学 【受賞歴】1. 2004年 Best Researcher prize, The Korean Ministry of Marine and Fisheries, 2. 2001年 Best poster presentation prize at the European Association of Fish Pathologists (EAFP) 10th International Conference on Diseases of Fish and Shellfish, 3. 2001年 Best Researcher prize, The Korean Ministry of Marine and Fisheries



金 恩英 KIM Eun-Young

【職名】客員准教授（韓国慶熙大学准教授）【電話】+82-2-961-2310 【E-mail】eykim08@khu.ac.kr 【学歴】平成9年3月 愛媛大学大学院連合農学研究科博士課程生物環境保全学専攻修了 【学位】平成9年3月 愛媛大学博士（学術）【所属学会】1. 日本環境化学会, 2. 日本環境毒性学会, 3. 日本内分泌攪乱化学物質学会, 4. Society of Environmental Toxicology and Chemistry, 5. Society of Toxicology 【専門分野】環境毒理学 【主な研究テーマ】1. 野生生物における毒性影響の感受性を考慮した環境影響評価システムの開発, 2. 内分泌攪乱化学物質に対する種特異的反応・感受性のバイオマーカーの検索

3. 研究プロジェクト

(平成29年度)

3.1 科学研究費等

No.	部 門	研究担当者	区分	新規/継続	研究種目	研 究 課 題	金額 (円)	概 要
1	環境動態解析部門	郭 新宇	代表	継続	新学術領域研究 (研究領域提案型)	黒潮とその源流域における混合過程・栄養塩輸送と生態系の基礎構造の解明	17,810,000	船舶観測と数値モデルより、黒潮の代表的な海域（トカラ海峡、ルソン海峡）における鉛直混合および栄養塩輸送過程を調べる。
2	環境動態解析部門	郭 新宇	代表	継続	基盤研究 (B) 一般	黒潮本流域と黒潮内側域における栄養塩の水平及び鉛直輸送量の解明	4,867,448	数値生態系モデルより黒潮本流域の栄養塩収支に関わる水平及び鉛直輸送量を算出し、支配メカニズムを解明する。
3	環境動態解析部門	郭 新宇	分担	継続	新学術領域研究	海洋混合学の創設：物質循環・気候・生態系をつなぐ統合的理解の推進 (代表：東京大学 安田 一郎)	910,000	新学術領域研究 (OMIX) を推進するための総括班及び若手研究者の活動をサポートする。
4	環境動態解析部門	加 三千宣	代表	新規	挑戦的萌芽	堆積物中の環境 DNA を用いた浮魚類の個体数復元に関する研究	3,770,000	別府湾海底堆積物から、カタクチイワシ・マアジ等の魚の環境 DNA の検出と DNA 量による魚の個体数復元の可能性の検討を行う。
5	環境動態解析部門	加 三千宣	分担	新規	基盤 (C) 一般	琵琶湖におけるプランクトンとウィルスの過去100年における相互作用解明への挑戦 (代表：松山大学 槻木 玲美)	910,000	琵琶湖湖底堆積物の動物プランクトン及びウィルスの DNA を抽出し、堆積物の年代を Pb-210法により決定して、プランクトンとウィルスの個体群動態と相互作用の歴史的変遷を解明する。
6	環境動態解析部門	森本 昭彦	分担	継続	基盤研究 (B) 海外	ジャカルタ湾の Giant Sea Wall 建設が海洋環境に与える影響について (代表：佐賀大学 速水 祐一)	689,000	インドネシアの首都ジャカルタに面するジャカルタ湾の海洋環境、特に貧酸素の実態を把握するための船舶観測を年4回実施し、貧酸素化の季節・経年変化を明らかにする研究
7	環境動態解析部門	加 三千宣	分担	継続	基盤研究 (A)	別府湾柱状堆積物の解析にもとづく過去8000年間の太平洋十年規模変動の復元 (代表：北海道大学 山本 正伸)	1,300,000	別府湾堆積物柱状試料を用いたイワシ類魚鱗堆積量の過去7000年間の記録を明らかにする研究を行ってきた。十年規模変動以外にも長期的なトレンドが見られ、過去7000年間の気候変動に対する応答様式の解明が期待される。
8	環境動態解析部門	吉江 直樹	代表	新規	基盤 (B) 一般	超高解像度観測と数値モデルを組み合わせた沿岸域における栄養塩動態の解析	6,630,000	複雑な混合過程が卓越し高い生物生産を誇る瀬戸内海において、近年実用化した高応答性硝酸計と乱流計を用いた超高解像度観測を実施し沿岸域の混合・栄養塩供給過程の実態を捉え、数値モデルによりそれらを再現・解析し、沿岸域の栄養塩動態の解明を目指す。
9	環境動態解析部門	郭 新宇	代表	新規	基盤 (B) 一般	万年スケールでみた黒潮の流路変遷と黒潮分岐流の形成メカニズム	5,330,000	最終氷期最盛期から現在までの海水準変動と古気候モデルから得られる大気場を海洋大循環モデルに導入し、過去2万年間の黒潮の変遷過程および対馬暖流・津軽暖流・宗谷暖流の形成過程を再現する。
10	化学汚染・毒性解析部門	田辺 信介	代表	継続	基盤 (A) 一般	新規残留性有害化学物質における広域汚染・生物蓄積の実態解明と生体影響評価	14,430,000	新規 POPs および代替物質を対象に、アジア太平洋地域の環境・生態系汚染の現状と経年変化およびバイオアッセイ等による影響評価の基礎データを集積・解析し、環境改善や対策技術構築のための科学的根拠を提示する。

11	化学汚染・毒性解析部門	野見山 桂	代表	継続	基盤 (B) 一般	オミックス解析によるイエネコの毒性発現機構の解明	4,550,000	イエネコを対象に PCBs および PBDEs の in vivo 曝露試験を実施し、臓器組織を対象としたメタボローム解析により、毒性作用機序を解明する。
12	化学汚染・毒性解析部門	野見山 桂	分担	継続	基盤研究 (B) 一般	内分泌かく乱物質の網羅解析とマスバランス解析に基づくヒト曝露・生態リスク評価 (代表: 愛媛大学 高橋 真)	715,000	GCxGC-TOFMS 等の先端分析機器やマススペクトル自動解析プログラム等を組み合わせた内分泌攪乱化学物質の網羅解析を行って、ヒトの住環境およびその周辺に生息する野生動物を対象にその汚染と曝露実態を解明する。
13	化学汚染・毒性解析部門	岩田 久人	代表	継続	基盤研究 (S)	多元的オミックス解析による化学物質-細胞内受容体シグナル伝達攪乱の種差の解明	40,950,000	化学物質が細胞内受容体を介して惹起する影響を多元的オミックス解析によって解明する。
14	化学汚染・毒性解析部門	岩田 久人	分担	継続	基盤研究 (B)	大規模災害による重油・PAH 汚染の未来予測と長期リスク評価システムの構築 (代表: 熊本大学 中田 晴彦)	390,000	東日本大震災による重油流出事故の魚類への影響をモニタリングする。
15	化学汚染・毒性解析部門	仲山 慶	代表	新規	基盤研究 (C)	下水処理水に残留する医薬品等による魚類の感染症誘発に対するリスク評価	1,430,000	下水処理水に残留する医薬品等を対象に、病原体に対する感受性の変化をエンドポイントとした免疫毒性の評価を行い、魚類における感染症の発症リスクへの寄与を明らかにする。
16	化学汚染・毒性解析部門	国末 達也	分担	継続	環境研究総合推進費補助金	廃棄物発生抑制概念のシステム分析と社会応用 (代表: 京都大学 酒井 伸一)	2,000,000	ガーナの e-waste リサイクル処理場における PBDEs と臭素化ダイオキシン類の汚染実態を解明した。
17	化学汚染・毒性解析部門	芳之内結加	代表	継続	特別研究員奨励費	環境汚染物質によるバイカルアザラシ内分泌かく乱の統合的評価	600,000	環境汚染物質と ER 内因性リガンドとの複合曝露による ER シグナル伝達かく乱の分子メカニズムについて解明することを目的し、化学物質による ER シグナル伝達経路に関連するタンパク質の同定を試みた。
18	化学汚染・毒性解析部門	KANERBA MIRELLA	代表	新規	特別研究員奨励費	環境汚染および環境変動によるバルト海サケの遺伝子発現への影響	1,200,000	バルト海サケを対象に、環境汚染物質曝露量およびその他環境変動要因が遺伝子発現へ及ぼす影響について評価する。
19	生態系解析部門	鈴木 聡	代表	継続	基盤 (A) 一般	多剤耐性遺伝子の環境中残存機構と人への暴露リスク評価	7,930,000	薬剤耐性遺伝子が人・獣医療現場から環境中に流入した後、自然環境でどのような機構で残存・拡散するのかを解明することを目的とする。本研究では未知の未培養菌 (yet-to-be cultured 菌) がリザーバとなってバイオフィルム中に残存し、生物由来物質がキャリアとなって安定化して拡散する機構を解明する。“未培養菌”を含むマイクロコズム実験および現場のリザーバ、キャリア中の耐性遺伝子網羅解析 (レジストーム) と定量的調査から、環境遺伝子のリスク評価を行い、暴露低減策を提言する。
20	生態系解析部門	鈴木 聡	分担	新規	基盤 (B) 海外	中東・アフリカ・南米の水質汚濁解析による都市排水ユニバーサルマーカの開発 (代表: 東京農工大学 高田 秀重)	390,000	マーカ化合物で汚染源の特定、排水種別識別、負荷強度の把握等の情報を得る。水溶性マーカでインド、台湾、ベトナム、ガーナ日本の特徴を明らかにしつつある。
21	生態系解析部門	北村 真一	代表	継続	基盤研究 (B) 海外	マボヤ被囊軟化症の防疫対策に関する研究	4,680,000	被囊軟化症発生時に減少するタンパク質として、HR-29が同定された。本タンパク質を無細胞タンパク質合成系で大量発現し、抗体を作製した。本年度は、本合成タンパク質を用いた分解実験を行う予定である。

・金額は、平成29年度に受け入れた直接経費（補助金、基金）及び間接経費の合計額。

3. 研究プロジェクト

3. 2 共同研究

なし

3. 3 受託研究

No	部 門	研究担当者	研 究 課 題	委 託 者	金額 (円)	概 要
1	環境動態解析部門	郭 新宇	環境研究総合推進費 「日本海高次生態系モデルの構築」	(環境省) 公益財団法人環日本海環境協力センター	6,224,000	日本海におけるスルメイカ・ズワイガニの幼生を対象とする輸送・生残モデルの構築
2	環境動態解析部門	郭 新宇	平成29年度漁業・養殖業に係る気候変動の影響評価委託事業 「西日本沿岸域の藻場生態系への気候変動の影響評価と高精度予測技術の開発」	(農林水産省) 独立行政法人水産総合研究センター	2,700,000	黒潮流域から豊後水道までの水温変動トレンドの実態及びメカニズムの解明
3	環境動態解析部門	郭 新宇	平成29年度食品産業科学技術研究推進事業 「ICTを利用した養殖魚の感染性疾病预防システム構築のため基盤研究」	(農林水産省) 南予水産研究センター	5,500,000	愛媛県愛南町福浦湾での魚病の発生に影響する物理環境場のモニタリング及び宇和海内湾における海水交換率の予測式の設計を行った。
4	環境動態解析部門	森本 昭彦	環境研究総合推進費 「日本海環境変動予測モデルの構築」	(環境省) 公益財団法人環日本海環境協力センター	5,880,000	東シナ海から日本海へ流入する栄養塩量の変化に伴う日本海の低次生態系の変動を解明するための物理・低次生態系結合モデルを開発する。
5	環境動態解析部門	郭 新宇 森本 昭彦	IoT サービス創出支援事業 海洋物理モデルと海況 4 D ビッグデータを活用した水産業支援 “IoT 海況予測サービス” の創出	総務省	2,589,840	宇和海の水温データと数値モデル結果を活用し、水温変動の予測に向けた基盤整備を行った。
6	環境動態解析部門	吉江 直樹	平成29年度漁業・養殖業に係る気候変動の影響評価委託事業 「海洋生態系モデルを用いた餌料環境と小型浮魚類の温暖化影響評価モデルの開発」	(農林水産省) 独立行政法人水産総合研究センター	644,000	低次生態系モデルを用いて日本周辺海域の低次生態系を再現し、気候変動にどのように応答するかについて研究した。
7	環境動態解析部門	吉江 直樹	平成29年度漁場環境・生物多様性保全総合対策委託事業 「赤潮・貧酸素水塊対策推進事業」 「瀬戸内海等での有害赤潮発生機構解明と予察・被害防止等技術開発」	(水産庁) 水産総合研究センター	728,000	西部瀬戸内海におけるカレンアミキモトイ赤潮の発生機構と海洋環境との関連性の解析および海洋環境モニタリングを推進
8	化学汚染・毒性解析部門	国末 達也	平成29年度 EXTEND2010に係る野生生物の生物学的知見研究 「座礁・漂着鯨類における新規 POPs および POPs 代替物質の蓄積特性とリスク評価に関する研究」	環境省	4,000,000	北海道沿岸に座礁したネズミイルカとイシイルカにおける新規 POPs の蓄積特性を解析した。
9	化学汚染・毒性解析部門	岩田 久人	OMICS 解析を用いた環境汚染物質がヒゲクジラ類の精巣発達に与える影響の解明に関する研究	一般財団法人日本鯨類研究所	1,200,000	環境汚染物質がヒゲクジラ類の精巣発達に与える影響を OMICS 技術を用いて評価する。
10	化学汚染・毒性解析部門	仲山 慶	環境中の化学物質のモニタリング情報を管理するプラットフォーム (ChemTHEATRE) の構築	一般社団法人日本化学工業協会	7,500,000	環境中の化学物質濃度に関する情報を収録するデータベースの構築を進めている。
11	化学汚染・毒性解析部門	仲山 慶	平成28年度化学物質管理に関する科学的知見の充実に向けた調査研究 「QSAR で推定される生体反応速度の AE 同族間での比較と有害性評価への摘要の試み」	経済産業省	4,997,975	界面活性剤の一種であるアルコールエトキシレート (AE) を対象に、エチレンオキシサイド (EO) 付加モル数の異なる同族体をそれぞれメダカに暴露し、同族体間での毒性影響発現までの時間の差は、取込速度の違いに依存することを示した。
12	化学汚染・毒性解析部門	仲山 慶	平成29年度環境総合推進費 「排水で検出される臭素系ダイオキシン類の魚類毒性評価」	(環境省) 国立環境研究所	5,200,000	メダカの初期胚を用いて臭素系ダイオキシン類の毒性評価を行い、導き出した毒性等量から毒性ポテンシャルの化合物間比較を行う。

・金額は、平成29年度に受け入れた直接経費及び間接経費の合計額。

3. 4 各種研究助成金（民間・財団等）、奨学寄付金等

No.	部 門	研究担当者	研 究 課 題	寄 附 者	金額 (円)	概 要
1	環境動態解析部門	加 三千宣	浮魚類の環境 DNA による個体数復元に関する古海洋学的研究	公益財団法人アサヒグループ 学術振興財団	850,000	別府湾堆積物中のマイワシ・カタクチイワシ・マアジの環境 DNA 量を定量 PCR を用いて定量し、魚鱗堆積量・漁獲量記録とを比較し、環境 DNA 量が海底堆積物試料の個体数指標として適用できるかを明らかにする。
2	化学汚染・毒性解析部門	田上 瑠美	水環境中に残留する生活関連化学物質の魚類への影響評価～動態学および動力学的機構の定量的解析～	公益財団法人日本科学協会	800,000	試験魚を用いた化学物質曝露試験を実施し、生物濃縮係数および各種速度論パラメータ（取込速度、排泄速度、半減期など）を解析することにより、化学物質特異または生物種特異な生体残留性を示す生理活性化学物質の探索を目的とした。
3	化学汚染・毒性解析部門	田上 瑠美	下水処理水に含まれる生理活性化学物質の水生生物への移行／残留性の評価	公益財団法人日本生命財団	1,300,000	下水処理水流入河川に棲息する多様な水生生物を対象に、生理活性化学物質の生物移行／残留性を解析し、曝露影響が危惧される化学物質種と生物種の特定を目的とした。
4	生態系解析部門	北村 真一	魚類感染症に関する研究	松岡科学研究所	970,000	魚介類の感染症（リンホシスチス病・スクーチカ症・マボヤ被囊軟化症）の基礎研究および対策に関する研究を行っている。

3. 5 受託事業

No.	部 門	研究担当者	研 究 課 題	委 託 者	金額 (円)	概 要
1	化学汚染・毒性解析部門	岩田 久人	二国間交流事業共同研究・セミナー「天然由来 AHR リガンドを用いた養殖魚の免疫活性剤の開発」	日本学術振興会	1,152,000	天然由来 AHR リガンドを養殖魚に投与し、免疫能の変化について評価する。

・金額は、平成29年度に受け入れた直接経費及び間接経費の合計額。

4. 研究成果

(暦年で2017年に出版、掲載されたもの)

4. 1 著 書

環境動態解析部門

- 1) 吉江直樹 (2017) : 7.3章 瀬戸内海西部における赤潮の変遷, 日本海洋学会編, 海の温暖化—変わりゆく海と人間活動の影響—, 朝倉書店, 129-132.

化学汚染・毒性解析部門

- 1) 田辺信介 (2017) : 10.4.2 アジア沿岸域の有機汚染物質濃度, 環境年表, 平成29-30年, 国立天文台編, 丸善出版, 東京, 437-438.
- 2) 田辺信介 (発起人代表) (2017) : 追悼文集—立川 涼先生と環境化学—, 創風社出版, 松山, 154pp.

生態系解析部門

- 1) Suzuki, S., Pruden, A., Virta, M. and Zhang, T. (Eds.) (2017) : Antibiotic Resistance in Aquatic Systems. Frontiers Media, Lausanne, pp. 107.
- 2) Gebreyes, W. A., Wittum, T., Habing, G., Alali, W., Usui, M. and Suzuki, S. (2017) : Chapter 4. Spread of antibiotic resistance in food animal production systems. 3rd Edition, Foodborne Diseases (Eds. Dodd, C. et al), Elsevier, 105-130.
- 3) Suzuki, S. (2017) : Chapter 5, Asian waters as hot spots of antibiotic resistance genes. Antibiotic Resistance Genes in Natural Environments and Long-Term Effect (Eds. S Mirete and M López Pérez), Nova Science Publishers, Inc., 157-181.
- 4) 北村真一 (2017) : 5-32 魚病被害と微生物, 食と微生物の事典, 北本勝ひこ・春田 伸・丸山潤一・後藤慶一・尾花 望・齋藤勝晴, 朝倉書店, 東京, 460-461.
- 5) Seiya Watanabe (2017) : Hydroxyproline Metabolism in Microorganisms. in Handbook of Microbial Metabolism of Amino Acids, Edited by J.P.F. D' Mello, CABI (Centre for Agriculture and Biosciences International), 142-151.

4. 2 学協会誌等

環境動態解析部門

原 著

- 1) Zhang, J., Guo, X., Zhao, L., Miyazawa, Y., Sun, Q. (2017) : Water exchange across isobaths over the continental shelf of the East China Sea. *Journal of Physical Oceanography*. **47**, 1043-1060.
- 2) Yu, Y., Gao, H., Shi, J., Guo, X., Liu, G. (2017) : Diurnal forcing induces variations in seasonal temperature and its rectification mechanism in the eastern shelf seas of China. *Journal of Geophysical Research-Oceans*. **122**, 9870-9888.
- 3) Tsutsumi, E., Matsuno, T., Lien, R.-C., Nakamura, H., Senjyu, T., Guo, X. (2017) : Turbulent mixing within the Kuroshio in the Tokara Strait. *Journal of Geophysical Research-Oceans*. **122**, 7082-7094.
- 4) Shi, R., Chen, J., Guo, X., Zheng, L.-L., Li, J., Xie, Q., Wang, X., Wang, D.-X. (2017) : Ship observations and numerical simulation of the marine atmospheric boundary layer over the spring oceanic front in the northwestern South China Sea. *Journal of Geophysical Research - Atmospheres*. **122**, 3733-3753.
- 5) Pan, S., Shi, J., Gao, H., Guo, X., Yao, X., Gong, X. (2017) : Contributions of physical and biological processes to phytoplankton biomass enhancement in the surface and subsurface layers during the passage of typhoon Damrey. *Journal*

- of *Geophysical Research- Biogeosciences*. **122**, 212–229.
- 6) Zhu, Z., Zhu, X.-H., Guo, X., Fan, X., Zhang, C. (2017) : Assimilation of coastal acoustic tomography data using an unstructured triangular grid ocean model for water with complex coastlines and islands. *Journal of Geophysical Research-Oceans*. **122**, 7013–7030.
 - 7) Miyazawa, Y., Varlamov, S.M., Miyama, T., Guo, X., Hihara, T., Kiyomatsu, K., Kachi, M., Kurihara, Y., Murakami, H. (2017) : Assimilation of high-resolution sea surface temperature data into an operational nowcast/forecast system around Japan using a multi-scale three-dimensional variational scheme. *Ocean Dynamics*. **67**, 713–728.
 - 8) Tsugeki, N.-K., Kuwae, M., Tani, Y., Guo, X., Omori, K., Takeoka, H. (2017) : Temporal variations in phytoplankton biomass over the past 150 years in the western Seto Inland Sea, Japan. *Journal of Oceanography*, **73**, 309–320.
 - 9) Zhao, R.-X., Zhu, X.-H., Guo, X. (2017) : The impact of monsoon winds and mesoscale eddies on thermohaline structures and circulation patterns in the northern South China Sea. *Continental Shelf Research*, **143**, 240–256.
 - 10) Shi, J., Liu, Y., Mao, X., Guo, X., Wei, H., Gao, H. (2017) : Interannual variation of spring phytoplankton bloom and response to turbulent energy generated by atmospheric forcing in the central Southern Yellow Sea of China: Satellite observations and numerical model study. *Continental Shelf Research*, **143**, 257–270.
 - 11) Zhu, Z.-N., Zhu, X.-H., Guo, X. (2017) : Coastal tomographic mapping of nonlinear tidal currents and residual currents. *Continental Shelf Research*, **143**, 219–227.
 - 12) Li, Z., Wang, H., Guo, X., Liu, Z., Gao, H., Zhang, G. (2017) : Influence of a water regulation event on the age of Yellow River water in the Bohai. *Journal of Ocean University of China*. **16**, 727–737.
 - 13) Kodama, T., Morimoto, A., Takikawa, T., Ito, M., Igeta, Y., Abe, S., Fukudome, K., Honda, N., Katoh, O. (2017) : Presence of high nitrate to phosphate ratio subsurface water in the Tsushima Strait during summer. *J. Oceanography*, **73** (6), 759–769.
 - 14) Inoue M, Shirofumi Y, Furusawa Y, Fujimoto K, Kofuji H, Yoshida K, Nagao S, Yamamoto M, Hamajima Y, Honda N, Morimoto A, Takikawa T, Shiomoto A, Isoda Y, Minakawa M. (2017) : Migration area of the Tsushima Warm Current Branches within the Sea of Japan: Implications from transport of ^{228}Ra . *Continental Shelf Research*. **143**, 167–174
 - 15) Takikawa, T., Watanabe, T., Senjyu, T., Morimoto, A. (2017) : Wind-driven intensification of the Tsushima Warm Current along the Japanese coast detected by sea level difference in the summer monsoon of 2013. *Continental Shelf Research* **143**, 271–277.
 - 16) 吉江直樹：2段階のアクティブラーニングを用いた地域社会と連携した海洋教育. *沿岸海洋研究*, **55**, 1, 11–15.
 - 17) Kuwae, M., Yamamoto, M., Sagawa, T., Ikehara, K., Irino, T., Takemura, K., Takeoka, H., and Sugimoto, T. (2017) : Multidecadal, centennial, and millennial variability in sardine and anchovy abundances in the western North Pacific and climate–fish linkages during the late Holocene. *Progress in Oceanography*, **156**, 86–98.
 - 18) Yamada, K., Takemura, K., Kuwae, M., Yamamoto, M., and Danhara, T. (2017) : Revised ages of late Holocene tephras in Beppu Bay, central Kyushu, southwest Japan. *Quaternary International*, **452** : 33–42.
 - 19) Hyodo, F., Kuwae, M., Sasaki, N., Hayashi, R., Makino, W., Kusaka, S., Tsugeki-Kuwae, N., Ishida, S., Ohtsuki, H., Otomo, K., and Urabe, J. (2017) : Variations in lignin-derived phenols in sediments of Japanese lakes over the last century and their relation to watershed vegetation. *Organic Geochemistry*, **10** : 125–135.
 - 20) Hinata, H., Mori, K., Ohno, K. and Miyao, Y. (2017) : An estimation of the average residence times and onshore-offshore diffusivities of beached microplastics based on the population decay of tagged meso- and macrolitter, *Marine Pollution Bulletin*, **1-2**, 17–26.
 - 21) Fuji, R. and Hinata, H. (2017) : Temporal variability of tsunami arrival detection distance revealed by virtual tsunami observation experiments using numerical simulation and 1-month HF radar observation, *Journal of Oceanography*, *Journal of Oceanography*, **73**, 725–741.
 - 22) 岡本 萌・高橋知幸・藤良太郎・日向博文 (2017) : チリ沿岸で発生する遠地津波を対象とした海洋レーダの観測性能に関する検討, *土木学会論文集 B2 (海岸工学)*, **73** (2), I_1615_I1620.
 - 23) 尾形浩平・藤良太郎・日向博文 (2017) : 仮想津波観測実験に基づく海洋レーダによるリアルタイム津波検知手法の開発, *土木学会論文集 B2 (海岸工学)*, **73** (2), I_433_I438.

化学汚染・毒性解析部門

原 著

- 1) Sousa, A. C. A., Coelho, S. D., Pastorinho, M. R., Taborda-Barata, L., Nogueira, A. J. A., Isobe, T., Kunisue, T., Takahashi, S. and Tanabe, S. (2017) : Levels of TBT and other selected organotin compounds in duplicate diet samples. *Science of the Total Environment*, **574**, 19-23.
- 2) Matsukami, H., Suzuki, G., Someya, M., Uchida, N., Tue, N. M., Tuyen, L. H., Viet, P. H., Takahashi, S., Tanabe, S. and Takigami, H. (2017) : Concentrations of polybrominated diphenyl ethers and alternative flame retardants in surface soils and river sediments from an electronic waste-processing area in northern Vietnam, 2012-2014. *Chemosphere*, **167**, 291-209.
- 3) Nishimura, C., Horii, Y., Tanaka, S., Asante, K. A., Ballesteros, F. Jr., Viet, P. H., Itai, T., Takigami, H., Tanabe, S. and Fujimori, T. (2017) : Occurrence, Profiles, and toxic equivalents of chlorinated and brominated polycyclic aromatic hydrocarbons in E-waste open burning soils. *Environmental Pollution*, **225**, 252-260.
- 4) Goto, A., Tue, N. M., Someya, M., Isobe, T., Takahashi, S., Tanabe, S. and Kunisue, T. (2017) : Spatio-temporal trends of polybrominated dibenzo-*p*-dioxins and dibenzofurans in archived sediments from Tokyo Bay, Japan. *Science of the Total Environment*, **599-600**, 340-347.
- 5) 高橋 真・田辺信介 (2017) : PCB による地球環境汚染と今後の課題, 廃棄物資源循環学会誌, **28 (2)**, 99-111.
- 6) Nomiyama, K., Takaguchi, K., Mizukawa, H., Nagano, Y., Oshioi, T., Nakatsu, S., Kunisue, T. and Tanabe, S. (2017) : Species- and tissue-specific profiles of polybrominated diphenyl ethers and their hydroxylated and methoxylated derivatives in cats and dogs. *Environmental Science & Technology*, **51 (10)**, 5811-5819.
- 7) Kondo, T., Ikenaka, Y., Nakayama, S. M. M., Kawai, Y. K., Mizukawa, H., Mitani, Y., Nomiyama, K., Tanabe, S., Ishizuka, M. (2017) : UDP-glucuronosyltransferase (UGT) 2B subfamily interspecies differences in carnivores. *Toxicological Sciences*, **158 (1)**, 90-100.
- 8) Ishii, C., Nakayama, S. M. M., Ikenaka, Y., Nakata, H., Saito, K., Watanabe, Y., Mizukawa, H., Tanabe, S., Nomiyama, K., Hayashi, T. and Ishizuka, M. (2017) : Lead exposure in raptors from Japan and source identification using Pb stable isotope ratios. *Chemosphere*, **186**, 367-373.
- 9) Mizukawa, H., Nomiyama, K., Nakatsu, S., Yamamoto, M., Ishizuka, M., Ikenaka, Y., Nakayama, S. M. M. and Tanabe, S. (2017) : Anthropogenic and Naturally Produced Brominated Phenols in Pet Blood and Pet Food in Japan. *Environmental Science & Technology*, **51 (19)**, 11354-11362.
- 10) Sakai, S., Yano, J., Hirai, Y., Asari, M., Yanagawa, R., Matsuda, T., Yoshida, H., Yamada, T., Kajiwar, N., Suzuki, G., Kunisue, T., Takahashi, S., Tomoda, K., Wuttke, J., Mähltz, P., Rotter, V. S., Grosso, M., Astrup, T. F., Cleary, J., Oh, G.-J., Liu, L., Li, J., Ma, H., Chi, N. K. and Moore, S. (2017) : Waste prevention for sustainable resource and waste management. *Journal of Material Cycles and Waste Management*, **19 (4)**, 1295-1313.
- 11) Tue, N. M., Goto, A., Takahashi, S., Itai, T., Asante, K. A., Nomiyama, K., Tanabe, S. and Kunisue, T. (2017) : Soil contamination by halogenated polycyclic aromatic hydrocarbons from open burning of e-waste in Agbogbloshie (Accra, Ghana). *Journal of Material Cycles and Waste Management*, **19 (4)**, 1324-1332.
- 12) Takahashi, S., Tue, N. M., Takayanagi, C., Tuyen, L. H., Suzuki, G., Matsukami, H., Viet, P. H., Kunisue, T. and Tanabe, S. (2017) : PCBs, PBDEs and Dioxin-related compounds in floor dust from an informal end-of-life vehicle recycling site in northern Vietnam: contamination levels and implications for human exposure. *Journal of Material Cycles and Waste Management*, **19 (4)**, 1333-1341.
- 13) Goto, A., Tue, N. M., Someya, M., Isobe, T., Takahashi, S., Tanabe, S. and Kunisue, T. (2017) : Occurrence of natural mixed halogenated-*p*-dioxins: specific distribution and profiles in mussels from Seto Inland Sea, Japan. *Environmental Science & Technology*, **51 (20)**, 11771-11779.
- 14) Tanoue, R., Margiotto-Casaluci, L., Huerta, B., Runnalls, T. J., Nomiyama, K., Kunisue, T., Tanabe, S. and Sampter, J. P. (2017) : Uptake and metabolism of human pharmaceuticals by fish: a case study with the opioid analgesic tramadol. *Environmental Science & Technology*, **51 (21)**, 12825-12835.
- 15) Coelho, S. D., Maricoto, T., Pastorinho, M. R., Itai, T., Isobe, T., Kunisue, T., Tanabe, S., Sousa, A. C. A. and Nogueira, A. J. A. (2017) : Cadmium intake in women from the University of Aveiro, Portugal – A duplicate diet study. *Journal of Geochemical Exploration*, **183**, 187-190.

- 16) Sankoda, K., Toda, I., Skiguchi K., Nomiyama, K. and Shinohara, R. (2017) : Aqueous secondary formation of brominated, chlorinated, and mixed halogenated pyrene in presence of halide ions. *Chemosphere*, **171**, 399-404.
- 17) Gamboa, M., Tsuchiya, M. C., Matsumoto, S., Iwata, H., Watanabe, K. (2017) : Differences in protein expression among five species of stream stonefly (Plecoptera) along a latitudinal gradient in Japan. *Insect Biochemistry and Physiology*, **96** (3) .
- 18) Guo, J., Iwata, H. (2017) : Risk assessment of triclosan in the global environment using a probabilistic approach. *Ecotoxicology and Environmental Safety*, **143**, 111-119.
- 19) Hirakawa, S., Miyawaki, T., Hori, T., Kajiwar, J., Katsuki, S., Hirano, M., Yoshinouchi, Y., Iwata, H., Mitoma, C., Furue, M. (2017) : Accumulation properties of polychlorinated biphenyl congeners in Yusho patients and prediction of their cytochrome P450-dependent metabolism by in silico analysis. *Environmental Science and Pollution Research International*.
- 20) Nguyen, H. T., Lauan, M. C., Yoo, J., Iida, M., Agusa, T., Hirano, M., Kim, E. Y., Miyazaki, T., Nose, M., Iwata, H. (2017) : Strain differences in the proteome of dioxin-sensitive and dioxin-resistant mice treated with 2,3,7,8-tetrabromodibenzo-p-dioxin. *Archives of Toxicology*, **91**, 1763-1782.
- 21) Ochiai, M., Nomiyama, K., Isobe, T., Yamada, T. K., Tajima, Y., Matsuda, A., Shiozaki, A., Matsushita, T., Amano, M., Iwata, H., Tanabe, S. (2017) : Polybrominated diphenyl ethers (PBDEs) and their hydroxylated and methoxylated analogues in the blood of harbor, Dall's and finless porpoises from the Japanese coastal waters. *Marine Environmental Research*, **128**, 124-132.
- 22) Chen, K., Tsutsumi, Y., Yoshitake, S., Qiu, X., Xu, H., Hashiguchi, Y., Honda, M., Tashiro, K., Nakayama, K., Hano, T., Suzuki, N., Hayakawa, K., Shimasaki, Y., Oshima, Y. (2017) : Alteration of development and gene expression induced by ovo-nanoinjection of 3-hydroxybenzo[c]phenanthrene into Japanese medaka (*Oryzias latipes*) embryos. *Aquatic Toxicology*, **182**, 194-204.
- 23) Tasaki, J., Nakayama, K., Shimizu, I., Yamada, H., Suzuki, T., Nishiyama, N., Yamada, M. (2017) : Cellular and molecular hypoxic response in common carp (*Cyprinus carpio*) exposed to linear alkylbenzene sulfonate (LAS) at sub-lethal concentrations. *Environmental Toxicology*, **32**, 122-130.
- 24) Sawayama, E., Tanizawa, S., Kitamura, S. I., Nakayama, K., Ohta, K., Ozaki, A., Takagi, M. (2017) : Identification of quantitative trait loci for resistance to RSIVD in red sea bream (*Pagrus major*), *Marine Biotechnology*, **19** (6), 601-613.
- 25) Itoyama, T., Kawara, M., Sugahara, Y., Kurokawa, D., Kawaguchi, M., Fukui, M., Kitamura, S. I., Nakayama, K., Murakami, Y. (2017) : Nervous system disruption and swimming abnormality in early-hatched pufferfish (*Takifugu niphobles*) larvae caused by pyrene is independent of aryl hydrocarbon receptors, *Marine Pollution Bulletin*, **124** (2), 792-797.
- 26) Kitamura, S. I., Akizuki, M., Song, J. Y., Nakayama, K. (2017) : Tributyltin exposure increases mortality of nodavirus infected Japanese medaka *Oryzias latipes* larvae, *Marine Pollution Bulletin*, **124** (2), 835-838.
- 27) Nakayama, K., Yamashita, R., Kitamura, S. I. (2017) : Use of common carp (*Cyprinus carpio*) and *Aeromonas salmonicida* for detection of immunomodulatory effects of chemicals on fish, *Marine Pollution Bulletin*, **124** (2), 710-713.
- 28) Tasaki, J., Nakayama, K., Shimizu, I., Yamada, H., Suzuki, T., Nishiyama, N., Yamane, M. (2017) : Cellular and molecular hypoxic response in common carp (*Cyprinus carpio*) exposed to linear alkylbenzene sulfonate (LAS) at sub-lethal concentrations, *Environmental Toxicology*, **32** (1), 122-130.
- 29) Hirayama, K., Takayama, K., Haruta, S., Ishibashi, H., Takeuchi, I. (2017) : Effect of low concentrations of Irgarol 1051 on RGB (R, red; G, green; B, blue) colour values of the hard-coral *Acropora tenuis*, *Marine Pollution Bulletin*, **124** (2), 678-686.
- 30) 内田雅也・平野将司・石橋弘志・富永伸明・有蘭幸司 (2017) : 海産甲殻類アミに対する4-ノニルフェノール異性体の急性・亜慢性毒性影響, *環境毒性学会誌*, **20** (2), 59-68.

生態系解析部門

原 著

- 1) Obayashi, Y., Bong, C. W. and Suzuki, S. (2017) : Methodological considerations and comparisons of measurement

- results for extracellular proteolytic enzyme activities in seawater. *Frontiers in Microbiology*, **8**, article 1952.
- 2) Bien, T.L.T., Thao, N.V., Kitamura, S.-I., Obayashi, Y. and Suzuki, S. (2017) : Release and constancy of an antibiotic resistance gene in seawater under grazing stress by ciliates and heterotrophic nano flagellates. *Microbes and Environments*, **32**, 174-179.
 - 3) Sugimoto, Y., Suzuki, S., Nonaka, L., Boonla, C., Sukpanyatham, N., Chou, H.-Y. and Wu, J.-H. (2017) : The novel *mef* (C) -*mph* (G) macrolide resistance genes are conveyed in the environment on various vectors. *Journal of Global Antimicrobial Resistance*, **10**, 47-53.
 - 4) Ye, R. R., Peterson, D. R., Seemann, F., Kitamura, S. I., Lee, J. S., Law, T. C. K., Tsui, S. K. W. and Doris, A. U. (2017) : Immune competence assessment in marine medaka (*Orzias melastigma*) -a holistic approach for immunotoxicology. *Environmental Science and Pollution Research*, **24**, 27687-27701.
 - 5) Nakayama, K., Yamashita, R. and Kitamura S. I. (2017) : Use of common carp (*Cyprinus carpio*) and *Aeromonas salmonicida* for detection of immunomodulatory effects of chemicals on fish. *Marine Pollution Bulletin*, **124**, 710-713.
 - 6) Kitamura, S. I., Akizuki, M., Song, J. Y. and Nakayama, K. (2017) : Tributyltin exposure increases mortality of nodavirus infected Japanese medaka *Oryzias latipes* larvae. *Marine Pollution Bulletin*, **124**, 835-838.
 - 7) Itoyama, T., Kawara, M., Sugahara, Y., Kurokawa, D., Kawaguchi, M., Fukui, M., Kitamura, S. I., Nakayama, K. and Murakami, Y. (2017) : Nervous system disruption and swimming abnormality in early-hatched pufferfish (*Takifugu niphobles*) larvae caused by pyrene is independent of aryl hydrocarbon receptors. *Marine Pollution Bulletin*, **124**, 792-797.
 - 8) Sawayama, E., Tanizawa, S., Kitamura, S. I., Nakayama, K., Ohta, K., Ozaki, A. and Takagi, M. (2017) : Identification of quantitative trait loci for resistance to RSIVD in red sea bream (*Pagrus major*). *Marine Biotechnology* **19**, 601-613.
 - 9) Watanabe, S., Morimoto, D., Fukumori, F. and Watanabe, Y. (2017) : Characterization of *cis*-4-hydroxy-D-proline dehydrogenase from *Sinorhizobium meliloti*. *Bioscience, Biotechnology, and Biochemistry*, **82**, 110-113.
 - 10) Watanabe, S., Fukumori, F., Miyazaki, M., Tagami, S. and Watanabe, Y. (2017) : Characterization of a novel *cis*-3-hydroxy-L-proline dehydratase and a *trans*-3-hydroxy-L-proline dehydratase from bacteria. *Journal of Bacteriology*, **199**, e00255-17.
 - 11) 目崎文崇・三宅 洋・泉 哲平 (2017) : 子供にとって魅力的な生物に着目した松山市における都市河川の親水性評価, *土木学会論文集 G (環境)*, **73 (6)**, II_69-II_75.
 - 12) Kawanishi, R., Dohi, R., Fujii, A., Inoue, M. and Miyake, Y. (2017) : Vertical migration in streams : seasonal use of the hyporheic zone by the spinous loach *Cobitis shikokuensis*. *Ichthyological Research*, **64 (4)**, 433-443.
 - 13) Gamboa, M., Tsuchiya, M. C., Matsumoto, S., Iwata, H., and Watanabe, K. (2017) : Differences in Protein Expression among Five Species of Stream Stonefly (Plecoptera) along a Latitudinal Gradient in Japan, *Archives of Insect Biochemistry and Physiology*, **96 (3)**, e21422.
 - 14) 八重樫咲子・細川大樹・渡辺幸三 (2017) : 河川水中の環境 DNA の次世代シーケンス解析を利用した水生昆虫の群集構造および生息個体数推定の可能性 : 従来型定量評価手法と比較して, *土木学会論文集 G (環境)*, **73 (7)**, III_139-III_147.
 - 15) Watanabe, K. and Monaghan, M. T. (2017) : Comparative Tests of Species-Genetic Diversity Correlations in Neutral and Nonneutral Loci in Four Species of Stream Insect, *Evolution*, **71 (7)**, 1755-1764.
 - 16) Li, W., Murányi, D., Gamboa, M., Yang, D., and Watanabe, K. (2017) : New species and records of Leuctridae (Plecoptera) from Guangxi, China, on the basis of morphological and molecular data, with emphasis on Rhopalopsale, *Zootaxa*, **4243 (1)**, 165-176.
 - 17) Nukazawa, K., Kazama, S., and Watanabe, K. (2017) : Catchment Scale Modeling of Riverine Species Diversity Using Hydrological Simulation : Application to Tests of Species-Genetic Diversity Correlation, *Ecohydrology*, **10**, e1778.

総説等

- 1) 鈴木 聡, 高田秀重 (2017) : 水環境に拡散する抗菌薬, 薬剤耐性遺伝子の汚染実態と課題, *公衆衛生*, **81**, 828-833.

4. 3 学内, 所内誌等

化学汚染・毒性解析部門

- 1) 田辺信介 (2017): 定年退職を迎えて, 愛媛大学理学部同窓会報, No. 10, 4.
- 2) 岩田久人 (2017): 拠点長新年度挨拶, LaMer ニュース, No.3, 12.
- 3) 岩田久人 (2017): 研究課題紹介, CMES ニュース, No.37, 3-4.
- 4) 岩田久人 (2017): 国際シンポジウム PRIMO19開催報告, LaMer ニュース, No4, 13.

4. 4 一般誌等

環境動態解析部門

- 1) 升本順夫・津旨大輔・郭 新宇・内山雄介・宮澤泰正 (2017): 放射性物質の分散シミュレーションに影響を及ぼす沿海域海況変動過程とその再現性, 沿岸海洋研究, 第54巻, 第2号, 151-157.

化学汚染・毒性解析部門

- 1) 田辺信介 (2017): 追悼 立川涼先生, JEPA ニュース, 105, 4.

4. 5 報告書等

環境動態解析部門

- 1) 俵積田貴彦・茅野昌大・和西昭仁・馬場俊典・宮村和良・大竹周作・岩野英樹・伊藤龍星・菅沼倫美・宮川博妃・久米 洋・村田憲一・黒田麻美・東谷福太郎・郭 新宇・吉江直樹・清水園子・太田耕平・武岡英隆・松原孝博・鬼塚 剛 (2017): 魚介類の斃死原因となる有害赤潮等分布拡大防止のための発生モニタリングと発生シナリオの構築②瀬戸内海西部・豊後水道海域, 平成 28 年度漁場環境・生物多様性保全総合対策委託事業赤潮・貧酸素水塊漁業被害防止対策事業報告書「瀬戸内海等での有害赤潮発生機構解明と予察・被害防止等技術開発」, 水産庁, 37-77,

化学汚染・毒性解析部門

- 1) 田辺信介 (2017): 次世代の環境化学, 25th Anniversary 日本環境化学会, 23.
- 2) 田辺信介 (2017): 立川先生を偲んで, 環境化学, 27 (3), iv-v.
- 3) 国末達也 (2017): フィージビリティ研究: 座礁・漂着鯨類における新規 POPs および POPs 代替物質の蓄積特性とリスク評価に関する研究, EXTEND2010に関わる研究委託業務業務報告書, 環境省請負業務, 平成29年3月, 1-21.
- 4) 仲山 慶 (2017): 毒性メカニズムにより QSAR ドメインを規定し予測精度の向上に資する研究, 化学物質安全対策, 経済産業省委託研究, 平成29年3月, 1-15.
- 5) 仲山 慶 (2017): 環境中の化学物質のモニタリング情報を管理するプラットフォーム (ChemTHEATRE) の構築, LRI 研究成果報告書, 日本化学工業協会委託研究, 平成29年3月, 1-21.

4. 6 学会発表等

環境動態解析部門

- 1) 堤 英輔・松野 健・Ren-Chieh Lien・千手智晴・李 根淙・中村啓彦・仁科文子・長谷川大介・郭 新宇 (2017): トカラ海峡の黒潮における乱流混合, 九大応力研共同利用研究集会2016年度海洋乱流研究会, 福岡, 1月.

- 2) 堤 英輔・松野 健・Ren-Chieh Lien・千手智晴・李 根淙・中村啓彦・仁科文子・郭 新宇 (2017) : カラ海峽における乱流混合, 東京大学大気海洋研究所共同利用研究集会「黒潮域における混合と栄養塩供給・生物生産へ与える影響」, 柏, 1月.
- 3) Zhang, J., Guo, X., Zhao, L., Miyazawa, Y. (2017) : Water exchange across isobaths over the continental shelf of the East China Sea, International Workshop on Mixing and Water Mass Modification in the East Asian Marginal Seas, Fukuoka, Japan, February.
- 4) Tsutsumi, E., Matsuno, T., Lien, R.-C., Nakamura, H., Senjyu, T., Guo, X. (2017) : Turbulent mixing within Kuroshio in Tokara Strait, International Symposium "Ocean Mixing Processes : Impact on Biogeochemistry, Climate and Ecosystem" , Tokyo, March.
- 5) 吉田吾郎・島袋寛盛・村瀬 昇・河野芳巳・加藤亜記・郭 新宇・吉江直樹 (2017) : 温暖化の藻場への影響とその機構に関する1考察—地理的な環境勾配に沿った実験から—, 日本藻類学会第41回大会, 高知, 3月.
- 6) Wang, Y., Guo, X., Naoki Yoshie (2017) : Study on the interannual variations of Japanese common squid (*Todarodes pacificus*) resources in the Japan Sea, 10th WESTPAC International Scientific Conference. Qingdao, China, Apr. 17-20, 2017.
- 7) Guo, X., Yu, X., Morimoto, A., Buranapratheprat, A. (2017) : Effects of monsoon on the river plume in the Upper Gulf of Thailand, 10th WESTPAC International Scientific Conference. Qingdao, China, April.
- 8) Senjyu, T., Matsuno, T., Tsutsumi, E., Lee, K., Nakamura, H., Nishina, A., Hasegawa, D., Guo, X. (2017) : Strong reversing currents in the Kuroshio observed in the Tokara Strait, south of Japan, 10th WESTPAC International Scientific Conference, Qingdao, China, April.
- 9) Morimoto, A., Y. Mino, A. Buranapratheprat, A. Kaneda, S. Tong-U-Dom, X. Guo (2017) : Seasonal variation in hypoxia in Upper Gulf of Thailand. 10th WESTPAC International Scientific Conference, Qingdao, China, April, Abstracts, 66-67.
- 10) Takikawa, T., A. Morimoto, M. Kyushima, K. Ichikawa, M. Ito, K. Yufu (2017) : Fortnightly variation of the Tsushima Warm Current after passing through the Tsushima Straits associated with internal tide. 19th Pacific Asian Marginal Seas Meeting, Cheju, Korea, April.
- 11) Zhang, J., Guo, X., Zhao, L. (2017) : A numerical model for separating nutrients with different origins in the ecosystem of the East China Sea. JpGU-AGU Joint Meeting 2017, Chiba, Japan, May.
- 12) Guo, X., Y. Wang, L. Zhao (2017) : Seasonal variations in nutrients and biogenic particles in the East China Sea and their exchange fluxes with adjacent seas, JpGU-AGU Joint Meeting 2017, Chiba, Japan, May.
- 13) 中川美和・郭 新宇・吉江直樹 (2017) : 豊後水道における栄養塩濃度の季節・経年変化, JpGU-AGU Joint Meeting 2017, 千葉市, 5月, A-OS30.
- 14) 眞野 能・郭 新宇・藤井直紀・吉江直樹・武岡英隆 (2017) : 短周期の内部波がミズクラゲの集群形成に及ぼす影響, JpGU-AGU Joint Meeting, 千葉, 5月.
- 15) Tsutsumi, E., T. Matsuno, R.-C. Lien, H. Nakamura, T. Senjyu, X. Guo (2017) : Turbulent mixing within the Kuroshio in Tokara Strait, JpGU-AGU Joint Meeting 2017, Chiba, Japan, May.
- 16) Hasegawa, D., Matsuno, T., Tsutsumi, E., Senjyu, T., Nakamura, H., Kobari, T., Nishina, A., Yoshie, N., Guo, X., Nakagawa, M., Nagai, T., Tanaka, T., Yasuda, I. (2017) : How the Tokara strait cultivates the Kuroshio, Japan Geoscience Union Meeting 2017, Chiba, Japan, May.
- 17) Ito, S., K. Komatsu, S. Kitajima, A. Takasuka, N. Yoshie, T. Okunishi, M. Takahashi, T. Hasegawa, T. Setou and M. Yoneda (2017) : A challenge to evaluate effect of climate change on Japanese anchovy (*Engraulis japonicus*) in the East China Sea II, Japan Geoscience Union Meeting 2017, Makuhari, Japan, May.
- 18) Hasegawa, D., T. Matsuno, E. Tsutsumi, T. Senjyu, H. Nakamura, T. Kobari, A. Nishina, N. Yoshie, X. Guo, M. Nakagawa, T. Nagai, T. Tanaka, I. Yasuda (2017) : How the Tokara strait cultivates the Kuroshio, Japan Geoscience Union Meeting 2017, Makuhari, Japan, May.
- 19) Yoshie, N., H. Mizuguchi, M. Nakagawa, and X. Guo (2017) : Numerical analysis of the ecosystem responses to the changes of nutrient supply in the Western Seto Inland Sea, Japan, Japan Geoscience Union Meeting 2017, Makuhari, Japan, May.
- 20) M. Nakagawa, X. Guo, and N. Yoshie (2017) : Seasonal and interannual variations in the nutrient concentrations in the Bungo Channnel, Japan, Japan Geoscience Union Meeting 2016, Makuhari, Japan, May.
- 21) T. Mano, X. Guo, N. Fujii, N. Yoshie, and H. Takeoka (2017) : Effects of high frequency internal waves on the formation

- of moon jellyfish aggregations, Japan, Japan Geoscience Union Meeting 2016, Makuhari, Japan, May.
- 22) 森本昭彦・A. Buranapratheprat・三野義尚・兼田淳史・郭 新宇 (2017): 北部タイランド湾の貧酸素水塊の季節変化とその挙動, JpGU-AGU Joint Meeting 2017, 千葉, 5月, 講演要旨集.
 - 23) 杉谷茂夫・雨谷 純・岩井宏徳・森本昭彦・久島萌人・藤井智史・滝川哲太郎・市川 香 (2017): 分散型海洋レーダの実験, JpGU-AGU Joint Meeting 2017, 千葉, 5月, 講演要旨集.
 - 24) 加三千宣・山本正伸・竹村恵二・池原 研・山田圭太郎・石下浩平・高松裕子・杉本隆成 (2017): 完新世の気候変動に対する北西太平洋のイワシ類の応答, 日本地球惑星科学連合2017年大会, 千葉, 5月.
 - 25) 山本正伸・加三千宣・瀬川雄大・入野智久・池原 研・竹村恵二 (2017): 別府湾堆積物中の GDGT 組成から復元した後期完新世洪水記録, 地球惑星科学連合2017年大会, 千葉市, 5月.
 - 26) Fuji, R., Hinata, H. (2017): Temporal variability of tsunami detection distance revealed by virtual tsunami observation experiments using HF radar, JpGU-AGU Joint Meeting 2017, Chiba Japan, May.
 - 27) 渡久地優・藤井智史・日向博文 (2017): 海洋レーダを用いた伊勢湾・三河湾における連結副振動の観測, JpGU-AGU Joint Meeting 2017, 千葉, 5月.
 - 28) 宮尾泰幸・日向博文・片岡智哉・曾谷僚太・大野一輝・森 啓太 (2017): 新島和田浜海岸漂着ゴミの1次元岸沖方向拡散係数と碎波帯内における拡散係数の比較, JpGU-AGU Joint Meeting 2017, 千葉, 5月.
 - 29) 吉良郁美・藤良太郎・馬場崇裕・日向博文 (2017): 津波シミュレーションを用いた津波・副振動エネルギーの減衰過程に関する研究, 土木学会四国支部第23回技術研究発表会, 愛媛, 5月.
 - 30) 尾形浩平・藤良太郎・日向博文 (2017): 仮想津波観測実験に基づく海洋レーダによるリアルタイム津波検知手法の開発, 土木学会四国支部第23回技術研究発表会, 愛媛, 5月.
 - 31) 大野一輝・日向博文・宮尾泰幸・森 啓太 (2017): 新島和田浜海岸におけるマイクロプラスチックの岸沖方向拡散係数の推定, 土木学会四国支部第23回技術研究発表会, 愛媛, 5月.
 - 32) 佐川奈緒・日向博文 (2017): 広島湾・安芸灘におけるマイクロプラスチックの動態推定, 土木学会四国支部第23回技術研究発表会, 愛媛, 5月.
 - 33) 滝川哲太郎・森本昭彦・久島萌人・市川 香・伊藤 雅・油布 圭 (2017): 対馬海峡西水道における底冷水と内部潮汐の観測, 北海道大学低温科学研究所研究集会「宗谷暖流を始めとした対馬暖流系の変動メカニズム」, 札幌, 6月.
 - 34) 山田圭太郎・加三千宣・池原 研・山本正伸・原口 強・竹村恵二 (2017): 別府湾における過去7300年間のイベント記録とその頻度, 国際火山噴火史情報研究集会, 福岡, 6月.
 - 35) 瀬川雄大・山本正伸・加三千宣・竹村恵二 (2017): バイオマーカーを用いた別府湾堆積物コア中の洪水層の同定, 2017年有機地球化学シンポジウム, 高知市, 8月.
 - 36) 加三千宣・山本正伸・別府湾海底コア研究グループ (2017): 別府湾海底堆積物の魚鱗記録からみた後期完新世のイワシ類の長期動態, 日本第四紀学会2017年大会, 福岡, 8月, 講演要旨集, 42, p71.
 - 37) 池原 研・入野智久・竹村恵二・山田圭太郎・原口 強・加三千宣 (2017): 別府湾最奥部のイベント堆積物の示すもの: どの程度の地震であれば別府湾最奥部にイベント層を形成できるか?, 日本第四紀学会2017年大会, 福岡, 8月, 講演要旨集, 42, p41.
 - 38) 山田圭太郎・加三千宣・池原 研・山本正伸・原口 強・竹村恵二 (2017): 別府湾における過去 7300 年間のイベント記録とその頻度, 日本第四紀学会2017年大会, 福岡, 8月, 講演要旨集, 42, p138.
 - 39) Toguchi, Y., Fujii, S., Hinata, H. (2017): Characteristics of Tsunami- Induced Waves and Harbor Oscillations in Ise Bay by Using Oceanographic Radar, International Tsunami Symposium 2017, Indonesia, August.
 - 40) Fuji, R., Hinata, H. (2017): Temporal variability of tsunami arrival detection distance revealed by virtual tsunami observation experiments using numerical simulation and one-month HF radar observation, International Tsunami Symposium 2017, Indonesia, August.
 - 41) Fuji, R., Hinata, H. (2017): A study of real-time detection distance of tsunami arrival based on virtual tsunami observation experiments using numerical simulation and HF radar observation, International Tsunami Symposium 2017, Indonesia, August.
 - 42) Nakagawa, M., Guo, X., Yoshie, N. (2017): Seasonal and interannual variations in the nutrient concentrations in the Bungo Channel, Japan, 日台韓合同環境フォーラム, 松山市, 9月.
 - 43) 眞野 能・郭 新宇・吉江直樹・齋藤 類・藤井直紀・堤 英輔・武岡英隆 (2017): 内部波のストークスドリフトによるミズクラゲ集群の波状構造の形成, 2017年日本ベントス学会・日本プランクトン学会合同大会,

滋賀, 9月.

- 44) Mano, T., Guo, X., Fujii, N., Yoshie, N., Tsutsumi, E., Saito, R., Takeoka, H. (2017) : Effects of high frequency internal waves on the formation of moon jellyfish aggregations, 7th Joint Forum of Environmental Sciences, Matsuyama, September.
- 45) Zhang, J., Guo, X., Zhao, L. (2017) : A numerical model for separating nutrients with different origins in the ecosystem of the East China Sea, 7th Joint Forum of Environmental Sciences 2017, Matsuyama, Japan, September.
- 46) Hu, Y., Guo, X., Sasai, Y. (2017) : Nutrient transport along the Kuroshio and nutrient supply to the euphotic zone of the Kuroshio. 7th joint forum of Environmental sciences, Matsuyama, Japan, September.
- 47) 眞野 能・郭 新宇・藤井直紀・吉江直樹・堤 英輔・齋藤 類・武岡英隆 (2017) : 内部波の伝播に伴ったミズクラゲ集群の波状構造の形成, 第2回 新海洋混合学サマースクール, 大分, 9月.
- 48) 森本昭彦 (2017) : 豊後水道の物理環境, 2017年度豊後水道研究会, 松山市, 9月.
- 49) 入野智久・丸山亜伊莉・池原 研・山本正伸・加三千宣・竹村恵二 (2017) : 完新世別府湾堆積物中碎屑物の鉱物組成に基づく供給源推定, 2017年度日本地球化学会第64回年会, 東京工業大学, 9月.
- 50) 吉江直樹 (2017) : 豊後水道における栄養塩・低次生態系・モデリング, 2017年度豊後水道研究集会, 松山市, 9月.
- 51) M. Nakagawa, X. Guo, N. Yoshie (2017) : Seasonal and interannual variations in the nutrient concentrations in the Bungo Channel, Japan, 日台韓合同環境フォーラム, 松山市, 9月.
- 52) Yoshida, G., H. Shimabukuro, S. Kiyomoto, T. Yoshimura, T. Kadota, N. Murase, M. Noda, X. Guo, N. Yoshie, X. Yu, and Y. Kono (2017) : Studies on the effects of water temperature increase on macroalgal beds (Moba) in western Japan – for understanding of the impact mechanism of global warming and future prediction-, International symposium “Fisheries science for future generations” Tokyo, Japan, Sept.
- 53) Yoshie, N. (2017) : Coastal ocean observing systems in Japan, PICES2017 annual meeting, Vladivostok, Russia, Sept.
- 54) 工藤功貴・片岡智哉・二瓶泰雄・日向博文・島崎穂波・馬場大樹 (2017) : 国内河川におけるマイクロプラスチックの数密度分布特性, 土木学会平成29年度土木学会全国大会第72回年次学術講演会, 福岡, 9月.
- 55) Fuji, R., Hinata, H. (2017) : Temporal Variability of Tsunami Arrival Detection Distance Revealed by Virtual Tsunami Observation Experiments using Numerical Simulation and One - Month HF Radar Observation, International Radiowave Oceanography Workshop, Germany, September.
- 56) Fuji, R., Ogata, K., Hinata, H. (2017) : A Study of Real - Time Detection Distance of Tsunami Arrival Based on Virtual Tsunami Observation Experiments using Numerical Simulation and HF Radar Observation, International Radiowave Oceanography Workshop, Germany, September.
- 57) Zhang, J., Guo, X., Zhao, L. (2017) : A numerical model for separating nutrients with different origins in the ecosystem of the East China Sea, International Conference of Nitrogen Cycling and Its Environmental Impacts in East Asia, Nanjing, China, October.
- 58) Guo, X., Y. Wang, L. Zhao (2017) : Seasonal variations in nutrients and biogenic particles in the East China Sea and their exchange fluxes with adjacent seas, International Conference of Nitrogen Cycling and Its Environmental Impacts in East Asia, Nanjing, China, October.
- 59) Zhang, J., Guo, X., Zhao, L. (2017) : Roles of nutrients in the ECS with different origins, 2017年度日本海洋学会秋季大会, 仙台, 10月.
- 60) 森本昭彦・杉谷茂夫・雨谷 純・岩井宏徳・久島萌人・滝川哲太郎・市川 香・藤井智史 (2017) : 山陰沖日本海における対馬暖流第二分枝流の変動, 2017年度日本海洋学会秋季大会, 鹿児島, 10月, 講演要旨集, 258.
- 61) 柴野良太・森本昭彦・高山勝巳・伊藤 雅 (2017) : 対馬暖流による栄養塩輸送が日本海へ及ぼす影響, 2017年度日本海洋学会秋季大会, 鹿児島, 10月, 講演要旨集, 262.
- 62) Morimoto, A. (2017) : Cooperative studies on coastal marine science in the Southeast Asia supported by JSPS. WESTPAC Workshop on “A framework for cooperative studies in the Western Pacific Marginal Seas : Energy and materials exchange between land and open ocean” , Fukuoka, October.
- 63) G. Yoshida, H. Shimabukuro, S. Kiyomoto, T. Kadota, T. Yoshimura, N. Murase, M. Noda, Y. Kono, S. Takenaka, T. Tamura, N. Tanada, X. Yu, N. Yoshie, and X. Guo (2017) : Assessment and future prediction of climate shift impacts on the macroalgal ecosystem and cultivation in the Seto Inland Sea, United States-Japan Natural Resources Panel on Aquaculture 45th Scientific Symposium “Marine Aquaculture in a Changing Environment” , Hiroshima, 2017, Oct.

- 64) 宮尾泰幸・日向博文・片岡智哉・曾谷僚太・大野一輝・森 啓太 (2017): 新島和田浜海岸漂着ゴミの1次元岸沖方向拡散係数と碎波帯内における拡散係数の比較, 2017年度日本海洋学会秋季大会, 宮城, 10月.
- 65) 森本昭彦・柴野良太・高山勝巳 (2017): 低次生態系モデルによる対馬海峡栄養塩起源の推定, 環境総合研究 S-13平成29年度公開成果発表会, 東京, 11月.
- 66) 三浦直人・山本正伸・加三千宣・竹村恵二・別府湾コア研究グループ (2017): 別府湾の海洋堆積物コアを用いた古海水温の高解像度復元, 第三回地球環境誌学会年会, 福岡市, 11月.
- 67) 吉江直樹 (2017): 西部瀬戸内海における栄養塩と低次生態系, 第3回沿岸生態系の評価・予測に関するワークショップ, 広島, 11月.
- 68) 滝川哲太郎・橋本涼介・渡辺俊輝・千手智晴・森本昭彦 (2017): 水位差によって見積もられた山口県沿岸を通過する対馬暖流の変動, 金沢大学・環日本海域環境研究センター共同利用シンポジウム, 金沢, 12月.
- 69) 雨谷 純・杉谷茂夫・森本昭彦・岩井宏徳・藤井智史・滝川哲太郎・市川 香・久島萌人 (2017): 9MHz ビーコン局を用いたアンテナ特性の測定結果, 九州大学応用力学研究所共同利用研究集会「海洋レーダを用いた海況監視システムの開発と応用」, 福岡, 12月.
- 70) 都倉雄太・滝川哲太郎・森本昭彦・鎌野 忠・秦 一浩 (2017): 山口県山陰沿岸定線 ADCP 往復観測データを用いた潮流調和定数の推定, 九州大学応用力学研究所共同利用研究集会「日本海及び日本周辺海域の海況モニタリングと波浪計測に関する研究集会」, 福岡, 12月.
- 71) 吉江直樹 (2017): 愛媛大学による西部瀬戸内海観測の概要, 第70回西日本海洋調査技術連絡会議, 福岡, 12月.
- 72) 堤 英輔・吉江直樹・眞野 能・神田泰成・藤井直紀・郭 新宇 (2017): 豊後水道における乱流硝酸塩フラックスの見積もり, 2017年度九州沖縄地区合同シンポジウム「乱流混合と海洋環境」, 福岡, 12月.
- 73) 吉江直樹・水口隼人・中川美和・郭 新宇 (2017): 西部瀬戸内海の栄養塩供給変化に対する生態系応答の解析, 第3回海洋環境研究集会, 神戸, 12月.
- 74) 渡久地優・藤井智史・日向博文 (2017): 津波シミュレーションを用いた海洋レーダによる伊勢湾での津波観測の検証, 九州大学応用力学研究所 研究集会「海洋レーダを用いた海況監視システムの開発と応用」, 福岡, 12月.

化学汚染・毒性解析部門

- 1) 澤山英太郎・北村真一・仲山 慶・太田耕平・高木基裕 (2017): マダいの RSIVD 耐性遺伝子座の探索, 平成29年度日本水産学会春季大会, 東京, 3月.
- 2) 後藤哲智・Nguyen Minh Tue・磯部友彦・田辺信介・国末達也 (2017): GC × GC-ToFMS による残留性有機汚染物質の網羅的スクリーニング, 第65回質量分析総合討論会, つくば, 5月, 講演要旨集, 3D-O2-1525, 3P-09.
- 3) 柳田哲矢・仲山 慶・山中旅人・北村真一・広瀬裕一 (2017): 養殖マボヤ被囊軟化症の原因鞭毛虫 *Azumobodo hoyamushi* の遺伝的構造解析のためのマイクロサテライトマーカーの開発, 第86回日本寄生虫学会大会, 札幌, 5月.
- 4) 佐々木眞・田辺信介・国末達也・岩淵 博・宮脇隼輔・寶來佐和子 (2017): 射撃場起源の微量元素汚染拡散の実態解明, 第26回環境化学討論会, 静岡, 6月, 講演要旨集, 1D-04, PO-333.
- 5) 森木 翼・吉田博一・田辺信介・国末達也・杉山晶彦・寶來佐和子 (2017): 日野川水系上流部における微量元素の起源探索およびタカハヤ (*Phoxinus oxycephalus jouyi*) を用いた初期曝露試験による毒性影響評価, 第26回環境化学討論会, 静岡, 6月, 講演要旨集, 1D-12, PO-332.
- 6) 水川葉月・高居名菜・横山 望・市居 修・滝口満喜・野見山桂・高口倅暉・西川博之・池中良徳・中山翔太・Sainnoxoi, T.・田辺信介・石塚真由美 (2017): ポリ塩化ビフェニル (PCBs) 暴露によるネコ甲状腺機能への影響評価～甲状腺ホルモンの脱ヨード化と代謝能の解析～, 第26回環境化学討論会, 静岡, 6月, 講演要旨集, 2A-01.
- 7) 高口倅暉・野見山桂・西川博之・水川葉月・田上瑠美・芳之内結加・横山 望・市居 修・滝口満喜・中山翔太・池中良徳・石塚真由美, 岩田久人・国末達也・田辺信介 (2017): PCBs 曝露がイヌ・ネコの甲状腺ホルモン恒常性へ及ぼす影響, 第26回環境化学討論会, 静岡, 6月, 講演要旨集, 2A-02, PO-313.
- 8) 水川葉月・野見山桂・池中良徳・中山翔太・Saengtienchai, A.・Sainnoxoi, T.・横山 望・笹岡一慶・市居 修・Khidkhan, K.・高居名菜・滝口満喜・田辺信介・石塚真由美 (2017): イエネコの *in vivo* 長期曝露試験: デカブロモジフェニルエーテル (BDE209) は甲状腺機能亢進症を引き起こすのか?, 第26回環境化学討論会, 静岡,

- 6月, 講演要旨集, 2A-03, PO-315.
- 9) 田中啓介・野見山桂・水川葉月・高口倅暉・田上瑠美・Saengtienchai, A.・Sainnoxoi, T.・横山 望・市居 修・滝口満喜・中山翔太・池中良徳・石塚真由美・国末達也・田辺信介 (2017): イエネコの *in vivo* 長期曝露試験: デカブロモジフェニルエーテル (BDE209) の生体内変化, 第26回環境化学討論会, 静岡, 6月, 講演要旨集, 2A-04, PO-314.
 - 10) 野見山桂・西川博之・水川葉月・高口倅暉・Sainnoxoi, T.・横山 望・市居 修・滝口満喜・石塚真由美・池中良徳・中山翔太・江口哲史・国末達也・田辺信介 (2017): 血清中メタボローム解析によるイエネコの PCBs 毒性影響評価, 第26回環境化学討論会, 静岡, 6月, 講演要旨集, 2A-05.
 - 11) 麓 光央・後藤哲智・Tue, N. M.・中津 賞・野見山桂・田辺信介・国末達也 (2017): リン酸エステル系難燃剤による野生鳥類の汚染 - 分析法の開発と種間比較 -, 第26回環境化学討論会, 静岡, 6月, 講演要旨集, 2A-06, PO-316.
 - 12) 江頭佳奈・落合真理・Tue, N. M.・松田純佳・松石 隆・田島木綿子・山田 格・磯部友彦・田辺信介・国末達也 (2017): 日本沿岸に座礁したハクジラ類における有機ハロゲン化合物汚染の経年変化, 第26回環境化学討論会, 静岡, 6月, 講演要旨集, 2A-09, PO-328.
 - 13) 粕谷満知子・Tue, N. M.・後藤哲智・田辺信介・国末達也 (2017): 日本に棲息する野生生物のダイオキシン類汚染: 化学分析と *in vitro* バイオアッセイの統合手法による毒性同定評価, 第26回環境化学討論会, 静岡, 6月, 講演要旨集, 2C-01, PO-310.
 - 14) 田上瑠美・Margiotta-Casaluci, L.・Sumpter, J.・野見山桂・国末達也・田辺信介 (2017): 魚類におけるヒト用医薬品類の取り込みと代謝および情動関連行動との関連解析〜オピオイド系鎮痛剤と抗うつ剤を例として〜, 第26回環境化学討論会, 静岡, 6月, 講演要旨集, 2C-02, PO-311.
 - 15) 野崎一茶・田上瑠美・野見山桂・Annamalai, A.・Bulbule, K. A.・Parthasarathy, P.・Viet, P. H.・Tuyen, L. H.・Sudaryanto, A.・磯部友彦・国末達也・田辺信介 (2017): 医薬品類およびパーソナルケア製品由来物質 (PPCPs) によるアジア途上国の水環境汚染の実態解明と魚類への移行/残留性評価, 第26回環境化学討論会, 静岡, 6月, 講演要旨集, 3C-08, PO-324.
 - 16) 家田曜世・橋本俊次・磯部友彦・高澤嘉一・田邊 潔・国末達也・田辺信介 (2017): 底質中環境汚染物質のノンターゲット分析 - 試料の網羅的解析と精密質量スペクトルデータベースの構築 -, 第26回環境化学討論会, 静岡, 6月, 講演要旨集, P-099.
 - 17) 向井康太・藤森 崇・塩田憲司・高岡昌輝・舟川晋也・武田 晃・高橋 真 (2017): 燃焼イオンクロマトグラフィーを用いた環境固体試料中の総有機ハロゲン濃度 (TOX) 測定: 種々の環境固体試料への適用, 第26回環境化学討論会, 静岡, 6月, 講演要旨集, 1A-01, PO-302.
 - 18) 高橋 真・Hoang Quoc Anh・Nguyen Minh Tue・鈴木 剛・Tu Binh Minh・Pham Hung Viet・酒井伸一 (2017): ベトナムの使用済み自動車解体処理地域における化学物質汚染 (第四報) - GC/MS 一斉分析用データベースを用いたダスト試料の測定 -, 第26回環境化学討論会, 静岡, 6月, 講演要旨集, P-061.
 - 19) 宇智田奈津代・鈴木 剛・松神秀徳・Nguyen Minh Tue・Le Huu Tuyen・Pham Hung Viet・高橋 真・国末達也・寺園 淳 (2017): 模擬胃液及び小腸液における有害金属類のバイオアクセシビリティ: 有害金属含媒体への適用, 第26回環境化学討論会, 静岡, 6月, 講演要旨集, P-085.
 - 20) 富岡恵大・Saman Wijesekara・Rohana Chandrajith・Keerthi S. Guruge・高橋 真 (2017): スリランカの河川水等における微量汚染物質の一斉分析, 第26回環境化学討論会, 静岡, 6月, 講演要旨集, P-098.
 - 21) 野見山桂 (2017): 野生生物に残留するハロゲン化フェノール類の蓄積特性と毒性影響評価 (招待講演), 第26回環境化学討論会, ウェリントンラボラトリーズランチョンセミナー, 静岡, 6月, 講演要旨集, 10.
 - 22) 国末達也 (2017): 北海道に漂着した鯨類における残留性有機汚染物質の蓄積特性 - 継続的な試料採集と保存の重要性 -, 第28回日本セトロロジー研究会 ストランディングネットワーク北海道創立10周年記念シンポジウム, 札幌, 6月, 講演要旨集 6.
 - 23) 落合真理・栗原 望・松田純佳・中郡翔太郎・塩崎 彬・中田章史・松石 隆・国末達也・岩田久人 (2017): 鯨類由来線維芽細胞を用いた環境汚染物質の毒性影響評価, 第28回日本セトロロジー研究会 (札幌) 大会, 札幌, 6月, 要旨集 O-01.
 - 24) 西田悠輝・落合真理・澤修作・岩田秀一・岩田久人 (2017): 飼育下のハンドウイルカ (*Tursiops truncatus*) のリンパ球を用いた環境汚染物質による免疫毒性評価, 第28回日本セトロロジー研究会 (札幌) 大会, 札幌, 6月, 要旨集 P-10.

- 25) 仲山 慶・磯部友彦・宇野誠一・大野暢晃・半藤逸樹・上野大介・国末達也 (2017) : 環境中の化学物質濃度情報を管理するプラットフォーム「ChemTHEATRE」の利活用, 第26回環境化学討論会, 静岡, 6月.
- 26) Nakayama, K., Isobe, T., Uno, S., Handoh, I. C., Ohno, N., Ueno, D., Kunisue, T. (2017) : Introduction to ChemTHEATRE : Open data leads to a new era for integrated exposure and effects analysis, ICCA-LRI and JRC Workshop “Fit-For-Purpose Exposure Assessments For Risk-Based Decision Making” , Como, Italy, June.
- 27) Nomiyama, K., Motogi, K., Goto, A., Ochiai, M., Tajima, Y., Yamada, T. K., Isobe, T., Kunisue, T. and Tanabe, S. (2017) : Nontargeted comprehensive analysis for persistent organohalogen compounds in finless porpoises from Seto Inland Sea. 19th International Symposium on Pollutant Responses in Marine Organisms (PRIMO19), Matsuyama, Japan, June–July, Program Book, 42.
- 28) Yoshinouchi, Y., Hirano, M., Nakata, H., Nomiyama, K., Tanabe, S., Kim, E. Y. and Iwata, H. (2017) : Structure-activity relationships of Bikal seal estrogen receptors and environmental pollutants. 19th International Symposium on Pollutant Responses in Marine Organisms (PRIMO19), Matsuyama, Japan, June–July, Program Book, 93.
- 29) Tue, N. M., Matsukami, H., Tuyen, L. H., Takahashi, S., Suzuki, G., Viet, P. H., Subramanian, A., Tanabe, S. and Kunisue, T. (2017) : Hormone disrupting activities and causative compounds in river water from Asian developing countries. 19th International Symposium on Pollutant Responses in Marine Organisms (PRIMO19), Matsuyama, Japan, June–July, Program Book, 117.
- 30) Kondo, T., Ikenaka, Y., Nakayama, S. M. M., Kawai, Y. K., Mizukawa, H., Mitani, Y., Nomiyama, K., Tanabe, S. and Ishizuka, M. (2017) : UDP-glucuronosyltransferase (UGT) among pinnipedia and other carnivores. 19th International Symposium on Pollutant Responses in Marine Organisms (PRIMO19), Matsuyama, Japan, June–July, Program Book, 128.
- 31) Takahashi, S., Tanikawa, M., Ramu, K., Imagawa, S., Saruwatari, T., Kubodera, T. and Tanabe, S. (2017) : Spatio-temporal trend of contamination by persistent organic pollutants in deep-sea ecosystems around Japan. 19th International Symposium on Pollutant Responses in Marine Organisms (PRIMO19), Matsuyama, Japan, June–July, Program Book, 132.
- 32) Tanoue, R., Margiotta-Casaluci, L., Huerta, B., Runnalls, T. J., Nomiyama, K., Tanabe, S. and Sumpter, J. P. (2017) : Uptake and metabolism of human pharmaceuticals by fish – a case study with opioid analgesic tramadol. 19th International Symposium on Pollutant Responses in Marine Organisms (PRIMO19), Matsuyama, Japan, June–July, Program Book, 139.
- 33) Kasuya, M., Tue, N. M., Goto, A., Tanabe, S. and Kunisue, T. (2017) : *In vitro* bioassay and chemical analysis of dioxins in wild animals from Japan. 19th International Symposium on Pollutant Responses in Marine Organisms (PRIMO19), Matsuyama, Japan, June–July, Program Book, 198.
- 34) Kraisiri, K., Mizukawa, H., Nomiyama, K., Ikenaka, Y., Nakayama, S. M. M., Yokoyama, N., Sasaoka, K., Ichii, O., Takiguchi, M., Nishikawa, H., Tanaka, K., Takaguchi, K., Tanabe, S. and Ishizuka, M. (2017) : Investigation of biochemical changes in cats exposed to organohalogen compounds. 19th International Symposium on Pollutant Responses in Marine Organisms (PRIMO19), Matsuyama, Japan, June–July, Program Book, 216.
- 35) Tanaka, K., Nomiyama, K., Mizukawa, H., Takaguchi, K., Tanoue, R., Saengtienchai, A., Sainnoxoi, T., Yokoyama, N., Ichii, O., Takiguchi, M., Nakayama, S. Ikenaka, Y., Ishizuka, M., Iwata, H., Kunisue, T. and Tanabe, S. (2017) : Identification for the biotransformation of BDE209 by *in vivo* toxicokinetic analysis in *Felis catus*. 19th International Symposium on Pollutant Responses in Marine Organisms (PRIMO19), Matsuyama, Japan, June–July, Program Book, 217.
- 36) Takaguchi, K., Nomiyama, K., Nishikawa, H., Mizukawa, H., Tanoue, R., Yoshinouchi, Y., Yokoyama, N., Ichii, O., Takiguchi, M., Nakayama, S., Ikenaka, Y., Ishizuka, M., Iwata, H., Kunisue, T. and Tanabe, S. (2017) : Effects of PCB-exposure on thyroid hormone homeostasis of dogs and cats. 19th International Symposium on Pollutant Responses in Marine Organisms (PRIMO19), Matsuyama, Japan, June–July, Program Book, 218.
- 37) Egashira, K., Ochiai, M., Tue, N. M., Matsuda, A., Matsuishi, T., Tajima, Y., Yamada, T. K., Isobe, T., Tanabe, S. and Kunisue, T. (2017) : Temporal trends of organohalogen compounds in toothed whales stranded at Japanese coastal waters. 19th International Symposium on Pollutant Responses in Marine Organisms (PRIMO19), Matsuyama, Japan, June–July, Program Book, 220.
- 38) Fumoto, M., Tue, N. M., Goto, A., Nakatsu, S., Nomiyama, K., Tanabe, S. and Kunisue, T. (2017) : Organophosphate

- flame retardants in wild birds – development of analytical methods and interspecies comparison. 19th International Symposium on Pollutant Responses in Marine Organisms (PRIMO19), Matsuyama, Japan, June–July, Program Book, 223.
- 39) Goto A., Tue, N. M., Tanabe, S. and Kunisue, T. (2017) : Origin of brominated dioxins in marine algae : Anthropogenic contaminants or natural compounds? 19th International Symposium on Pollutant Responses in Marine Organisms (PRIMO19), Matsuyama, Japan, June–July, Program Book, 224.
 - 40) Nouda, C., Tomizawa, T., Ueda H., Takemori, H., Takahashi, S., Takasuga, T. and Tanabe, S. (2017) : Short chain chlorinated paraffins in blubber of striped dolphins from Japan by GC/EFCNI-HRMS. 19th International Symposium on Pollutant Responses in Marine Organisms (PRIMO19), Matsuyama, Japan, June–July, Program Book, 226.
 - 41) Takemori, H., Takahashi, S., Takasuga, T. and Tanabe, S. (2017) : Application of GC/TOFMS for comprehensive analysis of organohalogen compounds in finless porpoise. 19th International Symposium on Pollutant Responses in Marine Organisms (PRIMO19), Matsuyama, Japan, June–July, Program Book, 227.
 - 42) Takemori, H., Takahashi, S., Takasuga, T. and Tanabe, S. (2017) : Screening of organohalogen compounds accumulated in marine mammals by using GC-HRTOFMS. 19th International Symposium on Pollutant Responses in Marine Organisms (PRIMO19), Matsuyama, Japan, June–July, Program Book, 228.
 - 43) Subramanian, A., Ramaswamy, B. R., Matsushita, T., Krishnamoorthi, V., Kunisue, T. and Tanabe, S. (2017) : PCDD/Fs, DL-PCBs and PBDEs in the duplicate soils of Tiruchirappalli town, South India. 19th International Symposium on Pollutant Responses in Marine Organisms (PRIMO19), Matsuyama, Japan, June–July, Program Book, 246.
 - 44) Nozaki, K., Tanoue, R., Nomiyama, K., Subramanian, A., Bulbule, K. A., Parhasarathy, P., Viet, P. H., Tuyen, L. H., Sudaryanto, A., Isobe, T., Kunisue, T. and Tanabe, S. (2017) : Pharmaceutical and personal care products in freshwater fish from Asian developing countries. 19th International Symposium on Pollutant Responses in Marine Organisms (PRIMO19), Matsuyama, Japan, June–July, Program Book, 247.
 - 45) Ogawa, Y., Tue, N. M., Goto, A., Subramanian, A., Parthasarathy, P., Bulbule, K. A., Tanabe, S. and Kunisue, T. (2017) : Organohalogen compounds in serum of e-waste recycling workers in India. 19th International Symposium on Pollutant Responses in Marine Organisms (PRIMO19), Matsuyama, Japan, June–July, Program Book, 248.
 - 46) Trung, N. T., Tue, N. M., Suzuki, G., Takahashi, S., Tanabe, S., Viet, P. H., Quan, D. P., Quang, P. D., Nga N. T. T., Tri, T. M., Huong, P. T. T., Dau, P. T., Thuy, P. C., Doan, D. V. and Tuyen, L. H. (2017) : Toxicity identification and evaluation of AHR ligand activities in urban ambient particulate matter from Hanoi-Vietnam. 19th International Symposium on Pollutant Responses in Marine Organisms (PRIMO19), Matsuyama, Japan, June–July, Program Book, 256.
 - 47) Hirano, M., Uchida, M., Arizono, K., Iwata, H. (2017) : Effects of a naturally synthesized dioxin, 1, 3, 7-tribromodibenzo-p-dioxin on the mysid transcriptome, 19th International Symposium on Pollutant Responses in Marine Organisms (PRIMO19), 松山市, 6-7月, 要旨集 O-017.
 - 48) Bak, S. M., Iida, M., Soshilov, A. A., Denison, M. S., Iwata, H., Kim, E. Y. (2017) : Auto-induction mechanism of aryl hydrocarbon receptor 2 gene by tcdd-activated ahr1 and ahr2 in the red seabream, 19th International Symposium on Pollutant Responses in Marine Organisms (PRIMO19), 松山市, 6-7月, 要旨集 O-042.
 - 49) Yoshinouchi, Y., Hirano, M., Nakata, H., Nomiyama, K., Tanabe, S., Kim, E. Y., Iwata, H. (2017) : Structure-activity relationships of baikal seal estrogen receptors and environmental pollutants, 19th International Symposium on Pollutant Responses in Marine Organisms (PRIMO19), 松山市, 6-7月, 要旨集 O-055.
 - 50) Ochiai, M., Nguyen, H. T., Kurihara, N., Hirano, M., Murakami, Y., Iwata, H. (2017) : Neurotoxicity assessment of environmental contaminants with chemically-induced neurons of dolphins, 19th International Symposium on Pollutant Responses in Marine Organisms (PRIMO19), 松山市, 6-7月, 要旨集 O-056.
 - 51) Guo, J., Iwata, H. (2017) : Risk assessment of triclosan in the global environment using a probabilistic approach, 19th International Symposium on Pollutant Responses in Marine Organisms (PRIMO19), 松山市, 6-7月, 要旨集 O-062.
 - 52) Nguyen, H. T., Yamamoto, K., Agusa, T., Hirano, M., Ochiai, M., Kim, E. Y., Iwata, H. (2017) : Hepatic transcriptome responses to bisphenol a prenatal exposure in rat offspring, 19th International Symposium on Pollutant Responses in Marine Organisms (PRIMO19), 松山市, 6-7月, 要旨集 O-069.
 - 53) Yamamoto, K., Nguyen, H. T., Agusa, T., Hirano, M., Ochiai, M., Kim, E. Y., Iwata, H. (2017) : Effects of prenatal exposure to bisphenol a on the liver weight and hepatic gene expression in rat offspring, 19th International Symposium on Pollutant Responses in Marine Organisms (PRIMO19), 松山市, 6-7月, 要旨集 P-003.

- 54) Wakayama, Y., Nakamura, M., Morita, Y., Yoshinouchi, Y., Iwata, H., Hirano, M., Nakata, H., Kawai, Y., Kubota, A. (2017) : In vivo and in silico assessment of estrogen-like effects of bisphenol analogues in zebrafish, 19th International Symposium on Pollutant Responses in Marine Organisms (PRIMO19), 松山市, 6-7月, 要旨集 P-006.
- 55) Hwang, J., Kannan, K., Evans, T. J., Iwata, H., Kim, E. Y. (2017) : Molecular structural analysis of specific ligand activity of polar bear (*ursus maritimus*) ahr, 19th International Symposium on Pollutant Responses in Marine Organisms (PRIMO19), 松山市, 6-7月, 要旨集 P-007.
- 56) Bak, S. M., Nakata, H., Iwata, H., Kim, E. Y. (2017) : Assessment of heavy oil-derived pahs for red seabream ahr activation by in silico and in vitro approaches, 19th International Symposium on Pollutant Responses in Marine Organisms (PRIMO19), 松山市, 6-7月, 要旨集 P-010.
- 57) Yoshinouchi, Y., Okuda, H., Hirano, M., Nomiyama, K., Tanabe, S., Kim, E. Y., Iwata, H. (2017) : Species differences in transactivation potencies of seal and dog estrogen receptors by hydroxylated pcbs, 19th International Symposium on Pollutant Responses in Marine Organisms (PRIMO19), 松山市, 6-7月, 要旨集 P-012.
- 58) Hirano, M., Ohno, Y., Iwata, H. (2017) : In silico and in vitro screening of the effects of ppcps on mysid ecdysteroid receptor signaling, 19th International Symposium on Pollutant Responses in Marine Organisms (PRIMO19), 松山市, 6-7月, 要旨集 P-013.
- 59) Legaspi, B. C. L., Tsuchiya, M. C., Hirano, M., Agusa, T., Matsuoka, J., Kunisue, T., Iwata, H. (2017) : Hepatic proteome analysis of nile tilapias from philippines contaminated with pops, 19th International Symposium on Pollutant Responses in Marine Organisms (PRIMO19), 松山市, 6-7月, 要旨集 P-017.
- 60) Guo, J., Ito, S., Nguyen, H. T., Iwata, H. (2017) : Effects of prenatal exposure to triclosan on the liver transcriptome in chicken embryos, 19th International Symposium on Pollutant Responses in Marine Organisms (PRIMO19), 松山市, 6-7月, 要旨集 P-018.
- 61) Ito, S., Iida, M., Nguyen, H. T., Agusa, T., Hirano, M., Ochiai, M., Kim, E. Y., Iwata, H. (2017) : Developmental effects of prenatal exposure to bisphenol a on the hepatic transcriptome in chicken embryos, 19th International Symposium on Pollutant Responses in Marine Organisms (PRIMO19), 松山市, 6-7月, 要旨集 P-019.
- 62) Tamura, S., Agusa, T., Hirano, M., Eguchi, A., Nomiyama, K., Tanabe, S., Kim, E. Y., Iwata, H. (2017) : Effects of in vivo exposure to pcbs on hepatic transcriptome and metabolome in beagle dogs, 19th International Symposium on Pollutant Responses in Marine Organisms (PRIMO19), 松山市, 6-7月, 要旨集 P-020.
- 63) Iida, M., Ochiai, M., Agusa, T., Fujii, S., Iwata, H. (2017) : Liver transcriptome changes by exposure to 4-oh-cb107 in male wistar rats, 19th International Symposium on Pollutant Responses in Marine Organisms (PRIMO19), 松山市, 6-7月, 要旨集 P-021.
- 64) Iida, M., Fujii, S., Uchida, M., Nakamura, H., Kagami, Y., Agusa, T., Hirano, M., Bak, S. M., Kim, E. Y., Iwata, H. (2017) : Identification of ahr signaling pathways affected by tcdd exposure in red seabream embryos, 19th International Symposium on Pollutant Responses in Marine Organisms (PRIMO19), 松山市, 6-7月, 要旨集 P-022.
- 65) Tsuchiya, M. C., Aquino, G. M., Kim, E. Y., Iwata, H. (2017) : Identification of cytochrome p450 gene families in the liver transcriptome of baikal seals (*pusa sibirica*), 19th International Symposium on Pollutant Responses in Marine Organisms (PRIMO19), 松山市, 6-7月, 要旨集 P-024.
- 66) Takaguchi, K., Nomiyama, K., Nishikawa, H., Mizukawa, H., Tanoue, R., Yoshinouchi, Y., Yokoyama, N., Ichii, O., Takiguchi, M., Nakayama, S., Ikenaka, Y., Ishizuka, M., Iwata, H., Kunisue, T., Tanabe, S. (2017) : Effects of pcb-exposure on thyroid hormone homeostasis of dogs and cats, 19th International Symposium on Pollutant Responses in Marine Organisms (PRIMO19), 松山市, 6-7月, 要旨集 P-060.
- 67) Nishida, Y., Ochiai, M., Sawa, S., Iwata, S., Iwata, H. (2017) : Effects of pops on the lymphocyte proliferation of captive bottlenose dolphins (*tursiops truncatus*), 19th International Symposium on Pollutant Responses in Marine Organisms (PRIMO19), 松山市, 6-7月, 要旨集 P-061.
- 68) Nomiyama, K., Motogi, K., Goto, A., Ochiai, M., Tajima, Y., Yamada, T. K., Isobe, T., Kunisue, T., Tanabe, S. (2017) : Nontargeted comprehensive analysis for persistent organohalogen compounds in finless porpoises from Seto Inland Sea., 19th International Symposium on Pollutant Responses in Marine Organisms (PRIMO 19), 松山市, 6-7月, 要旨集 O-004.
- 69) Egashira, K., Ochiai, M., Nguyen, M. T., Matsuda, A., Matsuishi, T., Tajima, Y., Yamada, T. K., Isobe, T., Tanabe, S., Kunisue, T. (2017) : Temporal trends of organohalogen compounds in toothed whales stranded at coastal areas in Japan,

- 19th International Symposium on Pollutant Responses in Marine Organisms (PRIMO19), 松山市, 6-7月, 要旨集 P-062.
- 70) Takahashi, S., Tue, N. M., Anh, H. Q., Takayanagi, C., Katsura, K., Suzuki, G., Takigami, H., Viet, P. H., Kunisue, T. and Tanabe, S. (2017) : Contaminaiton and human exposure to hazardous substances in modern waste recycling sites in Vietnam. 19th International Symposium on Pollutant Responses in Marine Organisms (PRIMO19), Matsuyama, Japan, June–July, Program Book, 70.
- 71) Anh, H. Q., Tue, N. M., Suzuki, G., Minh, T. B., Viet, P. H. and Takahashi, S. (2017) : Screening analysis of organic pollutants in dusts from ELV recycling and urban areas in Northern Vietnam. 19th International Symposium on Pollutant Responses in Marine Organisms (PRIMO19), Matsuyama, Japan, June–July, Program Book, 255.
- 72) 芳之内結加・奥田博貴・平野将司・野見山桂・田辺信介・金 恩英・岩田久人 (2017) : 水酸化PCBsによるアザラシ・イヌエストロゲン受容体転写活性可能の評価, 第44回日本毒性学会学術年会, 神奈川, 7月, 要旨集 P-56.
- 73) 川口将史・松本浩司・山本直之・仲山 慶・萩尾華子・柴田淳也・曾我部篤・川西亮太・和泉宏謙・赤染康久・須藤文和・一條裕之・村上安則 (2017) : ヨシノボリ属の種分化を促す神経基盤の解析, 第40回日本神経科学大会, 千葉, 7月.
- 74) 有蘭幸司・石橋弘志・内田雅也・吉本圭佑・山元涼子・富永伸明・石橋康弘 (2017) : 医薬品プレマリン成分エタイリン曝露によるヒメダカ繁殖阻害メカニズムの解明, 第44回日本毒性学会学術年会, 横浜, 7月, 要旨集, P-118.
- 75) Ishibashi, H., Uchida, M., Yoshimoto, K., Yamamoto, R., Tominaga, N., Ishibashi, Y., Arizono, K. (2017) : Reproductive and transgenerational effects of equilin in Japanese medaka (*Oryzias latipes*) and hepatic estrogen-responsive gene expression, 19th International Symposium on Pollutant Responses in Marine Organisms (PRIMO19), Matsuyama, Japan, July, Program Book, 162.
- 76) Mizukawa, H., Nomiyama, K., Nishikawa, H., Maehara, M., Takai, N., Yokoyama, N., Ichii, O., Takiguchi, M., Ikenaka, Y., Shouta, M. M., Takaguchi, K., Tanabe, S. and Ishizuka, M. (2017) : *In vivo* exposure to PCBs in cats : Analysis of metabolic capacities and effects on the thyroid hormone homeostasis. 37th International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants (DIOXIN 2017), Vancouver, Canada, August, Program, M2-13.
- 77) Takaguchi, K., Nomiyama, K., Nagano, Y., Mizukawa, H., Nakatsu, S., Kunisue, T. and Tanabe, S. (2017) : Tissue distribution of polychlorinated biphenyls and their metabolites in dog and cat. 37th International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants (DIOXIN 2017), Vancouver, Canada, August, Program, M2-14.
- 78) Kunisue, T., Egashira, K., Isobe, T., Nakayama, K., Tajima, Y., Yamada, T. K. and Tanabe, S. (2017) : Temporal trends of brominated flame retardants and organochlorines in melon-headed whales stranded along the Japanese coastal waters : Utilization of samples and data stored in *es*-BANK and ChemTHEATRE. 37th International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants (DIOXIN 2017), Vancouver, Canada, August, Program, P65-E.
- 79) Tanaka, K., Nomiyama, K., Mizukawa, H., Takaguchi, K., Tanoue, R., Saengtienchai, A., Sainnoxoi, T., Yokoyama, N., Ichii, O., Takiguchi, M., Nakayama, S., Ikenaka, Y., Ishizuka, M., Kunisue, T. and Tanabe, S. (2017) : Identification for the biotransformation of BDE209 by *in vivo* toxicokinetic analysis in *Felis catus*. 37th International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants (DIOXIN 2017), Vancouver, Canada, August, Program, P118-T.
- 80) Takahashi, S., Takayanagi, C., Tue, N. M., Suzuki, G., Tuyen, L. H., Viet, P. H., Tanabe, S. and Sakai, S. (2017) : Toxicity identification evaluation of dioxin-related compounds in dust from end-of-life vehicle recycling sites in Northern Vietnam. 37th International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants (DIOXIN 2017), Vancouver, Canada, August, Program, P127-A.
- 81) Goto, A., Tue, N. M., Someya, M., Isobe, T., Takahashi, S., Tanabe, S. and Kunisue, T. (2017) : Occurrence and potential sources of brominated/chlorinated dibenzo-*p*-dioxins in mussels from the Seto Inland Sea, Japan. 37th International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants (DIOXIN 2017), Vancouver, Canada, August, Program, P143-S.
- 82) Tue, N. M., Matsushita, T., Goto, A., Itai, T., Asante, K. A., Tanabe, S. and Kunisue, T. (2017) : Distribution and composition of brominated/chlorinated dioxins and diphenyl ethers in surface soil from Agbogbloshie, Ghana. 37th International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants (DIOXIN 2017), Vancouver, Canada, August, Program, P144-S.

- 83) Nomiyama, K., Yamamoto, Y., Mizukawa, H., Takiguchi, M., Eguchi, A., Nakayama, S., Ikenaka, Y., Ishizuka, M., Kunisue, T. and Tanabe, S. (2017) : DecaBDE might be associated with inhibition of thyroid hormone levels in serum of Japanese cats. 37th International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants (DIOXIN 2017), Vancouver, Canada, August, Program, P179-A.
- 84) Mukai, K., Fujimori, T., Shiota, K., Takaoka, M., Funakawa, S., Takeda, A. and Takahashi, S. (2017) : Quantification of total organohalogen (TOX) in environmental solid samples by using combustion-ion chromatography. 37th International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants (DIOXIN 2017), Vancouver, Canada, August, Abstract list 9743.
- 85) Takahashi, S. (2017) : Contamination and human exposure to micropollutants including dioxin-related compounds in informal recycling sites for e-waste and end-of-life vehicles. 37th International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants (DIOXIN 2017), Vancouver, Canada, August, Program, Plenary Speech (Aug. 25) .
- 86) Eguchi, A., Nomiyama, K., Sakurai, K., Trang, P., Viet, P., Takahashi, S., Iwata, H., Tanabe, S., Todaka, E. and Mori, C. (2017) : Exploration of lead exposure related biological pathways in Vietnamese acid-lead battery recycling workers. Chemical Hazard Symposium (Joint Seminar on Environmental Chemistry and Toxicology), Sapporo, Japan, August, Abstract Book, 9.
- 87) Tanoue, R., Margiotta-Casaluci, L., Huerta, B., Runnalls, T. J., Nomiyama, K., Kunisue T., Tanabe, S. and Sumpter, J. P. (2017) : Uptake and metabolism of opioid analgesic tramadol in fish, and a linkage between internal concentrations and behavioural effects. Chemical Hazard Symposium (Joint Seminar on Environmental Chemistry and Toxicology), Sapporo, Japan, August, Abstract Book, 13.
- 88) Kondo, T., Ikenaka, Y., Nakayama, S. M. M., Kawai, Y. K., Mizukawa, H., Mitani, Y., Nomiyama, K., Tanabe, S., Ishizuka, M. (2017) : Evolution and enzymatic activity of Phase II drug metabolism enzymes in Carnivores. Chemical Hazard Symposium (Joint Seminar on Environmental Chemistry and Toxicology), Sapporo, Japan, August, Abstract Book, 14.
- 89) Takaguchi, K., Nomiyama, K., Nishikawa, H., Mizukawa, H., Tanoue, R., Yoshinouchi, Y., Yokoyama, N., Ichii, O., Takiguchi, M., Nakayama, S., Ikenaka, Y., Ishizuka, M., Iwata, H., Kunisue, T. and Tanabe, S. (2017) : PCB-induced disruption of thyroid hormone homeostasis in dogs and cats. Chemical Hazard Symposium (Joint Seminar on Environmental Chemistry and Toxicology), Sapporo, Japan, August, Abstract Book, 18.
- 90) Kraisiri, K., Mizukawa, H., Ikenaka, Y., Nakayama, S. M. M., Nomiyama, K., Yokoyama, N., Sasaoka, K., Ichii, O., Takiguchi, M., Nishikawa, H., Tanaka, K., Takaguchi, K., Tanabe, S. and Ishizuka, M. (2017) : Serum biochemical responses in cats exposed to organohalogen compounds. Chemical Hazard Symposium (Joint Seminar on Environmental Chemistry and Toxicology), Sapporo, Japan, August, Abstract Book, 28-29.
- 91) Tanoue, R., Nozaki, K., Nomiyama, K., Subramanian, An., Bulbule, K. A., Parthasarathy, P., Sudaryanto, A., Isobe, T., Kunisue, T. and Tanabe, S. (2017) : Occurrence of 72 pharmaceuticals and personal care products (PPCPs) in surface water from India, Indonesia, and Japan. The 7th Joint Forum of Environmental Sciences 2017, Matsuyama, Japan, September, Abstract Book, 13.
- 92) Kunisue, T. (2017) : Contamination issue of organohalogen compounds in e-waste recycling sites. The 7th Joint Forum of Environmental Sciences 2017, Matsuyama, Japan, September, Abstract Book, 14.
- 93) Nozaki, K., Tanoue, R., Nomiyama, K., Subramanian, An., Bulbule, K. A., Parthasarathy, P., Viet, P. H., Tuyen, L. H., Sudaryanto, A., Isobe, T., Kunisue, T. and Tanabe, S. (2017) : Contamination status and risk assessment of pharmaceuticals and personal care products (PPCPs) in freshwater fish from Asian developing countries. The 7th Joint Forum of Environmental Sciences 2017, Matsuyama, Japan, September, Abstract Book, 22.
- 94) Yoshinouchi, Y., Hirano, M., Nomiyama, K., Tanabe, S., Kim, E. Y. and Iwata, H. (2017) : Molecular mechanisms underlying species differences in transactivation potencies of seal and dog estrogen receptors by OH-PCBs. The 7th Joint Forum of Environmental Sciences 2017, Matsuyama, Japan, September, Abstract Book, 24.
- 95) 小川雄平・Tue, N. M.・後藤哲智・Subramanian, An.・Parthasarathy, P.・Bulbule, K. A.・田辺信介・国末達也 (2017) : インド・ベンガル湾に存在する e-waste リサイクル処理施設労働者の臭素系難燃剤汚染一作業環境改善による血中レベルの低減一, 第28回廃棄物資源循環学会研究発表会, 東京, 9月, 講演集, 493-494.
- 96) Kunisue, T., Egashira, K., Isobe, T., Nakayama, K., Tajima, Y., Yamada, T. K. and Tanabe, S. (2017) : Persistent organic pollutants in melon-headed whales stranded along the Japanese coastal waters : temporal trend analyses using samples

- and data stored in *es*-BANK and ChemTHEATRE. The 14th International Symposium on Persistent Toxic Substances, Nagoya, Japan, September, Abstract Book 22.
- 97) Kunisue, T. (2017) : Emerging contamination issue of persistent toxic substances in e-waste recycling sites. The 14th International Symposium on Persistent Toxic Substances, Nagoya, September, Abstract Book 67.
- 98) Nguyen, H. T., Yamamoto, K., Agusa, T., Hirano, M., Ochiai, M., Kim, E. Y., Iwata, H. (2017) : Transgenerational effects of bisphenol a on liver transcriptome of rat offspring, Vietnam – Japan Scientific Exchange Meeting 2017, 9月, 東京, 要旨集 PF-01.
- 99) Tamura, S., Agusa, T., Hirano, M., Eguchi, A., Nomiyama, K., Tanabe, S., Kim, E. Y., Iwata, H. (2017) : Effects on hepatic transcriptome and metabolome in beagle dogs treated with PCBs, The International Symposium on Persistent Toxic Substances (ISPTS2017), 愛知県, 9月, 要旨集 OS3-1.
- 100) Nguyen, H. T., Yamamoto, K., Agusa, T., Hirano, M., Ochiai, M., Kim, E. Y., Iwata, H. (2017) : Gender and life stage differences in effects of prenatal exposure to bisphenol A on the liver transcriptome of rat offspring, The International Symposium on Persistent Toxic Substances (ISPTS2017), 愛知県, 9月, 要旨集 PS3-4.
- 101) Ito, S., Iida, M., Nguyen, H. T., Agusa, T., Hirano, M., Ochiai, M., Kim, E. Y., Iwata, H. (2017) : Transcriptome analysis to assess the effects of prenatal bisphenol A exposure on developing chicken embryos, The International Symposium on Persistent Toxic Substances (ISPTS2017), 愛知県, 9月, 要旨集 PS3-8.
- 102) Ochiai, M., Isobe, T., Tajima, Y., Yamada, T. K., Nomiyama, K., Kunisue, T., Iwata, H., Tanabe, S. (2017) : Persistent organic pollutants (POPs) in dolphin species – Species- and tissue-specific accumulation –, 10th International Meeting of Asian Society of Conservation Medicine, サラワク, マレーシア, 9月, 要旨集47.
- 103) 仲山 慶・磯部友彦・半藤逸樹・宇野誠一・大野暢亮・国末達也 (2017) : 環境モニタリング情報のデータベース化～ ChemTHEATRE の取り組みと課題～, 和歌山, 9月.
- 104) Sawayama, E., Tanizawa, S., Kitamura, S. I., Nakayama, K., Ohta, K., Ozaki, A., Okamoto, H., Takagi, M. (2017) : A robust male broomstick individual of red sea bream (*Pagrus major*) resistant to RSIVD : genetic dissection and application for marker-assisted breeding, The JSFS 85th Anniversary-Commemorative International Symposium “Fisheries Science for Future Generations”, Tokyo, Japan, September.
- 105) 北村真一・水田萌優・仲山 慶・山中旅人・柳田哲矢・魚住亮輔・広瀬裕一 (2017) : 検鏡によるマボヤ被嚢軟化症の診断法の確立, 平成29年度日本魚病学会秋季大会, 宮崎, 9月.
- 106) 仲山 慶・加茂将史・宇野誠一・富山大輔・山根雅之 (2017) : アルコールエトキシレート同族体間での有害性メカニズムの類似性の検証, 第23回日本環境毒性学会研究発表会, 東京, 9月, 講演要旨集, 40.
- 107) 坂口ももか・山口明美・内田雅也・富永伸明・石橋弘志・有蘭幸司 (2017) : ネオニコチノイド系農薬がメダカ卵の発生に及ぼす影響, 第23回日本環境毒性学会研究発表会, 東京, 9月, 講演要旨集, 14.
- 108) 西口慎吾・和田直久・山城秀之・石橋弘志・竹内一郎 (2017) : 2016年夏季の沖縄県沿岸域における造礁性サンゴの白化過程の解析－ワイパー式メモリー水中カメラを用いた瀬底島沿岸域での観測結果, 第23回日本環境毒性学会研究発表会, 東京, 9月, 講演要旨集, 33.
- 109) 内田雅也・示野誠也・山口明美・大河平紀司・富永伸明・石橋弘志・有蘭幸司 (2017) : メダカ胚への物質導入法を利用したリチウムの生体影響評価, 第23回日本環境毒性学会研究発表会, 東京, 9月, 講演要旨集, 39.
- 110) 石橋弘志・内田雅也・富永伸明・吉本圭佑・山元涼子・石橋康弘・有蘭幸司 (2017) : 医薬品成分 equilin によるメダカ繁殖影響－ Adverse Outcome Pathways (AOP) の予測－, 第23回日本環境毒性学会研究発表会, 東京, 9月, 講演要旨集, 44-45.
- 111) Ochiai, M., Isobe, T., Tajima, Y., Nomiyama, K., Kunisue, T., Iwata, H. and Tanabe, S. (2017) : Persistent organic pollutants (POPs) in dolphin species : Species and tissue-specific accumulation. 10th International Meeting of Asian Society of Conservation Medicine, Kuching, Sarawak, Malaysia, October, Programme Book, 47.
- 112) Kunisue, T., Matsushita, T., Tue, N.M., Goto, A., Itai, T., Asante, K.A. and Tanabe, S. (2017) : Soil contamination by organohalogen compounds in the Agbogbloshie e-waste recycling site in Accra, Ghana. 4th International Conference on Final Sinks, Kyoto, October, Abstract Book 126-127.
- 113) Takahashi, S., Anh, H. Q., Tue, N. M., Suzuki, G., Minh, T. B., Viet, P. H. and Sakai, S.-I. (2017) : Assessment of micropollutants released from recycling activities of end-of-life vehicles (ELV) in Northern Vietnam. 4th International Conference on Final Sinks, Kyoto, October, Abstract Book 128-129.
- 114) Kunisue, T. (2017) : Comprehensive screening of organohalogen compounds in soils from Agbogbloshie e-waste

- recycling site in Accra, Ghana. International Workshop on Waste Prevention & 3R 2017, Kyoto, October.
- 115) Takahashi, S., Anh, H. Q., Takayanagi, C., Tue, N. M., Suzuki, G., Tuyen, L. H., Viet, P. H., Tanabe, S. and Sakai, S.-I. (2017) : Status of Contamination and Emission Sources of POPs and Dioxin-Related Compounds in ELV Recycling Sites in Northern Vietnam. International Workshop on Waste Prevention & 3R 2017, Kyoto, October.
- 116) 野見山桂 (2017) : 野生生物に残留するハロゲン化フェノール類の蓄積特性と毒性影響評価 (招待講演), 第5回バイオシグナル研究会「生命環境と生物シグナル応答－基礎から応用まで－」, 神戸市, 10月.
- 117) 仲山 慶・林 彬勲・神保宇嗣・細矢 剛・国末達也・白石寛明 (2017) : 化学物質の環境リスク評価・リスクコミュニケーションのためのデータベース統合利用の試み, トーゴの日シンポジウム2017～バイオデータベース「作る」から「使う」へ～, 東京, 10月, 要旨集, 47.
- 118) 澤山英太郎・北村真一・仲山 慶・太田耕平・岡本裕之・尾崎照遵・高木基裕 (2017) : マーカー補助選抜法による養殖マダイのマダイイリドウイルス耐性系統の開発と実用化, 日本水産増殖学会大会第16回大会, 宇和島市, 11月.
- 119) Nakayama, K., Isobe, T., Uno, S., Handoh, I. C., Ohno, N., Ueno, D., Kunisue, T. (2017) : Introduction to ChemTHEATRE : Open data leads to a new era for the risk evaluation and communication, SETAC North America 38th Annual Meeting, Minneapolis, MN, USA, November, Abstract Book, 194.
- 120) Nakayama, K., Kitamura, S. I. (2017) : Determination of suitable host-pathogen combinations to detect the chemical effects on susceptibility to infectious disease, SETAC North America 38th Annual Meeting, Minneapolis, MN, USA, November, Abstract Book, 44.
- 121) 南出成梧・石橋弘志・竹内一郎 (2017) : 除草剤を曝露したウスエダミドリイシおよび褐虫藻における熱ショックタンパク質遺伝子の発現解析, 日本サンゴ礁学会第20回大会, 東京, 11月, 要旨集, O-02.
- 122) Arizono, K., Ishibashi, H., Tominaga, N., Uchida, M. (2017) : Reproductive and transgenerational effects of equilin in Japanese medaka and hepatic estrogen-responsive gene expression, SETAC North America 38th Annual Meeting, Minneapolis, MN, USA, November, Abstract Book, 155.
- 123) Guo, J., Ito, S., Nguyen, H. T., Yamamoto, K., Tanoue, R., Kunisue, T., Iwata, H. (2017) : Hazard assessment of triclosan predicted from the liver transcriptome in chicken embryos, 第20回環境ホルモン学会, 神戸市, 12月, 要旨集 P27.
- 124) 伊藤匠平・飯田 緑・Thanh Nguyen Hoa・阿草哲郎・平野将司・落合真理・金 恩英・岩田久人 (2017) : ビスフェノール A の出生前暴露によるニワトリ新生雛の肝臓トランスクリプトームへの影響の雌雄差, 第20回環境ホルモン学会, 神戸市, 12月, 要旨集 P21.
- 125) Nguyen, H. T., Yamamoto, K., Iida, M., Agusa, T., Hirano, M., Ochiai, M., Kim, E. Y., Iwata, H. (2017) : Hepatic transcriptome profiles of rats exposed to bisphenol A during pregnancy : comparison with those of their offspring, 第20回環境ホルモン学会, 神戸市, 12月, 要旨集 P27.
- 126) 芳之内結加・奥田博貴・平野将司・野見山桂・田辺信介・金 恩英・岩田久人 (2017) : イヌ・アザラシ・マウスのエストロゲン受容体転写活性化能の種差を規定する分子機序, 第20回環境ホルモン学会, 神戸市, 12月, 要旨集 SS2-5.
- 127) 久保田彰・若山裕己・中村倫子・川合佑典・芳之内結加・岩田久人・平野将司・中田晴彦 (2017) : ゼブラフィッシュをモデルとした *in silico* および *in vivo* 解析によるビスフェノール類のエストロゲン様作用の評価, 第20回環境ホルモン学会, 神戸市, 12月, 要旨集 P18.
- 128) 内田雅也・山口明美・平野将司・河野 晋・石橋弘志・有蘭幸司・富永伸明 (2017) : ネオニコチノイド系農薬によるメダカ胚トランスクリプトームへの影響, 第20回環境ホルモン学会, 神戸市, 12月, 要旨集, 63.
- 129) 山口明美・平野将司・河野 晋・石橋弘志・高橋圭介・加藤恵介・内田雅也・有蘭幸司・富永伸明 (2017) : メダカ初期胚を用いたネオニコチノイドと代謝物の発生影響評価, 第20回環境ホルモン学会, 神戸市, 12月, 要旨集, 64.
- 130) 広田葉々・平野将司・石橋弘志・山元涼子・高本亜希子・有蘭幸司 (2017) : *In silico* 試験系を用いたパラオキシ安息香酸エチルのエストロゲン作用の評価, 第20回環境ホルモン学会, 神戸市, 12月, 要旨集, 83.
- 131) 門野真弥・畑 啓生・仲山 慶・北村真一・吉藤晃太・山本貴仁・今城雅之 (2017) : 愛媛県西条市馬淵川・サラサラ川水系におけるリアルタイム PCR 法を用いたコイヘルペスウイルス感染拡大の実態調査, 平成29年度日本水産学会中国・四国支部例会, 岡山, 12月.

生態系解析部門

- 1) 鈴木 聡 (2017) : 人獣医療と水圏環境間での薬剤耐性遺伝子の動態, 第32回日本環境感染症学会総会・学術集会, 神戸市, 2月 (招待講演).
- 2) 澤山英太郎・北村真一・仲山 慶・太田耕平・高木基裕 (2017) : マダイの RSIVD 耐性遺伝子座の探索, 平成29年度日本水産学会春季大会, 東京, 3月.
- 3) 川西亮太・吉村研人・渡辺裕也・三宅 洋・井上幹生・赤坂卓美 (2017) : 日本の河川に生息する魚類の分布と攪乱レジームとの関係性, 第64回日本生態学会大会, 東京, 3月, 要旨 P2-D-156.
- 4) Kameyama, S., Kawaguchi, Y., Inoue, M., Miyake Y. and Nohara S. (2017) : Spatio-temporal change of eel habitat distribution in Japan -The linkages between forests, rivers, SATOYAMA and sea-, The 64th Annual Meeting of Ecological Society of Japan, Tokyo, Japan, March, Abstract L02-03.
- 5) 柳田哲矢・仲山 慶・山中旅人・北村真一・広瀬裕一 (2017) : 養殖マボヤ被囊軟化症の原因鞭毛虫 *Azumiobodo hoyamushi* の遺伝的構造解析のためのマイクロサテライトマーカーの開発, 第86回日本寄生虫学会大会, 札幌, 5月.
- 6) 渡辺裕也・椋田勇希・赤坂卓美・森 照貴・三宅 洋 (2017) : ダム建設による国内河川の流量レジームの改変, 土木学会四国支部第23回技術研究発表会, 松山市, 5月, 講演概要 jsce7-069-2017.
- 7) 泉 哲平・筒井大貴・三宅 洋 (2017) : 河川周辺の土地被覆が底生動物に及ぼす影響の解明, 土木学会四国支部第23回技術研究発表会, 松山市, 5月, 講演概要 jsce7-107-2017.
- 8) 目崎文崇・三宅 洋・泉 哲平 (2017) : 子供にとって魅力的な生物に着目した都市河川の親水性評価, 土木学会四国支部第23回技術研究発表会, 松山市, 5月, 講演概要 jsce7-128-2017.
- 9) Tiegs, S., Costello, D., Szlag, D., Ethaiya, D., Isken, M. and Consortium CELLDDEX (2017) : Global-scale patterns and drivers of organic-matter decomposition in streams and riparian zones. Society for Freshwater Science 2017 Annual Meeting, Raleigh, USA, June, Abstract C31.
- 10) 鈴木 聡 (2017) : 多剤耐性遺伝子の環境中残存機構と人への暴露リスク評価, 第9回 LaMer 研究集会 環境薬剤耐性菌研究の最前線, 松山市, 7月.
- 11) 鈴木 聡 (2017) : 薬剤耐性遺伝子の巨大リザーバとしての水圏環境: レジストームとダイナミクス, 第20回日本臨床腸内微生物学会, 岐阜, 8月 (招待講演).
- 12) Sawayama, E., Tanizawa, S., Kitamura, S. I., Nakayama, K., Ohta, K., Ozaki, A., Okamoto, H. and Takagi, M. (2017) : A robust male broomstick individual of red sea bream (*Pagrus major*) resistant to RSIVD : genetic dissection and application for marker-assisted breeding. The JSFS 85th Anniversary-Commemorative International Symposium "Fisheries Science for Future Generations", Tokyo, Japan, September.
- 13) Obayashi, Y., Imanaka K., Nishikawa, J. (2017) : Microbial degradation of carcass of gelatinous zooplankton, moon jellyfish (*Aurelia coerulea*) and comb jelly (*Beroe cucumis* s.l.), 7th Joint Forum of Environmental Sciences 2017, 松山市, 9月, 要旨集 p16.
- 14) 北村真一・水田萌優・仲山 慶・山中旅人・柳田哲矢・魚住亮輔・広瀬裕一 (2017) : 検鏡によるマボヤ被囊軟化症の診断法の確立, 平成29年度日本魚病学会秋季大会, 宮崎, 9月.
- 15) 渡辺裕也・吉村研人・赤坂卓美・森 照貴・三宅 洋 (2017) : 国内河川における攪乱レジームが底生動物の多様性に及ぼす影響, ELR2017, 名古屋市, 9月, 講演要旨集 p.243.
- 16) 三宅 洋・目崎文崇・泉 哲平 (2017) : 子供にとって魅力的な生物に着目した都市河川の親水性評価, ELR2017, 名古屋市, 9月, 講演要旨集 p. 251.
- 17) 目崎文崇・三宅 洋・泉 哲平 (2017) : 子供にとって魅力的な生物に着目した松山市における都市河川の親水性評価, 第45回環境システム研究発表会, 吹田市, 10月, 論文集 p. II_69-II_75.
- 18) 大林由美子・今中加奈・西川 淳 (2017) : 海水中の微生物群集によるミズクラゲ遺骸とウリクラゲ遺骸の分解, 日本海洋学会2017年度秋季大会, 仙台市, 10月, 要旨集 p242.
- 19) Suzuki, S. (2017) : Aquatic environments as a reservoir of antibiotic resistance genes. 4th International Congress on Pathogens at the Human-Animal Interface, Doha, 11月 (招待基調講演) .
- 20) Kohyama, Y. and Suzuki, S. (2017) : Antibiotic resistance gene transfer between marine bacteria and E.coli in starved cells and oligotrophic condition. 4th International Congress on Pathogens at the Human-Animal Interface, Doha, 11月 .
- 21) 高柳 恵・松浦弘行・吉川 尚・宗林留美・大林由美子・西川 淳 (2017) : 駿河湾のメソ動物プランクトン I : 高次分類群組成および安定同位体比を用いた食物網解析, 富士山麓アカデミック&サイエンスフェア2017, 静

- 岡県沼津市, 11月, 要旨集 p135.
- 22) 山田美香・中島芙優・松浦弘行・吉川 尚・宗林留美・大林由美子・西川 淳 (2017): 駿河湾のメソ動物プランクトンⅡ: 枝角類およびオキアミ類, 富士山麓アカデミック&サイエンスフェア2017, 静岡県沼津市, 11月, 要旨集 p136.
 - 23) 中村七海・楊 為善・松浦弘行・吉川 尚・宗林留美・大林由美子・西川 淳 (2017): 駿河湾のメソ動物プランクトンⅢ: 端脚類およびヤムシ類, 富士山麓アカデミック&サイエンスフェア2017, 静岡県沼津市, 11月, 要旨集 p137.
 - 24) 見崎日向子・松浦弘行・吉川 尚・宗林留美・大林由美子・西川 淳 (2017): 駿河湾のメソ動物プランクトンⅠ: 高次分類群組成および安定同位体比を用いた食物網解析, 富士山麓アカデミック&サイエンスフェア2017, 静岡県沼津市, 11月, 要旨集 p138.
 - 25) 佐藤陽香・松浦弘行・吉川 尚・宗林留美・大林由美子・西川 淳 (2017): 駿河湾における浮遊性貝形類の種多様性と季節変動, 富士山麓アカデミック&サイエンスフェア2017, 静岡県沼津市, 11月, 要旨集 p140.
 - 26) 伊藤 巧・木佐美慧・春田直輝・吉川 尚・松浦弘行・西川 淳・宗林留美・大林由美子 (2017): 駿河湾における植物プランクトン群集の分類群及び種組成, 富士山麓アカデミック&サイエンスフェア2017, 静岡県沼津市, 11月, 要旨集 p141.
 - 27) 澤山英太郎・北村真一・仲山 慶・太田耕平・岡本裕之・尾崎照遵・高木基裕 (2017): マーカー補助選抜法による養殖マダイのマダイイリドウイルス耐性系統の開発と実用化, 日本水産増殖学会大会第16回大会, 宇和島市, 11月.
 - 28) Nakayama, K. and Kitamura, S.I. (2017): Determination of suitable host-pathogen combinations to detect the chemical effects on susceptibility to infectious disease. SETAC North America 38th Annual Meeting, Minneapolis, MN, USA, November.
 - 29) 門野真弥・畑 啓生・仲山 慶・北村真一・吉藤晃太・山本貴仁・今城雅之 (2017): 愛媛県西条市馬渕川・サラサラ川水系におけるリアルタイム PCR 法を用いたコイヘルペスウイルス感染拡大の実態調査, 平成29年度日本水産学会中国・四国支部例会, 岡山, 12月.

5. 学会及び社会における活動

(平成29年度)

5.1 併任・委員会委員等

環境動態解析部門

郭 新宇

- 1) 招聘上席研究員，独立行政法人海洋研究開発機構 APL
- 2) 客員研究員，国家海洋局第二海洋研究所（中国）
- 3) 客員教授，天津科技大学（中国）
- 4) 客員教授，中国海洋大学（中国）
- 5) 審査委員，独立行政法人日本学術振興会
- 6) 書面審査員，中国国家自然科学基金委員会
- 7) 地球惑星科学委員会 SCOR 分科会 SIMSEA 小委員会委員

森本 昭彦

- 1) 瀬戸内海環境情報基本調査有識者検討会委員，瀬戸内海環境保全協会
- 2) IOC 協力推進委員会委員，海洋研究開発機構
- 3) 海洋研究課題審査部会部会員，海洋研究開発機構
- 4) 共同利用・共同研究委員会委員，名古屋大学宇宙地球環境研究所
- 5) COMPIRA 委員会委員，株式会社勁草書房

化学汚染・毒性解析部門

田辺 信介

- 1) 客員研究員，独立行政法人国立環境研究所
- 2) 科学技術・学術審議会専門委員（学術分科会），文部科学省
- 3) 科学技術動向研究センター専門調査員，文部科学省
- 4) 科学研究費補助金における評価に関する委員会の評価者，文部科学省
- 5) 国際科学研究費委員会専門委員，独立行政法人日本学術振興会
- 6) 国際共同研究強化総合系小委員会（環境学）委員，独立行政法人日本学術振興会
- 7) IOC 協力推進委員会海洋環境・生物国内専門部会委員，独立行政法人海洋研究開発機構
- 8) 中央環境審議会環境保健部会化学物質審査小委員会委員，環境省
- 9) 中央環境審議会臨時委員，環境省
- 10) 新規 POPs 等研究会委員，環境省
- 11) POPs 条約有効性評価国内検討委員会委員，環境省
- 12) 臭素系ダイオキシン類の排出源情報の収集・整理に関する調査業務の検討会委員，環境省
- 13) 「海洋環境保全調査」に係る海洋環境モニタリング調査検討会検討員，環境省
- 14) ポリ塩化ビフェニール廃棄物処理事業検討会委員，環境省
- 15) ポリ塩化ビフェニール廃棄物処理事業検討委員会大阪事業部会委員（副主査），環境省
- 16) ポリ塩化ビフェニール廃棄物処理事業検討委員会北九州事業部会委員（副主査），環境省
- 17) 微量 PCBs 混入廃電気機器等処理実証試験検討委員会委員，環境省
- 18) PCB 廃棄物無害化処理認定申請等に係る技術評価委員会，環境省
- 19) PCB 廃棄物適正処理に関する検討委員会委員，環境省
- 20) EXTEND2016野生生物の生物学的知見研究検討部会委員，環境省

- 21) EXTEND2016化学物質の内分泌かく乱作用に関する検討会委員（座長），環境省
- 22) 南極環境実態把握モニタリング事業検討委員会委員，環境省
- 23) 国立水俣病総合研究センター研究評価委員会委員，環境省
- 24) 愛媛県環境審議会委員，愛媛県
- 25) 愛媛県環境審議会化学物質環境保全部会会長，愛媛県
- 26) 愛媛県環境創造センター客員研究員，愛媛県
- 27) 愛媛県廃棄物処理センター評議員，愛媛県
- 28) 愛媛県沿岸漂着物対策推進協議会会長，愛媛県
- 29) 西条市環境審議会委員長，愛媛県西条市
- 30) 内子町環境保全審議会委員，愛媛県喜多郡内子町
- 31) 四国地区しろあり対策協会会長，公益社団法人日本しろあり対策協会
- 32) 日本しろあり対策協会防除技術委員会委員，公益社団法人日本しろあり対策協会

岩田 久人

- 1) 化学物質の内分泌かく乱作用に関連する報告の信頼性評価作業班検討員，環境省
- 2) 科学研究費委員会専門委員，独立行政法人日本学術振興会

国末 達也

- 1) 学術諮問委員，(社)日本化学工業協会
- 2) 愛媛県衛生環境評価専門部会委員，愛媛県
- 3) 特別研究員等審査会専門委員，卓越研究員候補者選考委員会書面審査員および国際事業委員会書面審査委員・書面評価員，独立行政法人日本学術振興会

生態系解析部門

鈴木 聡

- 1) 書面審査専門評価委員，(公社)農林水産・食品産業技術振興協会

北村 真一

- 1) Researcher: Food and Agriculture Organization of the united nations (FAO: 国際連合食糧農業機関)
- 2) 研究指導委員，宮城県水産技術総合センター
- 3) 愛媛県消費・安全対策交付金外部委員，愛媛県

大林由美子

- 1) 特別研究員等審査専門委員，(独法)日本学術振興会
- 2) 国際事業委員会書面審査員・書面評価員，(独法)日本学術振興会

5. 2 学協会委員等

環境動態解析部門

郭 新宇

- 1) 評議員，日本海洋学会

森本 昭彦

- 1) 評議員，日本海洋学会
- 2) 編集員，Journal of Oceanography
- 3) 委員，沿岸海洋研究会

吉江 直樹

- 1) 委員, 北太平洋海洋科学機構 (PICES) 複合ストレスに対する生態系応答の評価指標開発に関する作業部会 (WG28)
- 2) 委員, 北太平洋海洋科学機構 (PICES) 北太平洋沿岸海洋観測に関する委員会 (AP-NPCOOS)
- 3) 委員, 日本海洋学会沿岸海洋研究部会 事業部会
- 4) 部会長, 宇和島環境教育協議会 教育カリキュラム部会
- 5) 委員, 日本学術会議環境学委員会・地球惑星科学委員会合同 FE・WCRP 合同分科会 FEC Japan

化学汚染・毒性解析部門

田辺 信介

- 1) 理事, 内分泌攪乱化学物質学会
- 2) 理事, 日本環境化学会
- 3) 評議員, 日本環境化学会
- 4) 評議員, 環境放射能除染学会
- 5) 幹事・副編集委員長, 日本環境毒性学会
- 6) 非常勤講師, 熊本県立大学
- 7) 環境問題助成選考委員会委員, 日本生命財団
- 8) Editorial Board Member, Marine Environmental Research (Elsevier)

岩田 久人

- 1) Editorial Board Member, Ecotoxicology and Environmental Safety, Elsevier
- 2) Editorial Board Member, Korean Society of Environmental Risk Assessment and Health Science
- 3) 理事, 内分泌攪乱化学物質学会
- 4) Guest Editor, Marine Environmental Research, Elsevier

野見山 桂

- 1) 幹事長, 日本水環境学会中国・四国支部
- 2) 評議員, 日本環境化学会

仲山 慶

- 1) 幹事・編集委員, 日本環境毒性学会

生態系解析分野

鈴木 聡

- 1) Associate Editor, Microbes and Environments, 日本微生物生態学会・土壌微生物学会・台湾微生物生態学会
- 2) Associate Editor, Frontiers in Microbiology, Nature Publishing Group
- 3) 編集委員, 日本微生物生態学会
- 4) プログラム委員, International Congress on Pathogens at the Human-Animal Interface (ICOPHAI)

北村 真一

- 1) 編集委員, Journal of Fish Pathology, 韓国魚病学会
- 2) 評議員, 日本魚病学会

大林由美子

- 1) 男女共同参画・ダイバーシティ推進委員会委員, 日本微生物生態学会

5.3 学会, 講演会などの開催 (センター主催または共催)

- 1) LaMer 研究集会
「途上国の水環境における微量有機汚染物質とその一斉分析」
期日：平成29年1月31日 (水)
会場：愛媛大学農学部環境産業施設
- 2) 第15回 LaMer 特別講演会
「複合微生物触媒によるポリ塩化ビフェニル類 (PCBs) の分解とその実用化」
期日：平成29年5月16日 (火)
会場：愛媛大学農学部 3階多目的ホール
講師：原富次郎 (京都府立医科大学 医学部 医学科 保健・予防医学教室 多機能酵素学特別研究ユニット特任教授)
- 3) 国際シンポジウム
19th International Symposium on Pollutant Responses in Marine Organisms
期日：平成29年6月30日 (金) ~ 7月3日 (月)
会場：松山大学 カルフル・樋又キャンパス
- 4) LaMer 研究集会
「環境薬剤耐性菌研究の最前線」
期日：平成29年7月15日 (土)
会場：愛媛大学理学部 総合研究棟Ⅱ 212号室
- 5) 第16回 LaMer 特別講演会
「Analytical solution of the nitracline with the evolution of subsurface chlorophyll maximum in stratified water columns」
期日：平成29年7月25日 (火)
会場：愛媛大学理学部 総合研究棟Ⅰ 4階 共通会議室
講師：Huiwang Gao (Professor in Environmental Sciences, Ocean University of China)
- 6) 国際シンポジウム
Chemical Hazard Symposium (Joint seminar on Environmental Chemistry and Toxicology)
期日：平成29年8月2日 (水)
会場：北海道大学獣医学部
- 7) 第17回 LaMer 特別講演会
「精密質量分析による環境ノンターゲットモニタリング」
期日：平成29年8月9日 (水)
会場：愛媛大学理学部 総合研究棟Ⅰ 6階 愛媛大学理学部会議室
講師：橋本 俊次 (国立研究開発法人 国立環境研究所環境計測研究センター 応用計測化学研究室)
- 8) 環境科学フォーラム
7th Joint Forum of Environmental Sciences 2017, Matsuyama
期日：平成29年9月7日 (木)
会場：愛媛大学 校友会館 2階サロン
- 9) LaMer 研究集会
豊後水道研究集会～研究者間の協同に向けて
期日：平成29年9月12日 (火)

5. 学会及び社会における活動

会場：愛媛大学理学部 総合研究棟 I 3階 369号室

10) 第18回 LaMer 特別講演会

「Eutrophication and hypoxia in the Gulf of Thailand」

期日：平成29年11月14日（火）

会場：愛媛大学理学部 総合研究棟 I 4階 共通会議室

講師：Anukul Buranapratheprat (Department of Aquatic Science, Faculty of Science, Burapha University)

11) LaMer 研究集会

第3回沿岸生態系の評価・予測に関するワークショップ

期日：平成29年11月27日（月）～11月28日（火）

会場：広島大学竹原ステーション 水産実験所

12) 愛媛鯨類解剖大会

期日：平成29年12月9日（土）～12月12日（火）

会場：愛媛大学生物環境試料バンク (es-BANK)

13) LaMer 研究集会

赤潮に関する研究集会

期日：平成30年1月18日（木）～1月19日（金）

会場：愛媛大学理学部 総合研究棟 I 3階 369号室

14) 第19回 LaMer 特別講演会

Seminar on Biological Control of Medically Important Insects (cockroach, liver fluke and mosquito)

期日：平成30年2月19日（月）

会場：愛媛大学 共通講義棟 C

講師：Billy Joel M. Almarinez (Postdoctoral Research Associate, De La Salle University, Philippines)

Mary Jane C. Flores (Associate Professor, De La Salle University, Philippines)

Divina M. Amalin (Professor, De La Salle University, Philippines)

15) 第20回 LaMer 特別講演会

メタロミクスアプローチを用いた途上国住民の化学汚染と影響評価

期日：平成30年3月8日（木）

会場：愛媛大学理学部 総合研究棟 I 4階 共通会議室

講師：阿草 哲郎（熊本県立大学・環境共生学部・環境資源学科 准教授）

5. 4 学会，講演会などの開催（個人）

化学汚染・毒性解析部門

岩田 久人

1) 愛媛大学 -Kyung Hee University 環境毒性学合同研究セミナー，平成29年7月4日，愛媛大学，松山

2) 19th International Symposium on Pollutant Responses in Marine Organisms，平成29年6月30日（金）～7月3日（月），
松山大学 カルフル・樋又キャンパス

5. 5 学会賞等

環境動態解析部門

眞野 能（大学院理工学研究科博士後期課程）

- 1) 2017年日本プランクトン学会・日本ベントス学会合同大会，日本プランクトン学会学生優秀発表賞「内部波のストークスドリフトによるミズクラゲ集群の波状構造の形成」（平成29年9月）

Zhang Jing（愛媛大学外国人客員研究員，中国海洋大学博士後期課程）

- 1) 日本海洋学会2017年度秋季大会，若手優秀発表賞「Roles of nutrients in the ECS with different origins」（平成29年10月）

化学汚染・毒性解析部門

野見山 桂

- 1) 第14回三浦保環境賞 奨励賞（平成30年2月）

落合 真理

- 1) 10th International Meeting of Asian Society of Conservation Medicine「The Best Oral Presenter Award」（平成29年10月）

田上 瑠美

- 1) 第26回環境化学討論会 優秀発表賞（35歳以下の社会人，若手研究者，および博士後期課程学生の部）「魚類におけるヒト用医薬品類の取り込みと代謝および情動関連行動との関連解析～オピオイド系鎮痛剤と抗うつ剤を例として～」（平成29年6月）

後藤 哲智

- 1) 第65回質量分析総合討論会 ベストプレゼンテーション賞・優秀賞「GC × GC-ToFMS による残留性有機汚染物質の網羅的スクリーニング」（平成29年5月）

高口 倅暉（大学院理工学研究科博士後期課程）

- 1) 第26回環境化学討論会 Environmental Science Process and Impact 賞「PCBs 曝露がイヌ・ネコの甲状腺ホルモン恒常性へ及ぼす影響」（平成29年6月）

芳之内結加（大学院理工学研究科博士後期課程，日本学術振興会 DC）

- 1) 第44回日本毒性学会学術年会「優秀研究発表賞」（平成29年7月）
- 2) 19th International Symposium on Pollutant Responses in Marine Organisms「Best Student Presentation Award」（平成29年6, 7月）
- 3) 未来博士3分間コンペティション2017「中外テクノス賞」（平成29年11月）
- 4) 第20回環境ホルモン学会研究発表会「優秀発表賞」（平成29年12月）

Hoa Thanh Nguyen（大学院理工学研究科博士後期課程）

- 1) 19th International Symposium on Pollutant Responses in Marine Organisms「Best Student Presentation Award」（平成29年6, 7月）
- 2) The 14th International Symposium on Persistent Toxic Substances (ISPTS)「Best Student Award」（平成29年9月）

伊藤 匠平（理工学研究科博士前期課程）

- 1) 57th Society of Toxicology Annual Meeting「Graduate Student Travel Award 2018」（平成30年3月）

6. 国際的活動

(平成29年度)

6. 1 国際研究プロジェクト

環境動態解析部門

郭 新宇

- 1) 平成28年1月～平成30年12月, 日本南岸の黒潮による栄養塩輸送及び下流側への影響, 国家海洋局第二海洋研究所
- 2) 平成28年1月～平成30年12月, 東シナ海の生態系モデリングに関する研究, 中国海洋大学, 天津科技大学

森本 昭彦

- 1) 平成27年4月～, ジャカルタ湾の貧酸素水塊に関する研究, BPPT
- 2) 平成26年6月～, 西部太平洋および周辺縁辺海の海面高度と流速場の変動, CNES (フランス)

化学汚染・毒性解析部門

田辺 信介

- 1) 平成15年～, 微量元素によるガーナの環境汚染, ガーナ水圏研究所
- 2) 平成16年～, 途上国の廃棄物投棄場におけるダイオキシン類等 POPs の汚染と毒性影響に関する研究, カンボジア・カンボジア水産局, インド・アンナマライ大学海洋生物学研究所等
- 3) 平成17年～, POPs および POPs 候補物質によるポルトガルの海洋汚染に関する研究, ポルトガル・アベイロ大学
- 4) 平成18年～, アジア地域の有機フッ素化合物汚染, 米国・ニューヨーク州立大学アルバニー校
- 5) 平成18年～, 電子・電気機器リサイクル施設および廃棄物処理施設における POPs 候補物質の汚染と影響, インド・アンナマライ大学, KLE's Nijalingappa College, Bangalor
- 6) 平成19年～, POPs および POPs 候補物質によるインドネシアの環境汚染に関する研究, Center Technology for Marine Survey, Agency for the Assessment and Application of Technology (BPPT), インドネシア
- 7) 平成19年～, 電子・電気機器リサイクル施設および廃棄物処理施設における POPs 候補物質の汚染と影響, ベトナム・ハノイ科学大学
- 8) 平成20年～, 有害物質によるワニの内分泌攪乱, 米国・フロリダ大学および NASA

岩田 久人

- 1) 平成17年～, バイカルアザラシにおける化学物質の汚染および影響に関する研究, ロシア・The Eastern-Siberian Scientific and Production Fisheries Center
- 2) 平成21年～, 野生生物のアリアルハイドロカーボンレセプターの進化と機能に関する研究, 韓国・Kyung Hee 大学
- 3) 平成28年～, フィリピン水圏環境の汚染と野生生物の影響に関する研究, フィリピン・University of the Philippines Los Baños

国末 達也

- 1) 平成26年～, インドの廃棄物処理場および電子・電気機器リサイクル施設, 都市環境における POPs 類縁化合物と生活関連物質の汚染に関する研究, インド Bharathidasan University, Tiruchirappalli および KLE's Nijalingappa College, Bangalor
- 2) 平成26年～, ベトナムの廃棄物処理場および電子・電気機器リサイクル施設, 都市環境における POPs 類縁化

合物と生活関連物質の汚染に関する研究, ベトナム・ハノイ科学大学

- 3) 平成26年～, ガーナの電子・電気機器リサイクル施設における難燃剤およびダイオキシン類化合物の汚染と起源に関する研究, ガーナ科学・工業研究評議会 (Council for Scientific and Industrial Research)
- 4) 平成26年～, POPs 関連物質, 有機スズ化合物, 微量元素によるポルトガルの室内環境と食品汚染に関する研究, ポルトガル・アベイロ大学
- 5) 平成27年～, インドネシアの沿岸域および都市域における POPs 関連物質と微量元素の汚染に関する研究, Center Technology for Marine Survey, Agency for the Assessment and Application of Technology (BPPT), インドネシア
- 6) 平成27年～, POPs 関連物質によるマレーシア沿岸域の汚染に関する研究, マレーシア・アプトラ大学

野見山 桂

- 1) 平成20年～, 有機ハロゲン化合物および水酸化代謝物によるワニの内分泌攪乱, 米国・フロリダ大学および NASA
- 2) 平成27年～, アジア河川域における PPCPs による汚染実態の解明, ベトナム・ハノイ科学大学
- 3) 平成28年～, PCBs, PBDEs, および水酸化代謝物によるポルトガルのペット動物汚染に関する研究, ポルトガル・アベイロ大学
- 4) 平成29年～, タイ王国におけるペット動物汚染の実態解明に関する研究, Kasetsart 大学獣医学部

生態系解析部門

鈴木 聡

- 1) 平成20年8月～, 養殖場の薬剤耐性菌研究, フィンランド・ヘルシンキ大学
- 2) 平成25年4月～, 排水・河川・海洋の薬剤耐性遺伝子定量, タイ・チュラロンコン大学
- 3) 平成28年10月～, 養殖場のマクロライド耐性遺伝子疫学, 台湾・国立成功大学, 国立台湾海洋大学
- 4) 平成28年10月～, 沿岸海水中の抗生物質汚染と薬剤耐性菌研究, マレーシア・マラヤ大学

北村 真一

- 1) 平成18年9月～, 魚類感染症の発症メカニズムに関する研究, 韓国・国立全南大学校水産生命医学科
- 2) 平成25年3月～, マボヤ被囊軟化症に関する研究, 韓国・国立群山大学校水産生命医学科
- 3) 平成25年3月～, マボヤ被囊軟化症に関する研究, 韓国・国立水産科学院

6. 2 在外研究等

なし

6. 3 海外調査・国際学会等

環境動態解析部門

郭 新宇

- 1) 平成29年4月15日～平成29年4月23日, 10th WESTPAC International Scientific Conference 参加および研究打ち合わせ, 青島, 中国
- 2) 平成29年7月4日～平成29年7月10日, 共同研究および資料収集, 青島, 中国
- 3) 平成29年8月5日～平成29年8月18日, 共同研究, 青島, 中国
- 4) 平成29年9月21日～平成29年10月1日, 研究打ち合わせ, 青島, 杭州, 中国
- 5) 平成29年10月15日～平成29年10月22日, 研究打ち合わせ, 青島, 南京, 中国
- 6) 平成29年11月29日～平成29年12月4日, 共同研究および打ち合わせ, 青島, 中国

6. 国際的活動

- 7) 平成29年12月17日～平成29年12月20日, 台湾東部黒潮における共同観測の研究打合せ, 台北, 台湾
- 8) 平成30年1月25日～平成30年2月1日, 研究打合せ, 青島, 中国
- 9) 平成30年2月25日～平成30年3月7日, スルメイカの計算結果に関する研究打ち合わせ, 青島, 中国
- 10) 平成30年3月18日～平成30年3月23日, トカラ海峡における内部潮汐に関する研究打ち合わせ, 杭州, 中国

森本 昭彦

- 1) 平成29年4月16日～平成29年4月21日, 10th WESTPAC International Scientific Conference 参加・発表, 青島, 中国
- 2) 平成29年6月2日～平成29年6月6日, ジャカルタ湾の水質環境調査, ジャカルタ, インドネシア
- 3) 平成29年9月4日～平成29年9月8日, ジャカルタ湾の水質環境調査, ジャカルタ, インドネシア
- 4) 平成29年11月29日～平成29年12月2日, トンキン湾の表層流変動に関する共同研究打合せ, ハノイ, ベトナム
- 5) 平成29年12月8日～平成29年12月12日, ジャカルタ湾の水質環境調査, ジャカルタ, インドネシア
- 6) 平成30年2月27日～平成30年3月2日, JSPS CCore-RENSEA Annal Meeting 参加・発表, イロイロ, ベトナム
- 7) 平成30年3月4日～平成30年3月8日, ジャカルタ湾の水質環境調査, ジャカルタ, インドネシア

吉江 直樹

- 1) 平成29年10月23日～平成29年10月30日, PICES2017 annual meeting, 参加・発表, ウラジオストク, ロシア

Zhang Jing

- 1) 平成29年10月18日～平成29年10月23日, International Conference of Nitrogen Cycling and Its Environmental Impacts in East Asia 参加, 南京, 中国

化学汚染・毒性解析部門

岩田 久人

- 1) 平成30年2月11日～平成30年2月13日, 日韓共同研究「天然由来 AHR リガンドを用いた養殖魚の免疫活性剤の開発」に関するセミナー参加および研究打合せ, Kyung Hee University, 韓国
- 2) 平成30年3月17日～平成30年3月21日, 講演および研究打ち合わせ, Kyung Hee University, Ewha Womans University, 韓国
- 3) 平成30年3月10日～平成30年3月17日, SOT 57th Annual Meeting and ToxExpo 参加, Henry B. Gonzalez Convention Center, USA

国末 達也

- 1) 平成29年8月20日～平成29年8月25日, 37th International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants (DIOXIN2017) で発表, Vancouver, Canada.

野見山 桂

- 1) 平成29年6月30日～平成27年7月3日, 19th The International Symposium series, "Pollutant Responses in Marine Organisms" (PRIMO 2017) で発表, Matsuyama, Japan
- 2) 平成29年8月20日～平成28年8月25日, 37th International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants (DIOXIN 2017) で発表, Vancouver, Canada

仲山 慶

- 1) 平成29年3月24日～平成29年3月28日, マボヤサンプリング, 統営, 韓国
- 2) 平成29年6月18日～平成29年6月25日, ICCA-LRI and JRC Workshop "Fit-For-Purpose Exposure Assessments For Risk-Based Decision Making" で発表, Como, Italy.
- 3) 平成29年11月11日～平成29年11月18日, SETAC North America 38th Annual Meeting で発表, Minneapolis, MN, USA

Nguyen Minh Tue

- 1) 平成29年6月30日～平成29年7月3日, 19th International Symposium on Pollutant Responses in Marine Organisms (PRIMO19) で発表, Matsuyama, Japan.
- 2) 平成29年8月20日～平成29年8月25日, 37th International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants (DIOXIN 2017) で発表, Vancouver, Canada.

落合 真理

- 1) 平成29年9月2日～平成29年9月27日, FENS のトレーニングプログラムに参加および研究打ち合わせ, Unicersite De Bordeaux Neurocampasu, フランス
- 2) 平成29年10月18日～平成29年10月24日, アジア保全医学会年次大会参加および研究打合せ, State Vaterinary Diagnostic Laboratory, Damai Beach Resort, マレーシア

田上 瑠美

- 1) 平成29年6月30日～平成29年7月3日, 19th International Symposium on Pollutant Responses in Marine Organisms (PRIMO19) で発表, Matsuyama, Japan.
- 2) 平成30年3月10日～平成30年3月17日, 研究打ち合わせ, Brunel University, 英国

後藤 哲智

- 1) 平成29年6月30日～平成29年7月3日, 19th International Symposium on Pollutant Responses in Marine Organisms (PRIMO19) で発表, Matsuyama, Japan.
- 2) 平成29年8月20日～平成29年8月25日, 37th International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants (DIOXIN 2017) で発表, Vancouver, Canada.

高口 倅輝

- 1) 平成29年6月30日～平成29年7月3日, 19th International Symposium on Pollutant Responses in Marine Organisms (PRIMO19) で発表, Matsuyama, Japan.
- 2) 平成29年8月20日～平成29年8月25日, 37th International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants (DIOXIN 2017) で発表, Vancouver, Canada.

Nguyen Thang Hoa

- 1) 平成30年3月10日～平成30年3月17日, SOT 57th Annual Meeting and ToxExpo で発表, Henry B. Gonzalez Convention Center, USA

芳之内結加

- 1) 平成30年3月10日～平成30年3月17日, SOT 57th Annual Meeting and ToxExpo で発表, Henry B. Gonzalez Convention Center, USA

伊藤 匠平

- 1) 平成30年3月10日～平成30年03月17日, SOT 57th Annual Meeting and ToxExpo で発表, Henry B. Gonzalez Convention Center, USA

生態系解析部門

鈴木 聡

- 1) 平成29年11月5日～11月11日, 第4回 International Congress on Pathogens at the Human-Animal Interface (ICOPHAI), 企画・運営・基調講演, ドーハ, カタール
- 2) 平成29年11月20日～24日, 養殖環境中薬剤耐性遺伝子調査, 基隆, 台湾

北村 真一

- 1) 平成29年3月25日～平成29年3月29日, マボヤサンプリング, 統営, 韓国

6. 4 外国人客員研究員等

環境動態解析部門

- 1) Zhang Jing, 中国海洋大学, 平成27年11月9日～平成29年10月31日
- 2) Ji Fei, 中国海洋大学, 平成28年10月1日～平成29年9月30日
- 3) Chu Qiang, 中国海洋大学, 平成28年10月1日～平成29年9月30日
- 4) Zhu Junying, 中国海洋大学, 平成29年10月9日～平成30年9月30日
- 5) Yang Haiyan, 中国海洋大学, 平成29年10月9日～平成30年3月31日
- 6) Dong Menghong, 国家海洋局第二海洋研究所, 平成29年10月9日～平成30年3月31日

化学汚染・毒性解析部門

- 1) Guo Jiahua, 愛媛大学特定研究員, 平成29年4月1日～
- 2) Bak Su-Min, 愛媛大学特定研究員, 平成29年4月1日～
- 3) Kanerva Mirella Maria, 愛媛大学外国人客員研究員 (日本学術振興会 外国人特別研究員), 平成29年5月8日～平成31年5月7日

6. 5 海外からの訪問者

環境動態解析部門

- 1) Gao Jie, 中国海洋大学院生, 共同研究および研究打ち合わせ, 平成29年5月24日～平成29年6月6日
- 2) Hui-Wang Gao, 中国海洋大学教授, 研究発表および研究打ち合わせ, 平成29年7月23日～平成29年7月30日
- 3) Ze-Nam Zhu, 中国国家海洋局第二海洋研究所助理研究員, 研究発表および研究打ち合わせ, 平成29年7月28日～平成29年8月7日
- 4) Min Wang, 中国国家海洋局第二海洋研究所院生, 共同研究および研究打ち合わせ, 平成29年9月29日～平成29年10月13日
- 5) Mao Xinyan, 中国海洋大学准教授, 共同研究および研究打ち合わせ, 平成29年10月23日～平成29年11月3日
- 6) Zhu Mengqi, 中国海洋大学院生, 共同研究および研究打ち合わせ, 平成29年11月5日～平成29年11月20日
- 7) Zhao Ruixiang, 中国国家海洋局第二海洋研究所助理研究員, 共同研究および研究打ち合わせ, 平成29年11月6日～平成29年11月17日
- 8) Wang Aobo, 中国海洋大学院生, 共同研究および研究打ち合わせ, 平成29年11月5日～平成30年1月15日
- 9) Gao Jie, 中国海洋大学院生, 共同研究および研究打ち合わせ, 平成29年11月5日～平成30年1月15日
- 10) Zhang Jing, 中国海洋大学院生, 共同研究および研究打ち合わせ, 平成30年1月15日～平成30年2月8日
- 11) Du Kailun, 中国海洋大学院生, 万年スケールの黒潮と日本海における環境変動の研究打ち合わせ, 平成30年1月21日～平成30年2月5日
- 12) Tran Manh Cuong, Institute of Oceanography, 海洋レーダを用いたトンキン湾の表層流変動に関する共同研究の実施, 平成29年6月12日～平成29年6月26日.
- 13) Anukul Buranaprathrat, Burapha University, 北部タイランド湾の富栄養化に関する共同研究の実施, 平成29年11月8日～平成29年11月21日
- 14) Siriporn Tong-U-Dom, 海洋レーダを用いた北部タイランド湾の流動場の変動に関する共同研究の実施, 平成29年11月8日～平成29年11月21日

化学汚染・毒性解析部門

- 1) Vimalkumar Krishnamoorthy, Department of Environmental Biotechnology, Bharathidasan University, India, 共同研究の実施, 平成29年6月13日～平成29年7月11日
- 2) Dr. Ana C.A. Sousa, Health Sciences Research Centre (CICS), University of Beira Interior, Department of Biology & CESAM, University of Aveiro, Portugal, 共同研究の実施, 平成30年1月16日～平成30年2月26日
- 3) Subramanian Annamalai, Bharathidasan University, India, 共同研究打ち合わせおよび 19th International Symposium on Pollutant Responses in Marine Organisms 参加, 平成29年6月27日～平成29年7月5日
- 4) Babu Rajendran Ramaswamy, Bharathidasan University, India, 共同研究打ち合わせおよび 19th International Symposium on Pollutant Responses in Marine Organisms 参加, 平成29年6月27日～平成29年7月6日
- 5) Le Thi Trinh, Hanoi University of Natural Resources and Environment, Vietnam, 共同研究打ち合わせおよび 19th International Symposium on Pollutant Responses in Marine Organisms 参加, 平成29年6月28日～平成29年7月6日
- 6) Nguyen Hung Minh, Centre for Environmental Monitoring, Vietnam, 共同研究打ち合わせおよび 19th International Symposium on Pollutant Responses in Marine Organisms 参加, 平成29年6月28日～平成29年7月6日
- 7) Pham Hung Viet, VNU University of Science, Vietnam, 共同研究打ち合わせおよび 19th International Symposium on Pollutant Responses in Marine Organisms 参加, 平成29年6月28日～平成29年7月6日
- 8) Tri Manh Tran, VNU University of Science, Vietnam, 共同研究打ち合わせおよび 19th International Symposium on Pollutant Responses in Marine Organisms 参加, 平成29年6月28日～平成29年7月6日
- 9) Le Thi Hai Le, Hanoi University of Natural Resources and Environment, Vietnam, 共同研究打ち合わせおよび 19th International Symposium on Pollutant Responses in Marine Organisms 参加, 平成29年6月28日～平成29年7月7日
- 10) Tsuchiya Maria Claret, University of the Philippines Los Baños, Philippines, 共同研究打ち合わせおよび 19th International Symposium on Pollutant Responses in Marine Organisms 参加, 平成29年6月29日～平成29年7月4日
- 11) Mingkyun Cho, Kyung Hee University, Korea, 共同研究打ち合わせおよび 19th International Symposium on Pollutant Responses in Marine Organisms 参加, 平成29年6月30日～平成29年7月5日
- 12) Lee Ye Jin, Kyung Hee University, Korea, 共同研究打ち合わせおよび 19th International Symposium on Pollutant Responses in Marine Organisms 参加, 平成29年6月30日～平成29年7月5日
- 13) Tsuchiya Maria Claret, University of the Philippines Los Baños, Philippines, 酵素活性の測定およびプロテオームの解析, 共同研究および打合せ, 平成29年12月13日～平成29年12月27日
- 14) Jashin Jumawan Rosal, University of the Philippines Los Baños, Philippines, 酵素活性の測定およびプロテオームの解析, 共同研究および打合せ, 平成29年12月13日～平成29年12月28日

6. 6 招聘研究員

なし

6. 7 留学生等**化学汚染・毒性解析部門**

- 1) Nguyen Minh Tue, 愛媛大学研究機関研究員, アジア地域の廃棄物処理活動に由来する内分泌攪乱化学物質の曝露影響評価, バイオアッセイおよび GC (LC) –TOFMS を用いた内分泌攪乱化学物質の毒性同定・評価手法の確立, ベトナム
- 2) Nguyen Thanh Hoa, 大学院理工学研究科博士後期課程先端科学特別コース専攻, ビスフェノール A の出生前曝露による新生ラット仔の肝臓プロテオームへの影響, ベトナム

生態系解析部門

- 1) Bien Thi Lan Thanh, 連合農学研究科, 日本政府・文科省国費留学生, 薬剤耐性遺伝子の環境群集中伝達と残存,

6. 国際的活動

ベトナム

- 2) Thaddeus M. CARVAJAL, 理工学研究科博士後期課程生産環境工学専攻, 日本政府・文科省国費留学生, デング熱媒介蚊の生態疫学に関する研究, フィリピン
- 3) Maria Angenica F. REGILME, 理工学研究科, 日本政府・文科省国費留学生, デング熱媒介蚊の生態疫学に関する研究, フィリピン
- 4) Joeselle M. SERRANA, 理工学研究科, 日本政府・文科省国費留学生, デング熱媒介蚊の生態疫学に関する研究, フィリピン
- 5) Jean Claude P. BALINGIT, 理工学研究科博士前期課程生産環境工学専攻, 日本政府・文科省国費留学生, デング熱媒介蚊の生態疫学に関する研究, フィリピン

7. 教育活動

(平成29年度)

7.1 卒業論文・修士論文・博士論文 題目

環境動態解析部門

卒業論文

- 1) 嶋田 早希：瀬戸内海における1964～2001の水温変動特性
- 2) 市川 兼匠：日本海における過去20年のスルメイカ幼生の分布域の変化
- 3) 西岡 光駆：地球温暖化による日本海のズワイガニ資源への影響に関する研究
- 4) 秋山 英毅：超高解像度観測による潮汐フロント周辺の栄養塩動態に関する研究
- 5) 大城 一輝：トカラ海峡周辺における栄養塩供給が低次生態系に及ぼす影響
- 6) 加部 晏諒：豊後水道における衛星水温分布と藻場植生分布に関する研究
- 7) 織田 将太：ジャカルタ湾の貧酸素水塊に関する研究
- 8) 浅原 貫太：係留観測による豊後水道の底入り潮に関する研究

修士論文

- 1) 山田 彩加：黒潮内側域における異常水温の発生メカニズム
- 2) 武藤 玲央：最終氷期最盛期の黒潮を対象とした数値シミュレーション
- 3) 武田 雄大：黒潮前線渦の低次生態系に与える影響
- 4) 山下 洋：海洋レーダによる台湾北東海域の黒潮流軸の変動に関する研究

化学汚染・毒性解析部門

卒業論文

- 1) 川邊 陸：瀬戸内海沿岸に漂着したスナメリにおける有機ハロゲン化合物の蓄積特性
- 2) 向井 幸乃：沖縄県沿岸のカキを用いた有機ハロゲン化合物の汚染モニタリング
- 3) 神田 宗欣：殻なしニワトリ胚孵化装置を用いたリン酸エステル系難燃剤の新規発生毒性評価
- 4) 山崎 涼：宿主－病原体間の相互作用を指標とした免疫毒性評価方の最適化

修士論文

- 1) 江頭 佳奈：ハクジラ類における残留性有機ハロゲン化合物汚染の経年変化
- 2) 麓 光央：野生鳥類における POPs および代替難燃剤の汚染実態と蓄積特性
- 3) 山本季美花：ビスフェノール A の出生前曝露によるラット新生仔への影響

博士論文

- 1) 後藤 哲智：日本沿岸におけるハロゲン化ダイオキシン類の時空間分布と発生源
- 2) Nguyen Thanh Hoa：Effects of exposure to environmental chemicals on the liver transcriptome and proteome of rodents

生態系解析部門

卒業論文

- 1) 片岡 直人：オキシテトラサイクリン投与は養殖マダイ腸内で薬剤耐性遺伝子量を変化させるか？
- 2) 松浦 理絵：サルファ剤の珪藻細胞への吸着
- 3) 白石 里帆：同一海域に生息する魚類の体表粘液中マイクロフローラの比較

- 4) 藤田 大樹 : 照明の照射時間とその光波長が海産白点病の原因虫 *Cryptocaryon irritans* の日周期性に与える影響

修士論文

- 1) 香山 義明 : 栄養状態の異なる細菌および貧栄養条件下における遺伝子水平伝達と、遺伝子水平伝播可視化ツール細菌構築の試み

博士論文

- 1) Bien Thi Lan Thanh : Persistence of multi-drug resistance plasmid in seawater environment

7.2 講義・集中講義

環境動態解析部門

講 義

郭 新宇

- 1) 平成29年度前期, 地球科学野外研究, 理学部
- 2) 平成29年度前期, 沿岸海洋学, 理学部・スーパーサイエンス特別コース
- 3) 平成29年度前期, コース英語Ⅰ, スーパーサイエンス特別コース
- 4) 平成29年度後期, 地球科学課題研究, 理学部
- 5) 平成29年度後期, 海洋物理学Ⅱ, 理学部・スーパーサイエンス特別コース
- 6) 平成29年度後期, 地球環境学特論, 理学部
- 7) 平成29年度前期, 大気海洋科学特論, 大学院理工学研究科博士前期課程
- 8) 平成29年度後期, 地球進化学特論Ⅷ, 大学院理工学研究科博士後期課程

森本 昭彦

- 1) 平成29年度前期, 地球科学野外研究, 理学部
- 2) 平成29年度前期, 沿岸海洋学, 理学部・スーパーサイエンス特別コース
- 3) 平成29年度前期, 新入生セミナー, スーパーサイエンス特別コース
- 4) 平成29年度前期, 海洋物理学Ⅰ, 理学部・スーパーサイエンス特別コース
- 5) 平成29年度後期, 地球科学課題研究, 理学部
- 6) 平成29年度後期, 海洋力学, 大学院理工学研究科博士前期課程
- 7) 平成29年度後期, 環境学通論, スーパーサイエンス特別コース・理学部

吉江 直樹

- 1) 平成29年度前期, 新入生セミナー A, 理学部
- 2) 平成29年度前期, 海洋学通論, スーパーサイエンス特別コース・理学部
- 3) 平成29年度前期, 地球科学野外研究, 理学部
- 4) 平成29年度後期, 環境建設プロジェクト実習Ⅲ, 工学部
- 5) 平成29年度後期, 地球科学, 工学部
- 6) 平成29年度後期, 地球化学, 理学部
- 7) 平成29年度後期, 地球科学課題研究, 理学部
- 8) 平成29年度後期, 地球環境学特論, 理学部
- 9) 平成29年度後期, 環境科学セミナーⅣ, スーパーサイエンス特別コース
- 10) 平成29年度前後期, 卒業研究, 工学部
- 11) 平成29年度前後期, 卒業研究, 理学部
- 12) 平成29年度前期, 地球環境学特論, 理学部
- 13) 平成29年度前期, 地球科学フィールド高等実習Ⅰ, 大学院理工学研究科博士前期課程
- 14) 平成29年度後期, 地球科学フィールド高等実習Ⅱ, 大学院理工学研究科博士前期課程

- 15) 平成29年度後期, 地球科学フィールド高等実習Ⅲ, 大学院理工学研究科博士前期課程
- 16) 平成29年度前期, 地球科学高等実験Ⅰ, 大学院理工学研究科博士前期課程
- 17) 平成29年度後期, 地球科学高等実験Ⅲ, 大学院理工学研究科博士前期課程
- 18) 平成29年度後期, 地球科学高等実験Ⅴ, 大学院理工学研究科博士前期課程
- 19) 平成29年度前期, 地球科学ゼミナールⅠ, 大学院理工学研究科博士前期課程
- 20) 平成29年度前期, 地球科学ゼミナールⅡ, 大学院理工学研究科博士前期課程
- 21) 平成29年度前期, 地球科学ゼミナールⅢ, 大学院理工学研究科博士前期課程
- 22) 平成29年度前期, 地球科学ゼミナールⅣ, 大学院理工学研究科博士前期課程
- 23) 平成29年度前期, 地球科学プレゼンテーション特別実習Ⅰ, 大学院理工学研究科博士前期課程
- 24) 平成29年度前期, 地球科学プレゼンテーション特別実習Ⅱ, 大学院理工学研究科博士前期課程
- 25) 平成29年度前期, 地球科学プレゼンテーション特別実習Ⅲ, 大学院理工学研究科博士前期課程
- 26) 平成29年度前期, 水産環境学, 香川大学農学部

化学汚染・毒性解析部門

講義

田辺 信介

- 1) 平成29年度前期, 化学序論, 理学部
- 2) 平成29年度前期, 環境科学セミナーⅡ, スーパーサイエンス特別コース
- 3) 平成29年度前期, 新入生セミナーB, スーパーサイエンス特別コース

岩田 久人

- 1) 平成29年度前期, 新入生セミナーB, スーパーサイエンス特別コース
- 2) 平成29年度前期, SSC 共通セミナー, スーパーサイエンス特別コース
- 3) 平成29年度前期, 環境毒性学, 理学部・スーパーサイエンス特別コース・農学部
- 4) 平成29年度前期, 基礎生物化学, 理学部・スーパーサイエンス特別コース
- 5) 平成29年度後期, 環境学通論, スーパーサイエンス特別コース
- 6) 平成29年度後期, 環境科学コースセミナーⅣ, スーパーサイエンス特別コース
- 7) 平成29年度後期, 環境科学コース英語Ⅱ, スーパーサイエンス特別コース
- 8) 平成29年度後期, 課題研究A, スーパーサイエンス特別コース
- 9) 平成29年度後期, 生物学展望, 理学部
- 10) 平成29年度後期, 生物学課題研究, 理学部
- 11) 平成29年度前・後期, 生物学特別演習, 理学部
- 12) 平成29年度前・後期, 卒業研究, 理学部
- 13) 平成29年度後期, 環境分子毒性学, 大学院理工学研究科
- 14) 平成29年度前期, 新入生セミナーA, 理学部
- 15) 平成29年度前期, 生物学ゼミナールⅠ, 理学部
- 16) 平成29年度後期, 生物学ゼミナールⅡ, 理学部

国末 達也

- 1) 平成29年度前期, 化学英語Ⅰ, 理学部
- 2) 平成29年度前期, 卒業研究Ⅰ, 理学部
- 3) 平成29年度後期, 卒業研究Ⅱ, 理学部
- 4) 平成29年度後期, 環境化学, 理学部
- 5) 平成29年度前期, 新入生セミナーB, スーパーサイエンス特別コース
- 6) 平成29年度前期, 環境科学セミナーⅢ, スーパーサイエンス特別コース
- 7) 平成29年度前期, コース英語Ⅰ, スーパーサイエンス特別コース
- 8) 平成29年度後期, 環境化学A, スーパーサイエンス特別コース
- 9) 平成29年度後期, 環境学通論, スーパーサイエンス特別コース

7. 教育活動

- 10) 平成29年度前期, 環境科学特論, 大学院理工学研究科博士前期課程
- 11) 平成29年度集中, 化学ゼミナールⅠ, 大学院理工学研究科博士前期課程
- 12) 平成29年度集中, 化学ゼミナールⅡ, 大学院理工学研究科博士前期課程
- 13) 平成29年度集中, 化学ゼミナールⅢ, 大学院理工学研究科博士前期課程
- 14) 平成29年度集中, 化学ゼミナールⅣ, 大学院理工学研究科博士前期課程
- 15) 平成29年度集中, 分子科学課題演習Ⅰ, 大学院理工学研究科博士前期課程
- 16) 平成29年度集中, 分子科学課題演習Ⅱ, 大学院理工学研究科博士前期課程

野見山 桂

- 1) 平成29年度前期, 基礎化学実験, 理学部化学科
- 2) 平成29年度後期, 化学英語Ⅱ
- 3) 平成29年度前期, 卒業研究Ⅰ, 理学部
- 4) 平成29年度後期, 卒業研究Ⅱ, 理学部
- 5) 平成29年度後期, 化学実験Ⅰ, 理学部
- 6) 平成29年度前・後期, 化学実験Ⅱ, Ⅲ, 理学部
- 7) 平成29年度後期, 新入生セミナー B
- 8) 平成29年度集中, 化学ゼミナールⅠ
- 9) 平成29年度集中, 化学ゼミナールⅡ
- 10) 平成29年度集中, 化学ゼミナールⅢ
- 11) 平成29年度集中, 化学ゼミナールⅣ
- 12) 平成29年度集中, 分子科学課題演習Ⅰ
- 13) 平成29年度集中, 分子科学課題演習Ⅱ

仲山 慶

- 1) 平成29年度前期, 基礎生物学演習, 理学部
- 2) 平成29年度前期, 海洋生物学実習, 理学部
- 3) 平成29年度前期, 生物学ゼミナールⅠ, 理学部
- 4) 平成29年度後期, 生物学ゼミナールⅡ, 理学部
- 5) 平成29年度後期, 生物学展望, 理学部
- 6) 平成29年度後期, 生物学課題研究, 理学部
- 7) 平成29年度前後期, 生物学特別演習, 理学部
- 8) 平成29年度前後期, 卒業研究, 理学部

集中講義

田辺 信介

- 1) 平成29年度後期, 生物濃縮論, 熊本県立大学環境共生学部

生態系解析部門

講 義

鈴木 聡

- 1) 平成29年度前期, 新入生セミナー, スーパーサイエンスコース
- 2) 平成29年度後期, 環境生化学, 農学部
- 3) 平成29年度前期, 海洋環境学, 農学部
- 4) 平成29年度後期, 環境機器分析学, 農学部
- 5) 平成29年度後期, 環境学通論, スーパーサイエンスコース
- 6) 平成29年度後期, コース英語, スーパーサイエンスコース
- 7) 平成29年度前期, 環境科学セミナーⅢ, スーパーサイエンスコース
- 8) 平成29年度前期, 環境科学セミナーⅡ, スーパーサイエンスコース

- 9) 平成29年度後期, 生物環境保全学実験Ⅲ, 農学部
- 10) 平成29年度通年, 分子生態学実習, 農学部
- 11) 平成29年度前期, 生物環境保全学入門, 農学部
- 12) 平成29年度後期, 環境微生物学, 大学院農学研究科
- 13) 平成29年度前後期, 生物環境保全学特論, 大学院農学研究科
- 14) 平成29年度前後期, 生物環境保全学演習Ⅰ, 大学院農学研究科
- 15) 平成29年度前後期, 生物環境保全学演習Ⅱ, 大学院農学研究科
- 16) 平成29年度前後期, 生物環境保全学実験Ⅰ, 大学院農学研究科
- 17) 平成29年度前後期, 生物環境保全学実験Ⅱ, 大学院農学研究科
- 18) 平成29年度後期, 微生物学, 聖カタリナ学園高等学校看護専攻科

北村 真一

- 1) 平成29年度前期, 海洋生物学, 理学部
- 2) 平成29年度前期, 海洋生物学実習, 理学部
- 3) 平成29年度後期, 生物学課題研究, 理学部
- 4) 平成29年度前期, 生物学ゼミナールⅠ, 理学部
- 5) 平成29年度後期, 生物学ゼミナールⅡ, 理学部
- 6) 平成29年度後期, 生物学展望, 理学部
- 7) 平成29年度後期, 水圏微生物学, 大学院理工学研究科博士前期課程
- 8) 平成29年度後期, 微生物学, 理学部

大林由美子

- 1) 平成29年度前期, 環境基礎数学, 農学部
- 2) 平成29年度前期, 新入生セミナー A, B, 農学部
- 3) 平成29年度後期, 環境保全学概論, 農学部
- 4) 平成29年度後期, 環境保全学実験Ⅲ, 農学部
- 5) 平成29年度通年, 分子生態学実習, 農学部
- 6) 平成29年度通年, 環境保全セミナー, 農学部
- 7) 平成29年度通年, 環境保全学特別演習Ⅱ, 大学院農学研究科
- 8) 平成29年度通年, 環境保全学特別実験Ⅱ, 大学院農学研究科

集中講義

鈴木 聡

- 1) 平成29年度後期, 生物圏科学特別講義Ⅱ, 北海道大学大学院環境科学院

北村 真一

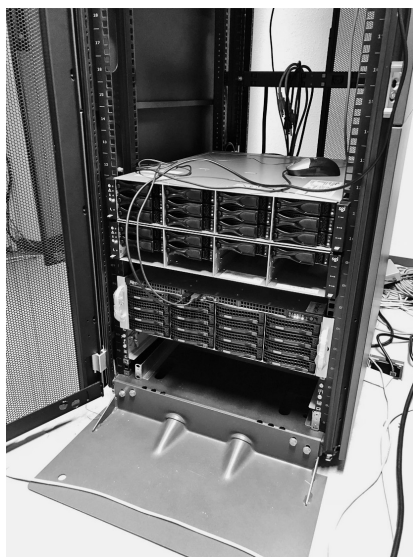
- 1) 平成29年度後期, 細胞培養工学, 福井県立大学海洋生物資源学部

8. 設 備

(平成29年度導入)

環境動態解析部門

- 1) 計算サーバー (SGI Infinite Storage5100 ストレージ装置) : 数値モデルの結果を保存・解析する。(写真上部)
- 2) データサーバー (SGI Infinite Storage5000 ディスク増設) : 数値モデルの結果を保存・解析する。(写真下部)
- 3) 遠心機 75007205 (SORVALL ST 8R サーモ・フィッシャー・サイエンティフィック社) : 堆積物のDNAを抽出する。



化学汚染・毒性解析部門

- 1) 酸素モニター (Firesting 012979) : 水中の溶存酸素濃度を測定する。



9. 広 報

(平成29年度)

9. 1 CMES ニュース

CMES ニュース No.36

目 次

兼任教員紹介

化学汚染・毒性解析部門 兼任准教授 石橋 弘志

研究員紹介

化学汚染・毒性解析部門 Guo Jiahua

化学汚染・毒性解析部門 Bak Su-min

受賞紹介

化学汚染・毒性解析部門 教 授 田辺 信介

大学院理工学研究科博士前期課程 松下 尚史

大学院理工学研究科博士前期課程 田村 沙弥

環境動態解析部門 教 授 郭 新宇

生態系解析部門 助 教 大林由美子

科研費採択研究課題紹介

環境動態解析部門 講 師 吉江 直樹

化学汚染・毒性解析部門 講 師 仲山 慶

編集後記

LaMer ニュース No.3

目 次

拠点長新年度挨拶

化学汚染・毒性解析部門 教 授 岩田 久人

研究集会・特別講演会開催報告

生態系解析部門 教 授 鈴木 聡

環境動態解析部門 教 授 森本 昭彦

環境動態解析部門 講 師 吉江 直樹

平成28年度 LaMer 特別講演会開催一覧

共同利用・共同研究課題紹介

化学汚染・毒性解析部門 教 授 岩田 久人

編集後記

CMES ニュース No.37

目 次

訃報 立川 涼先生ご逝去

化学汚染・毒性解析部門 教 授 田辺 信介

研究員紹介

日本学術振興会外国人特別研究員 Kanerva Mirella

研究課題紹介

化学汚染・毒性解析部門	教 授	岩田 久人
化学汚染・毒性解析部門	講 師	仲山 慶
環境動態解析部門	准教授	加 三千宣
化学汚染・毒性解析部門	研究員	田上 瑠美
科研費等採択状況		

受賞紹介

化学汚染・毒性解析部門	研究員	田上 瑠美
大学院理工学研究科博士後期課程		高口 倅暉
大学院理工学研究科博士前期課程		田中 啓介
大学院理工学研究科博士前期課程		野崎 一茶
大学院理工学研究科博士後期課程		芳之内結加
大学院理工学研究科博士後期課程		眞野 能
大学院理工学研究科博士前期課程		小川 雄平

編集後記

LaMer ニュース No.4

目 次

国際シンポジウム PRIMO19 開催報告

化学汚染・毒性解析部門	教 授	岩田 久人
Hanoi University of Natural Resources and Environment		
		Le Thi Hai Le
Bharathidasan University		
		R. Babu Rajendran
大学院理工学研究科博士後期課程		Hoa Thanh Nguyen
大学院理工学研究科博士後期課程		芳之内結加

研究集会開催報告

化学汚染・毒性解析部門	兼任教授	高橋 真
生態系解析部門	教 授	鈴木 聡
化学汚染・毒性解析部門	准教授	野見山 桂
生態系解析部門	教 授	鈴木 聡
環境動態解析部門	教 授	森本 昭彦

編集後記

9. 2 報道関係

環境動態解析部門

吉江 直樹

- 1) 平成29年5月9日, NEWS キャッチあい「商業養殖が開始されたスマと海水温の関連性や今後の水温上昇と養殖可能海域の拡大, 多の海洋生態系への影響について解説」, あいテレビ

化学汚染・毒性解析部門

田辺 信介

- 1) 平成29年6月30日, 環境化学の先駆者 立川さん, 門下生ら200人が追悼文集, 業績たたえ年内にも発行, 毎日新聞
- 2) 平成29年7月2日, 環境化学の先駆者 愛媛大名誉教授立川 涼さん, 5月9日死去86歳, 愛媛新聞
- 3) 平成29年12月26日, 愛媛大名誉教授 立川さん追悼文集刊行, 環境問題で尽力, 門下生に激励の言葉も, 毎日新聞

野見山 桂

- 1) 平成29年8月4日, 午後7時30分～午後7時59分ドキュメントしこく「命の輝きを撮る」, NHK

岩田 久人

- 1) 平成30年2月4日「環境汚染の悪影響 動物の感受性調査」, 読売新聞

9.3 講座, 講演会等

化学汚染・毒性解析部門

田辺 信介

- 1) 田辺信介: 特別講演「残留性有機汚染物質 (POPs) による地球と生物の汚染」, 第35回精神医学講座担当学会議, 松山市, 8月, 報告書, 32-42..
- 2) 田辺信介: 安心・安全なしろあり防除: クロルデンに学ぶ, 日本しろあり対策協会平成28年度しろあり防除施行講習会, 高松市, 10月.

岩田 久人

- 1) 化学物質と環境, 平成29年度愛媛大学附属高等学校における高大連携授業「環境教育学」, 松山市, 1月.
- 2) Ecotoxicology and Risk of Wildlife, Kyung Hee University, Graduate Student Seminar, Seoul, Korea, March, 2018.
- 3) Risk of Chemical Pollutants in the Baikal seal, Ehwa Womans University, Special Seminar, Seoul, Korea, March, 2018.

国末 達也

- 1) 北海道に漂着した鯨類における残留性有機汚染物質の蓄積特性 - 継続的な試料採集と保存の重要性 - (特別講演), 第28回日本セトロロジー研究会 ストランディングネットワーク北海道創立10周年記念シンポジウム, 2017年6月.
- 2) Emerging contamination issue of persistent toxic substances in e-waste recycling sites. (Invited lecture) The 14th International Symposium on Persistent Toxic Substances, Nagoya, September 2017.
- 3) 内分泌かく乱化学物質, 高大連携授業「愛媛県立松山南高等学校スーパーサイエンスハイスクール環境教育学」, 松山市, 2018年1月.

野見山 桂

- 1) 化学物質による野生生物汚染と環境ホルモン問題について, 三重中学校ミニ講義, 愛媛大学, 5月.
- 2) 化学物質によるペットの汚染問題, 聖カタリナ大学講義, 聖カタリナ大学, 12月.

生態系解析部門

鈴木 聡

- 1) 薬の効かない微生物～世界を揺るがす薬剤耐性菌問題～, 愛媛大学附属高校, グローバルスタディーズ, 2018年1月.

大林由美子

- 1) 微生物ここにもそこにも～1 mLの水に100万の命～, 愛媛大学農学部オープンキャンパス模擬授業, 2017年8月.
- 2) たまきさんサロン講座: 海のサイエンスカフェ「海の中の雪 (マリンスノウ) の話」, 企画・司会, 日本海洋学会教育問題研究会主催, せんだい環境学習館たまきさんサロン, 2017年10月.
- 3) 自然観察会「みてみよう! いきものミクロ☆たんけん隊」, 企画・講師, 日本微生物生態学会・日本菌学会・茨城県自然博物館共催, 茨城県自然博物館, 2017年11月.
- 4) サイエンスアゴラ2017 ブース45「顕微鏡でみてみよう! じつは身近な「びせいぶつ」」, 企画提供代表者・講師, テレコムセンタービル, 2017年2017年11月.

9. 広 報

- 5) 海のサイエンスカフェ「耳石でわかる！魚の暮らした環境」, 企画・実施補助, 日本海洋学会教育問題研究会主催, タリーズコーヒー 品川インターシティ店, 2018年3月.

10. 調査実習船「いさな」運航状況

(平成29年度)

船長：大西秀次郎

日 付	運行海域	目 的
平成29年4月28日	伊 予 灘 ・ 安 芸 灘	底泥採取
平成29年5月11日	実 習 及 び 採 泥 調 査	別府湾
平成29年5月16日	伊 予 灘	マイクロプラスチック及び底泥の採取
平成29年5月29日	伊 予 灘	伊予灘における潮汐フロント周辺の観測
平成29年5月31日	伊 予 灘	理学部野外研究
平成29年6月2～5日	伊 予 灘	伊予灘における潮汐フロント周辺の観測
平成29年6月9日	伊 予 灘	伊予灘における潮汐フロント周辺の観測
平成29年6月11日	伊 予 灘	伊予灘における潮汐フロント周辺の観測
平成29年6月13日	伊 予 灘	伊予灘における潮汐フロント周辺の観測
平成29年6月20日	伊 予 灘	流速計の測定
平成29年6月22～23日	別 府 湾	コアラーによる堆積採集
平成29年7月6日	伊予市～長浜沖海域	海洋生物学実習下見
平成29年7月8日	伊予市～長浜沖海域	海洋生物学実習
平成29年7月23日	伊 予 市 沖	サメ捕獲調査
平成29年7月24日	伊 予 灘	伊予灘における潮汐フロント周辺の観測
平成29年7月26日	伊 予 灘	伊予灘における潮汐フロント周辺の観測
平成29年7月28日	伊 予 灘	伊予灘における潮汐フロント周辺の観測
平成29年7月30日	伊 予 灘	伊予灘における潮汐フロント周辺の観測
平成29年8月2日	伊 予 灘	伊予灘における潮汐フロント周辺の観測
平成29年8月3日	伊 予 灘	伊予灘における潮汐フロント周辺の観測
平成29年8月21日	伊 予 灘	計量魚群探知機の校正作業
平成29年8月25～28日	伊予灘～豊後水道	クラゲ、内部波観測
平成29年9月9～10日	佐 田 岬 周 辺	海洋実習（スーパーサイエンスコース）
平成29年9月13～14日	広 島 県 三 原 市 沖	採泥調査
平成29年9月26日	広 島 湾 ・ 安 芸 灘	底泥調査
平成29年10月12日	別 府 湾	底泥調査
平成29年10月20日	広 島 湾	海底堆積物試料採集
平成29年10月31日	伊 予 市 ～ 長 浜 沖	サンプル採取
平成29年11月1日	松 山 沖	採水作業

11. 研究員名簿

(研究員：沿岸環境科学研究センター規則（14章参照）に基づき任命された学内の協力研究者）

(平成29年度)

氏 名	所 属	職	研 究 課 題	主として連携する研究分野
畑田 佳男	理工学研究科生産環境工学専攻	講 師	沿岸波浪に関する研究	環境動態解析部門
井内 國光	理工学研究科生産環境工学専攻	准教授	海岸地下水に関する研究	環境動態解析部門
森脇 亮	理工学研究科生産環境工学専攻	教 授	大気環境に関する研究	環境動態解析部門
堀 利栄	理工学研究科数理物質科学専攻	教 授	瀬戸内海の底質環境に関する総合研究	環境動態解析部門
三浦 猛	南予水産研究センター 生命科学部門	教 授	海洋環境が真珠母貝（アコヤガイ）の成長および真珠形成に及ぼす影響	化学汚染・毒性解析部門
菅原 卓也	農学研究科生命機能学専攻	教 授	環境化学物質の生体毒性評価	化学汚染・毒性解析部門
村上 安則	理工学研究科環境機能科学専攻	准教授	化学物質が発生期の神経系に及ぼす影響の解析	化学汚染・毒性解析部門
中島 敏幸	理工学研究科環境機能科学専攻	准教授	水界微生物群集の種間相互作用の解析	生態系解析部門
井上 幹生	理工学研究科環境機能科学専攻	教 授	河川性魚類の生息環境の解析	生態系解析部門
畑 啓生	理工学研究科環境機能科学専攻	准教授	沿岸魚類群集の解析	生態系解析部門
松原 孝博	南予水産研究センター	教 授	魚類腸内細菌と宿主の相互作用	生態系解析分野
村上 安則	理工学研究科環境機能科学専攻	准教授	化学物質の神経系への影響解明	生態系解析分野

12. 客員研究員名簿

(客員研究員：沿岸環境科学研究センター規則(14章参照)に基づき委嘱された学外の協力研究者)

(平成29年度)

氏 名	所 属	職	研 究 課 題	主として連携する研究分野
高橋 暁	独立行政法人産業技術総合研究所中国センター 地質情報研究部門 沿岸海洋研究グループ	グループ長	瀬戸内海の流動の数値シミュレーションに関する研究	環境動態解析部門
市川 香	九州大学応用力学研究所 地球環境力学部門	准教授	黒潮の沿岸海域への影響に関する研究	環境動態解析部門
清水 学	独立行政法人水産総合研究センター中央水産研究所 海洋・生態系研究センター 生態系モデルグループ	グループ長	東シナ海の海洋構造に関する研究	環境動態解析部門
速水 祐一	佐賀大学 低平地沿岸海域研究センター	准教授	沿岸海域における物質輸送、物理生物相互作用に関する研究	環境動態解析部門
兼田 淳史	福井県立大学海洋生物資源学部	准教授	豊後水道の物理環境に関する研究	環境動態解析部門
奈良 正和	高知大学 教育研究部自然科学系理学部門	准教授	瀬戸内海の実地堆積物と底生動物に関する研究	環境動態解析部門
山口 一岩	香川大学農学部応用生物科学科	准教授	人間活動が沿岸環境に及ぼす影響に関する研究	環境動態解析部門
磯辺 篤彦	九州大学応用力学研究所 附属東アジア海洋大気環境研究センター	教 授	瀬戸内海の海洋循環や漂着プラスチックゴミに関する研究	環境動態解析部門
槻木 玲美	松山大学法学部法学科	准教授	湖沼・沿岸域生態系の過去100年にわたるプランクトン動態に関する研究	環境動態解析部門
柴田 康行	独立行政法人国立環境研究所 環境計測研究センター 環境計測化学研究室	フェロー	多環芳香族炭化水素、有機スズ化合物、重金属類およびPOPs関連化学物質の環境モニタリング及び環境動態の解明	化学汚染・毒性解析部門
堀口 敏宏	国立研究開発法人国立環境研究所 環境リスク研究センター 生態系影響評価研究室	室 長	有機スズ化合物による巻貝類のインボセックス誘導機構	化学汚染・毒性解析部門
森 千里	千葉大学大学院医学研究院 環境生命医学	教 授	ヒトにおけるコホート調査でのPCBを中心としたPOPs測定における検体量少量化と簡便化に関する研究	化学汚染・毒性解析部門
高田 秀重	東京農工大学農学研究院	教 授	人為起源有機化合物の環境動態の解明	化学汚染・毒性解析部門

12. 客員研究員名簿

井口 泰泉	自然科学研究機構 岡崎統合バイオサイエンスセンター	教 授	内分泌攪乱物質	化学汚染・毒性解析部門
大嶋 雄治	九州大学大学院 農学研究院	教 授	化学物質の水生生物における複合作用の評価とその機構解明	化学汚染・毒性解析部門
有蘭 幸司	熊本県立大学 環境共生学部	教 授	環境汚染物質の生態影響評価	化学汚染・毒性解析部門
國頭 恭	信州大学 理学部理学科物質循環学 コース	准教授	海棲動物の重金属蓄積特性	化学汚染・毒性解析部門
渡邊 泉	東京農工大学大学院 農学研究院	准教授	地球生態系における重金属および微量元素による汚染実態の解明	化学汚染・毒性解析部門
山田 格	国立科学博物館	名誉研究員	海棲哺乳類学	化学汚染・毒性解析部門
篠原 亮太	熊本県環境センター	館 長	コンポスト中有害化学物質の動態、水環境中微量化学物質の動態、外因性内分泌攪乱化学物質（環境ホルモン）の生態系影響、水の高度処理、干潟における多環芳香族炭化水素の光化学反応、医薬品の環境動態、有機性廃棄物の再利用	化学汚染・毒性解析部門
堤 裕昭	熊本県立大学 環境共生学部環境資源学科	教 授	干潟に棲息する底生生物の動態と環境の関係、マイクロバブル発生装置を用いた水質環境の改善	化学汚染・毒性解析部門
磯部 友彦	独立行政法人国立環境研究所 環境健康研究センター総合影響評価研究室エコチル調査コアセンター	研究テーマ型任期付研究員	・生体試料分析による化学物質の曝露評価手法の開発 ・生体試料中有機汚染物質の高感度 ・ハイスループット分析法の確立	化学汚染・毒性解析部門
木暮 一啓	東京大学 大気海洋研究所海洋生態系動態部門	教 授	海洋微生物の生理生態学的研究	生態系解析部門
永田 俊	東京大学 大気海洋研究所海洋化学部門	教 授	水圏における溶存態有機物の動態に関わる微生物群集の多様性と機能に関する研究	生態系解析部門
野中 里佐	獨協医科大学医学部微生物学講座	助 教	薬剤耐性菌の環境中動態に関する研究	生態系解析部門
中野 伸一	京都大学生態学研究センター	教 授	海洋食物網の動態解明	生態系解析部門
上田 拓史	高知大学教育研究総合科学系	教 授	海洋生物に関する研究	生態系解析部門
広瀬 裕一	琉球大学理学部海洋自然科学生物系	教 授	ホヤの生物学および形態学	生態系解析部門
柳田 哲矢	山口大学共同獣医学部	准教授	寄生虫の集団遺伝学的解析	生態系解析部門
飯田 緑	九州工業大学情報工学部	博士研究員	抗生物質曝露による魚類への影響解析	化学汚染・毒性解析部門

13. 運営委員会

(平成29年度)

委員長	田 辺 信 介	沿岸環境科学研究センター長	教 授
委 員	不 破 茂	法文学部	准教授
委 員	中 村 依 子	教育学部	准教授
委 員	中 島 敏 幸	大学院理工学研究科（理）	教 授
委 員	三 宅 吉 博	大学院医学系研究科	教 授
委 員	日 向 博 文	大学院理工学研究科（工）	教 授
委 員	竹 内 一 郎	農学部	教 授
委 員	山 藤 篤	社会共創学部	助 教
委 員	池 内 浩 二	研究支援部	部 長
委 員	武 岡 英 隆	社会連携推進機構	特命教授
委 員	鈴 木 聡	沿岸環境科学研究センター	教 授
委 員	岩 田 久 人	沿岸環境科学研究センター	教 授
委 員	国 末 達 也	沿岸環境科学研究センター	教 授
委 員	郭 新 宇	沿岸環境科学研究センター	教 授
委 員	森 本 昭 彦	沿岸環境科学研究センター	教 授
委 員	北 村 真 一	沿岸環境科学研究センター	准教授
委 員	加 三千宣	沿岸環境科学研究センター	准教授
委 員	野見山 桂	沿岸環境科学研究センター	准教授

定足数 過半数（10名）代理可

期 間：平成29年 4 月 1 日～平成31年 3 月31日

社会連携推進機構 第3条1項6号委員 平成29年 4 月 1 日～平成30年 3 月31日

沿岸環境科学研究センター長 第3条1項6号委員 平成29年 4 月 1 日～平成30年 3 月31日

14. センター規則および運営委員会規程

愛媛大学沿岸環境科学研究センター規則

平成16年4月1日
規則第197号

(趣旨)

第1条 この規則は、国立大学法人愛媛大学基本規則第30条第2項の規定に基づき、愛媛大学沿岸環境科学研究センター（以下「センター」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第2条 センターは、沿岸域の環境科学に関する研究及び教育を行うことにより、沿岸環境科学研究の総合的推進を図り、併せて地域社会の発展に貢献することを目的とする。

(研究部門)

第3条 前条の目的を達成するため、センターに次の研究部門を置く。

- (1) 環境動態解析部門
- (2) 化学汚染・毒性解析部門
- (3) 生態系解析部門
- (4) 国際・社会連携部門

(組織)

第4条 センターに、次の各号に掲げる職員を置く。

- (1) センター長
- (2) 専任教員
- (3) 特定職員である教員
- (4) 兼任教員
- (5) その他必要な職員（以下「センター職員」という。）

2 センターに、前項のほか、副センター長を置くことができる。

(先端研究推進会議)

第5条 センターの業務に関する重要な事項は、愛媛大学先端研究・学術推進機構先端研究推進会議（以下「先端研究推進会議」という。）において審議する。

(運営委員会)

第6条 センターの運営に関する事項を審議するため、センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。

2 運営委員会に関する規程は、別に定める。

(センター長)

第7条 センター長及び副センター長は、愛媛大学（以下「本学」という。）の専任の教授及び特定職員である教授のうちから先端研究推進会議が推薦し、学長が選考する。

2 センター長及び副センター長の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、センター長又は副センター長に欠員が生じた場合の後任者の任期は、それぞれ前任者の残任期間とする。

3 前項の規定にかかわらず、副センター長の任期は、センター長の任期の末日を超えることができない。

(専任教員)

第8条 センターの専任教員は、先端研究推進会議が推薦し、学長が選考する。

(兼任教員)

第9条 兼任教員は、本学の専任教員及び特定職員である教員のうちから、センター長が当該教員の所属する部局等の長の同意を得て推薦し、学長が任命する。

2 兼任教員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、兼任教員に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

3 前項の規定にかかわらず、兼任教員の任期は、センター長の任期の末日を超えることができない。

(職務)

第10条 センター長は、センターの業務を掌理する。

2 副センター長は、センター長の職務を補佐し、センター長が不在又は事故があるときは、その職務を代行する。

3 専任教員及び特定職員である教員は、センター長の職務を助け、センターの業務を遂行する。

4 兼任教員は、専任教員とともにセンターの業務を遂行する。

5 センター職員は、センターの業務に従事する。

(研究員)

第11条 センターに、研究員を置くことができる。

2 研究員は、センターの研究計画に基づき、研究に従事するものとする。

3 研究員は、本学の専任教員のうちからセンターの専任教員が推薦し、運営委員会の議を経て、学長が任命する。

4 研究員の任期は2年以内とし、再任を妨げない。

(客員研究員)

第12条 センターに、客員研究員を置くことができる。

2 客員研究員の選考は、愛媛大学客員研究員規程の定めるところによる。

(利用)

第13条 センターの利用に関する規程は、別に定める。

(生物環境試料バンク)

第14条 センターに、生物・環境試料を収集管理し、学内外の研究に供する生物環境試料バンク（以下「バンク」という。）を置く。

2 バンクに関する規程は、別に定める。

(研究生)

第15条 センターは、研究生を受け入れることができる。

2 研究生の入学選考は、運営委員会で行う。

(事務)

第16条 センターに関する事務は、研究支援部研究支援課において処理する。

(雑則)

第17条 この規則に定めるもののほか、センターに関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規則は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成16年6月9日から施行する。

附 則

この規則は、平成16年11月16日から施行する。

附 則

この規則は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成20年10月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成21年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成22年4月1日から施行する。

14. センター規則および運営委員会規程

附 則

この規則は、平成22年4月14日から施行し、平成22年4月1日から適用する。

附 則

この規則は、平成22年9月7日から施行し、平成22年7月7日から適用する。

附 則

この規則は、平成23年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成25年7月25日から施行する。

附 則

この規則は、平成27年2月18日から施行する。

附 則

この規則は、平成28年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成29年4月1日から施行する。

愛媛大学沿岸環境科学研究センター運営委員会規程

平成16年4月1日
規則第26号

(趣旨)

第1条 この規程は、愛媛大学沿岸環境科学研究センター規則第6条第2項の規定に基づき、愛媛大学沿岸環境科学研究センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(審議事項)

第2条 運営委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 愛媛大学沿岸環境科学研究センター（以下「センター」という。）の運営に係る基本事項に関すること。
- (2) センターの予算及び決算に関すること。
- (3) その他センターの運営に関すること。

(組織)

第3条 運営委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) センター長
 - (2) 副センター長（副センター長を置く場合に限る。）
 - (3) センターの講師以上の専任教員
 - (4) 各学部の専任教員 各1人
 - (5) 研究支援部長
 - (6) その他委員長が必要と認めた者
- 2 前項第4号の委員は、各学部長が推薦し、学長が任命する。
- 3 第1項第6号の委員は、運営委員会の議を経て委員長が推薦し、学長が任命する。
- 4 第1項第4号の委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、委員に欠員が生じたときはこれを補充し、その任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第4条 運営委員会に委員長を置き、センター長をもって充てる。

- 2 委員長は、運営委員会を招集し、その議長となる。
- 3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名する委員がその職務を代行する。

(議事)

第5条 運営委員会は、委員（代理者を含む。以下同じ。）の過半数が出席しなければ議事を開くことができない。

2 議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。
(委員以外の者の出席)

第6条 委員長が必要と認めるときは、委員以外の者を出席させ、説明又は意見を聴くことができる。
(専門委員会)

第7条 運営委員会は、専門的事項を調査検討するため、専門委員会を置くことができる。

2 専門委員会に関する事項は、運営委員会が定める。
(事務)

第8条 運営委員会に関する事務は、研究支援部研究支援課において処理する。
(雑則)

第9条 この規程に定めるもののほか、運営委員会の運営に関し必要な事項は、運営委員会が定める。

附 則

この規程は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成16年11月16日から施行する。

附 則

この規程は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成20年10月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成22年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成27年2月18日から施行する。

附 則

1 この規程は、平成28年4月1日から施行する。

2 この規程施行後、第3条第2項の規定により最初に任命される社会共創学部同条第1項第4号の委員の任期は、同条第4項の規定にかかわらず、平成29年3月31日までとする。

附 則

この規程は、平成29年4月1日から施行する。

愛媛大学沿岸環境科学研究センター生物環境試料バンク内規

平成16年4月1日

制 定

(趣旨)

第1条 この内規は、愛媛大学沿岸環境科学研究センター（以下「センター」という。）規則第13条第2項の規定に基づき、愛媛大学沿岸環境科学研究センター生物環境試料バンク（以下「試料バンク」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(業務)

第2条 試料バンクは、生物及び環境の試料を収集管理するとともに、学内外の研究に供し、沿岸環境科学の推進に資する業務を処理する。

(組織)

第3条 試料バンクに、次の各号に掲げる職員を置く。

(1) 試料バンク長

14. センター規則および運営委員会規程

(2) その他必要な職員

第4条 試料バンク長は、センター教員のうちからセンター運営委員会が推薦し、センター長が任命する。

2 試料バンク長の任期は2年とし、再任を妨げない。

3 試料バンク長はセンター長の指示に従い、試料バンクの業務を掌理する。

(専門委員会)

第5条 試料バンクに、試料バンクに関する重要事項を審議するため試料バンク専門委員会を置く。

2 試料バンク専門委員会に関し必要な事項は、別に定める。

(事務)

第6条 試料バンクの事務は、研究支援部研究支援課で処理する。

(雑則)

第7条 この内規に定めるもののほか、試料バンクの運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

1 この内規は、平成16年4月1日から施行する。

2 この内規の施行後、最初に任命される試料バンク長の任期は、第4条第2項の規定にかかわらず、平成17年3月31日までとする。

附 則

この内規は、平成16年11月16日から施行する。

附 則

この内規は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この内規は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

この内規は、平成20年10月1日から施行する。

附 則

この内規は、平成22年4月1日から施行する。

附 則

この内規は、平成29年4月1日から施行する。

愛媛大学沿岸環境科学研究センター

調査実習船「いさな」安全管理規程

平成28年 4 月 1 日

目 次

第 1 章 総 則

第 2 章 安全統括管理者の責務

第 3 章 安全統括管理者，運航管理者等の選解任

第 4 章 安全統括管理者等の勤務体制並びに職務及び権限

第 5 章 運航計画の作成等並びに運航に必要な情報の収集及び伝達

第 6 章 運航の可否判断

第 7 章 運航及び調査・実習に伴う作業の安全の確保

第 8 章 運航施設の点検整備

第 9 章 海難その他の事故の処理

第10章 安全に関する教育，訓練等

第11章 雑 則

第1章 総 則

(目的)

第1条 この規程は、愛媛大学沿岸環境科学研究センター(以下「センター」という。)が調査実習船の運航に当たって、安全最優先意識の徹底を図るとともに、調査実習船の業務を安全、適正かつ円滑に処理するための業務の実施の基準を明確にし、運航の安全を確保することを目的とする。

(用語の意義)

第2条 この規程において、次の各号に掲げる用語の意義は、それぞれ当該各号に定めるところによる。

- (1) 安全マネジメント体制：安全統括管理者により、センターで行われる安全管理が、あるべき手順及び方法に沿って確立され、実施され、維持される状態
- (2) 安全統括管理者：運航の安全を確保するための管理業務を統括管理する者
- (3) 運航管理者：船長の職務権限に属する事項以外の船舶の運航の管理に関する統轄責任者
- (4) 運航管理補助者：運航管理者の職務を補佐し、運航管理者が職務を執行できないとき、その職務を代行する者
- (5) 陸上連絡員：船舶との連絡を行う者
- (6) 運航補助員：乗員の代表者(学生を除く。)
- (7) 運航計画：起終点、寄港地、航行経路、航海速力、運航回数、発着時刻、運航の時季等に関する計画
- (8) 発航：現在の停泊場所を解らんして次の目的港への航海を開始すること。
- (9) 基準航行：基準経路を基準速力により航行すること。
- (10) 入港：港の区域内、港湾区域内等において、狭水路、関門等を通航して防波堤等の内部へ進航すること。
- (11) 運航：「発航」、「基準経路及び基準速力による航行の継続」又は「着棧」を行うこと。
- (12) 反転：目的港への航行の継続を中止し、発航港へ引返すこと。
- (13) 運航基準図：航行経路(起終点、寄港地、針路、変針点等)、標準運航時間、航海速力、船長が直接操船する区間、その他航行の安全を確保するために必要な事項を記載した図面

第2章 安全統括管理者の責務

(安全統括管理者の主体的関与)

第3条 船舶による運航の安全確保のため、安全統括管理者は次に掲げる事項について主体的に関与し、全体の安全マネジメント体制を適切に運営する。

- (1) 関係法令及び学内規程の遵守と安全最優先の原則の徹底
- (2) 重大な事故等に対する確実な対応
- (3) 安全マネジメント体制を確立し、実施し、維持するために、かつ、運航の安全を確保するために必要な要員、情報、運航施設等を確実に使用できるようにすること。
- (4) 安全マネジメント体制の見直し

第3章 安全統括管理者、運航管理者等の選解任

(安全統括管理者の選任)

第4条 センター長は、安全統括管理者を選任又は自ら兼任する。

(運航管理者の選任)

第5条 安全統括管理者は、センターの教職員の中から運航管理者を選任する。

(安全統括管理者及び運航管理者の解任)

第6条 安全統括管理者は、安全統括管理者又は運航管理者が次の各号のいずれかに該当することとなったときは、当該安全統括管理者又は運航管理者を解任する(自ら兼務している場合は兼務を解く。)ものとする。

- (1) 身体の故障その他やむを得ない事由により職務を引続き行うことが困難になったとき。
- (2) 安全管理規程に違反することにより、その職務を引続き行うことが運航の安全の確保に支障を及ぼすおそれがあると認められるとき。

(運航管理補助者及び陸上連絡員の選任及び解任)

第7条 安全統括管理者は、運航管理補助者及び陸上連絡員を選任及び解任する。

第4章 安全統括管理者等の勤務体制並びに職務及び権限

(安全統括管理者等の勤務体制)

第8条 安全統括管理者、運航管理者及び運航管理補助者は、船舶を運航中は常時連絡できる体制になければならない。

(安全統括管理者の職務及び権限)

第9条 安全統括管理者の職務及び権限は、次のとおりとする。

- (1) 安全マネジメント体制に必要な手順及び方法を確認し、実施し、維持すること。
- (2) 情報伝達及びコミュニケーションの確保、事故等に関する報告、是正措置及び予防措置の実施状況等、安全マネジメント体制の実施状況及び改善の必要性の有無を記録すること。
- (3) 関係法令の遵守と安全最優先の原則を徹底するとともに、安全管理規程の遵守を確実にすること。

(運航管理者の職務及び権限)

第10条 運航管理者の職務及び権限は、次のとおりとする。

- (1) 船長の職務権限に属する事項を除き、船舶の運航の管理及び運航の安全に関する業務全般を統轄し、安全管理規程の遵守を確実にしてその実施を図ること。
 - (2) 船舶の運航に関し、(船長と協力して)運航の安全を図ること。
 - (3) 運航管理補助者を指揮監督すること。
- 2 運航管理者の職務及び権限は、法令に定める船長の職務及び権限を侵し、又はその責任を軽減するものではない。

(運航管理補助者の職務)

第11条 運航管理補助者は、運航管理者を補佐するほか、運航管理者がその職務を執行できないときは、その職務を代行するものとする。

第5章 運航計画の作成等並びに運航に必要な情報の収集及び伝達

(使用許可)

第12条 船舶の使用を希望する者は、あらかじめセンター長に調査実習船使用願を提出し、使用許可を受けなければならない。

- 2 乗船者に学外者が含まれる場合は、前項の使用願とともに、当該者に係る誓約書を提出しなければならない。
- 3 センター長は、船舶の使用を許可したときは、遅滞なく運航管理者及び船長に通知するものとする。

(運航計画の作成及び変更)

第13条 船長は運航にあたって事前に運航計画書を運航管理者に提出しなければならない。

- 2 運航計画を作成又は変更する場合は、運航管理者は使用船舶の性能、使用桟橋付近の状況、航路の交通状況及び自然的性質等についてその安全性を検討するものとする。
- 3 船舶、陸上施設又は港の状況が船舶の運航に支障を及ぼすおそれがあると認められる場合は、運航管理者は、運航休止、寄港地変更等の措置をとらなければならない。

(運航管理者の措置)

第14条 運航管理者は、前条第1項に定める運航計画書の提出があった場合は、遅滞なく安全統括管理者に報告するものとする。

- 2 運航管理者は、気象・海象に関する情報、港内事情、陸上施設の状況、水路通報、港長公示等官公庁の発する運航に関する情報、乗船した乗員数、船舶の動静、その他航行の安全の確保のために必要な事項を把握するものとする。

(船長の措置)

第15条 船長は、次に掲げる場合には必ず陸上連絡員に連絡しなければならない。

- (1) 発航前点検を終え出港するとき。
 - (2) 現場海域での調査・実習が終了したとき。
 - (3) 着桟したとき。
 - (4) 非常連絡事項(別表)に定める事故が発生したとき。
 - (5) 航行の安全に係わりを有する船体、機関、設備等の修理又は整備を必要とする事態が生じたとき。
- 2 船長は、次に掲げる事項の把握に努めるものとする。

- (1) 気象・海象に関する情報
- (2) 航行中の水路の状況

(連絡方法)

第16条 船長と陸上連絡員との連絡は、携帯電話等によるものとする。

(運航基準図等)

第17条 運航基準図に記載すべき事項は次のとおりとする。

- (1) 起点、終点及び寄港地の位置並びにこれら相互間の距離
- (2) 航行経路（針路、変針点、基準経路等）
- (3) 標準運航時間（起点、終点及び寄港地並びに主要地点通過時間）
- (4) 通航船舶、漁船等により、通常、船舶がふくそうする海域
- (5) 航行経路付近に存在する浅瀬、岩礁等航行の障害となるものの位置
- (6) その他航行の安全を確保するために必要な事項

2 船長は、基準経路、避険線その他必要と認める事項を海図に記入するものとする。

(速力基準等)

第18条 速力基準は、次のとおりとする。

速力区分	速力	毎分機関回転数
最 微 速	2ノット	600rpm（スロークラッチ使用）
微 速	5ノット	600rpm
半 速	15ノット	1800rpm
航海速力	21ノット	2400rpm

2 船長は、速力基準表を船橋内の操作する位置から見易い場所に掲示しなければならない。

(特定航法)

第19条 伊予市森港の航法は、次のとおりとする。

船舶は、入港しようとするときは森港栽培漁業研究所取水口灯浮標を右に見て水路に入り、水路の右側を航行しなければならない。

第6章 運航の可否判断

(発航の可否判断)

第20条 船長は、発航前に運航の可否判断を行い、発航地の気象・海象が次に掲げる条件の一に達していると認めるときは、発航を中止しなければならない。

- (1) 波浪警報・注意報発令
- (2) 風速 10m/s 以上
- (3) 波高 1.5m 以上
- (4) 視程 1,000m 以下

2 船長は、発航前において、航行中に遭遇する気象・海象（視程を除く。）に関する情報を確認し、次に掲げる条件の一に達するおそれがあると認めるときは、発航を中止しなければならない。

- (1) 波浪警報・注意報発令
- (2) 風速 10m/s 以上
- (3) 波高 1.5m 以上

3 船長は、前2項の規定に基づき発航の中止を決定したときは、乗員の下船、保船措置その他の適切な措置をとらなければならない。

(航行の可否判断)

第21条 船長は、周囲の気象・海象（視程を含む。）に関する情報を確認し、基準航行を継続した場合、船体の動揺等により安全な運航が困難となるおそれがあると認めるとき又は周囲の視程が1,000m以下となったときは、基準航行を中止し、減速、適宜の変針、反転等の適切な措置をとらなければならない。

2 船長は、日の出前及び日没後の航行を避けるよう、運航計画を作成するとともに、万が一運航中遭遇が予想される場合は、運航計画の変更を速やかに行い、避港等の措置を実施する。

(着栈の可否判断)

第22条 船長は、着栈予定地の気象・海象に関する情報を確認し、次に掲げる条件の一に達していると認めるとき

は、着栈を中止し、適宜の海域での待機、臨時寄港その他の適切な措置をとらなければならない。

- (1) 波浪警報・注意報発令
- (2) 風速 10m/s 以上
- (3) 波高 1.5m 以上
- (4) 視程 1,000m 以下

(運航の可否判断等の連絡及び記録)

第23条 船長は、運航中止の措置をとったときは、その旨を陸上連絡員に連絡しなければならない。

- 2 船長は、基準航行の変更、運航の可否判断、運航中止の措置を運航日誌に記録するものとする。運航中止基準の達した、又は達するおそれがあった場合における運航継続の措置については、判断理由を記載すること。記録は適時まとめて記載してもよい。

(陸上連絡員の援助措置)

第24条 陸上連絡員は、船長から臨時寄港する旨の連絡を受けたときは、当該寄港地における使用栈橋の手配等適切な援助を行うものとする。

第7章 運航及び調査・実習に伴う作業の安全の確保

(作業体制)

第25条 船長は、乗員の中から運航補助員（学生を除く。）を任命する。

- 2 船長は運航補助員及び乗員を指揮して、乗下船する乗員の誘導、離着栈時における諸作業を実施する。
- 3 船長は、乗員に対し、乗船前又は乗船後出港前に、安全に関する説明を行う。

(乗船作業)

第26条 着栈後、運航補助員は船長の指示を確認し、乗員に乗船の開始を指示する。

- 2 運航補助員は乗船乗員数を把握し、乗員定員を超えていないことを確認して船長に報告する。

(離栈作業)

第27条 運航補助員は、乗員の乗船が完了したときはその旨船長に報告し、船長の指示により迅速に離栈作業を行う。

(着栈作業)

第28条 運航補助員は、船長の指示により迅速、確実に係留作業を実施する。

- 2 運航補助員は、着栈時の衝撃による乗員の転倒事故を防止するため、乗員へ着席や手すりへの掴まりを指示する。
- 3 運航補助員は、着栈時、乗員が船体着栈側に身を乗り出さないよう注意する。

(係留中の保安)

第29条 船長及び運航補助員は、係留中、乗員の安全に支障のないよう係留方法に十分留意する。

(下船作業)

第30条 船長は、船体が完全に着栈したことを確認したときは、その旨乗員に合図する。

- 2 運航補助員は、着栈完了合図を確認した後、乗員に下船を指示し、下船完了後、船長に報告する。

(発航前点検)

第31条 船長は、発航前に船舶が航海に支障ないかどうか、その他航海に必要な準備が整っているかどうか等を点検しなければならない。

(船内点検)

第32条 船長は、航海中、船内の状況に留意し、直接状況を見られない場所その他必要と認められる場所については運航補助員及び乗員に点検させるものとする。

(機器点検)

第33条 船長は着栈前、栈橋手前（防波堤手前）300m 等着栈地の状況に応じ安全な海域において、機関の後進、舵等の点検を実施する。一日に何度も離着栈を繰り返す場合もその都度実施する。

(乗船待ち及び調査・実習中の乗員に対する遵守事項等の周知)

第34条 船長は、乗員に対して乗船前又は乗船後出港前において、次の事項を周知しなければならない。

- (1) 乗員は乗下船時又は船内においては、船長及び運航補助員の誘導に従うこと。
- (2) 乗員は船内においては、乗船中の者に危害を加えるような行為又は迷惑をかける行為をしないこと。
- (3) その他乗員の調査・実習中の安全に関して調査実習船「いさな」使用者の安全心得（別紙）を守ること。

(船内における遵守事項等の掲示)

第35条 船長は、船内の乗員が見やすい場所に次の事項を掲示しなければならない。

- (1) 乗員の禁止事項
- (2) 救命胴衣の格納場所及び着用方法
- (3) 非常の際の避難要領（非常信号、避難経路等）
- (4) 病気、盗難等が発生した場合の乗員への通報
- (5) 下船及び非常の際には船長及び運航補助員の指示に従うこと。

(乗員に対する救命胴衣及び安全具の着用に関する指示)

第36条 船長は、救命胴衣及び安全具の着用に関し、乗員に対し次の措置を講じなければならない。

- (1) 乗員には、常時救命胴衣を着用させるよう徹底させること。
- (2) 甲板作業中は、ヘルメット及び手袋の着用を徹底させること。
- (3) 特に必要があるときは、防護具が入った安全靴の着用を指示すること。

(飲酒等の禁止)

第37条 船長及び乗員は、呼気1リットル中のアルコール濃度が0.15mg以上であると判断される場合は、船舶の運航及び調査・実習等の作業を行ってはならない。

第8章 運航施設の点検整備

(船舶検査結果の確認)

第38条 運航管理者は、船舶が法令に定める船舶検査を受検したときは、当該検査の結果を確認しておくこと。

(船舶の点検整備)

第39条 船長は、船体、機関、諸設備、諸装置等について、点検簿を作成し、それに従って、原則として運航前に1回以上点検を実施するものとする。ただし、当日、発航前点検を実施した事項については点検を省略することができる。

2 船長は、前項の点検中、異常を発見したときは、修復整備の措置を講じなければならない。

(陸上施設の点検整備)

第40条 船長は、陸上施設チェック表に基づいて、運航前に1回以上、係留施設（岸壁、ビット、防舷材）、乗降用施設について点検し、異常のある個所を発見したときは、直ちに修復整備の措置を講じなければならない。

第9章 海難その他の事故の処理

(事故処理にあたっての基本的態度)

第41条 事故の処理にあたっては、次に掲げる基本的態度で臨むものとする。

- (1) 人命の安全の確保を最優先とすること。
- (2) 事態を楽観視せず常に最悪の事態を念頭におき措置を講ずること。
- (3) 事故処理業務は、すべての業務に優先して実施すること。
- (4) 陸上連絡員は、陸上でとりうるあらゆる措置を講ずること。

(事故等の範囲)

第42条 この規程において、「事故」とは本学の運航中の船舶に係る第1号から第4号までに掲げる事象をいい、「事故等」とは事故及び第5号の事態（以下「インシデント」という。）をいう。

- (1) 乗員、乗員又はその他の乗船者の死亡、行方不明、負傷若しくは疾病又はその他の人身事故（以下「人身事故」という。）
- (2) 衝突、乗揚げ、火災、浸水、漂流、行方不明、機関停止等重大な機関故障又はその他の救助を必要とする船舶の海難事故
- (3) 航路の障害、港湾施設の損傷又は荒天等による運航の阻害
- (4) 強取（乗っ取り）、殺人、傷害又は暴行・脅迫等の不法行為による運航の阻害
- (5) 前各号の事象に至るおそれの大きかった事態

(船長のとるべき措置)

第43条 船長は、自船に事故が発生したときは、人命の安全の確保のための万全の措置、事故の拡大防止のための措置、乗員の不安を除去するための措置等必要な措置を講ずるとともに、事故の状況及び講じた措置を速やかに海上保安官署及び陸上連絡員等に連絡しなければならない。この場合において措置への助言を求め、援

助を必要とするか否かの連絡を行わなければならない。

- 2 船長から海上保安官署等への速報は、「官公署連絡表」(別表)により、まず、「118」番に架電し、以後、海上保安官署の指示によるものとする。
- 3 船長は、自船が重大かつ急迫の危険に陥った場合又は陥るおそれがある場合は、直ちに遭難通信(遭難信号)又は緊急通信を発しなければならない。
- 4 事故が発生したときに、乗員の安全、船体の保全のために船長が講ずべき必要な措置はおおむね次のとおりである。

(1) 海難事故の場合

- ① 損傷状況の把握及び事故局限の可否の検討
- ② 人身事故に対する早急な救護
- ③ 連絡方法の確立
- ④ 乗員への正確な情報の周知及び状況に即した適切な乗員の誘導
- ⑤ 二次災害及び被害拡大を防止するための適切な作業の実施

(2) 不法事件の場合

- ① 被害者に対する早急な救護
- ② 不法行為者の隔離又は監視
- ③ 連絡方法の確立
- ④ 乗員に対する現状及び措置状況の周知と乗員の軽率な行為の禁止
- ⑤ 不法行為が継続している場合、中止を求める不法行為者への説得

(陸上連絡員のとるべき措置)

第44条 陸上連絡員は、通常連絡、着桟連絡等、船長からの連絡が異常に遅延し連絡がない場合、遅滞なく船舶の動静把握のために必要な措置を講じなければならない。

- 2 陸上連絡員は、前項の措置を講じたにもかかわらず船舶の動静を把握できないときは、直ちに「118」番により海上保安官署に連絡するとともに、関係者に通報しなければならない。
- 3 事故の発生を知ったとき又は船舶の動静が把握できないときに陸上連絡員がとるべき必要な措置はおおむね次のとおりである。

- (1) 事故の実態把握及び救難に必要な情報の収集
- (2) 海上保安官署への救助要請
- (3) 行方不明者の搜索又は本船の救助のための搜索船又は救助船等の手配
- (4) 必要人員の派遣及び必要物資の補給等
- (5) 船長に対する必要事項の連絡
- (6) 医師、病院、宿舎の手配等の乗員の救護のための措置
- (7) 乗員の氏名の確認及びその連絡先への通知
- (8) 損害保険会社への連絡

(安全統括管理者のとるべき措置)

第45条 安全統括管理者は、事故の状況、被害規模等を把握・分析し、適切に対応措置を講じなければならない。
また、現場におけるリスクを明確にし、必要な対応措置を講じなければならない。

(医療救護の連絡等)

第46条 船長及び陸上連絡員は、船内に医療救護を必要とする事態が発生したときは、最寄りの医師と連絡をとり、その指示のもとに適切な措置を講じなければならない。

(現場の保存)

第47条 船長及び陸上連絡員は、事故の処理後、関係海上保安官署等と連絡をとりつつ、事故原因の調査を行うとともに、事件捜査の対象となる場所及び物品の保存に努めなければならない。

(事故の原因等の調査)

第48条 運航管理者は、事故原因及び事故処理の適否を調査し、事故の再発防止及び事故処理の改善を図るものとする。

第10章 安全に関する教育、訓練等

(安全教育)

第49条 安全統括管理者は、乗員及び陸上連絡員に対し、安全管理規程、海上衝突予防法等の関係法令その他運航の安全を確保するために必要と認められる事項について理解しやすい具体的な安全教育を定期的実施し、その周知徹底を図らなければならない。

- 2 運航管理者は、航路の状況、海難その他の事故及びインシデント（事故等の損害を伴わない危険事象）事例を調査研究し、随時又は前項の教育に併せて乗員に周知徹底を図るものとする。

(訓練)

第50条 安全統括管理者は、事故処理に関する訓練を計画し、年1回以上これを実施しなければならない。訓練は、実践的なものとし、訓練の前後には打合せを行う。

(記録)

第51条 運航管理者は、前2条の教育及び訓練を行ったときは、その概要を記録簿に記録しておくものとする。

(見直し)

第52条 安全統括管理者は、年1回以上船舶及び陸上施設の状況並びに安全管理規程の遵守状況のほか安全マネジメント体制全般にわたり見直しを行うものとする。さらに、重大事故が発生した場合には速やかに実施する。

- 2 見直しを行うに際し、安全マネジメント体制の機能全般に関し見直しを行い、改善の必要性について評価し、改善に向け作業する。
- 3 安全統括管理者は、見直しを行ったときは、その内容を記録しておくものとする。

第11章 雑 則

(安全管理規程の変更)

第53条 安全統括管理者は、関係法令の改正、使用船舶の変更等、この規程の内容に係る事項に常に留意し、当該事項に変更が生じたときは、遅滞なくこの規程の改正を行なうものとする。

(安全管理規程等の備付け等)

第54条 安全統括管理者は、安全管理規程及び運航基準図を船舶その他必要と認められる場所に、容易に閲覧できるよう備え付けなければならない。

- 2 安全マネジメント体制を確立し、実施し、維持するために、作成した各種文書は適切に管理する。

(情報伝達)

第55条 安全統括管理者は、運航の安全の確保に関する情報伝達を行うとともに容易に閲覧できるようにする。

- 2 安全統括管理者は、安全にかかる意見等の把握に努め、その検討、実現反映状況についてセンター内各員へ周知する。

附 則

この規程は、平成22年6月2日から施行する。

附 則

この規程は、平成23年7月8日から施行する。

附 則

この規程は、平成28年4月1日から施行する。

別紙（第34条第3号関係）

調査実習船「いさな」使用者の安全心得

〈乗船前安全心得〉

1. 乗船にあたって、使用責任者は研究室及び事務室に乗船目的や、航海計画を事前に提出して許可を得、乗船時の緊急連絡先を確保して置くこと。また、補助者が学生（正職員で無い場合）の場合は出張届を出して、大学の総合保険を付けて貰うこと（平成17年7月1日から適用）。
2. 船は狭くて突起物が多いので、服装は身体にフィットするものとし、長靴又は靴を準備すること（サンダル履き禁止）。
3. 体調には十分留意し、持ち込む飲食物にも十分注意を払うこと。

〈乗船時安全心得〉

1. 船内においては船長の命令は絶対であるので、指示に従うこと。
2. 乗船してすぐに救命胴衣を着用すること。また乗船中は常に着用しておくこと。
3. 出港時、入港時は岸壁等で身体を挟まないように特に注意すること。船が重たいので、スピードが出ていなくても、強大な圧力がかかる。また、舳い綱も危険であるので、触る場合は船長の指示どおりに行うこと。
4. 救命筏や消火設備、信号紅煙の場所を事前にチェックして、自己の安全を確保しておくこと。船は燃え易い材質なので火気使用は極力避けること。救命浮器は上部甲板後方にある。
5. 乗船中はみだりに船舶備品を触らない。特に計器類は航海上重大な危険を伴うので、研究上必要な場合も船長の許可を得てから使用すること。不用意に触ってしまった場合は、必ず船長に申し出ること。
6. 船に持ち込んだ調査器具や手回り品は作業や通行に邪魔にならないところに荷崩れを起こさないように積み込むこと。
7. 調査時、特にウインチで器具を吊り上げたり下ろしたりしている時は危険であるので、ロープやワイヤーの下にいたり、ロープを踏んだりしないこと。アンカーの上げ下げの時も同様である。
8. 船内は全面禁煙である。

〈下船時心得〉

1. 船長の指示に従って、船を乗船前の状態に戻すこと。特に持ち込んだものは、ゴミ類に至るまで持ち帰ること。
2. 救命胴衣やヘルメットなど、船舶備品は持ち帰らないこと。

補足：〈自分の身は自分で守る〉

1. 携帯電話は十分に充電しておき、ビニール袋などに入れて携帯しておく。
遭難時は、連絡手段の有無が明暗を分けます。常に連絡手段の確保に努めましょう。
2. 気象状況を良く確認しておき、それに備えた服装にする。
体が濡れた状態で風に当たると体力を奪われます。雨具を用意しましょう。また、綿製の衣類は、濡れると体温を奪います。化学繊維製で速乾素材の衣服着用を心がけましょう。（遭難時においても体温保持に相当の効果があるとされています）
3. 非常用食料、飲料を少量でよいので準備しておく。
4. 船は常に揺れているため、脳や体が徐々に疲れ、船酔いの原因ともなる。こまめな糖分・水分の補給を心がけよう。
5. 夏季は大量の紫外線を浴びる。長袖長ズボン、帽子、サングラス、日焼け止めクリームを準備しましょう。

別表（第43条第2項関係）

「官 公 署 連 絡 表」

【非常連絡事項】 事故等が発生した場合の連絡は、原則として次の区分により行うものとする。

- (1) 全事故等に共通する事項
船名、日時、場所、事故等の種類、死傷者の有無、救助の要否、当時の気象・海象
- (2) 事故等の態様による事項

	事故等の種類	連 絡 事 項
a	衝突	① 衝突の状況（衝突時の両船の針路、速力等又は岸壁等への接近状況） ② 船体、機器の損傷状況 ③ 浸水の有無（あるときはd項） ④ 流出油の有無（あるときはその程度及び防除措置） ⑤ 自力航行の可否 ⑥ 相手船の船種、船名、総トン数、（用）船主・船長名（できれば住所、連絡先） －船舶衝突の場合 ⑦ 相手船の状況（船体損傷の状況、死傷者の有無、救助の要否等） －船舶衝突の場合
b	乗揚げ	① 乗揚げの状況（乗揚げ時の針路、速力、海底との接触箇所、船体傾斜、吃水の変化、 陸岸との関係等） ② 船体周囲の水深、底質及び付近の状況 ③ 潮汐の状況、船体に及ぼす風潮及び波浪の影響 ④ 船体、機器の損傷状況 ⑤ 浸水の有無（あるときはd項） ⑥ 離礁の見通し及び陸上からの救助の可否 ⑦ 流出油の有無（あるときはその程度及び防除措置）
c	火災	① 出火場所及び火災の状況 ② 出火原因 ③ 船体、機器の損傷状況 ④ 消火作業の状況 ⑤ 消火の見通し
d	浸水	① 浸水箇所及び浸水の原因 ② 浸水量及びその増減の程度 ③ 船体、機器の損傷状況 ④ 浸水防止作業の状況 ⑤ 船体に及ぼす風浪の影響 ⑥ 浸水防止の見通し ⑦ 流出油の有無（あるときはその程度及び防除措置）
e	強取、殺人傷害、 暴行等の不法行為	① 事件の種類 ② 事件発生の端緒及び経緯 ③ 被害者の氏名、被害状況等 ④ 被疑者の人数、氏名等 ⑤ 被疑者が凶器を所持している場合は、その種類、数量等 ⑥ 措置状況
f	人身事故 （行方不明を除く）	① 事故の発生状況 ② 死傷者数又は疾病者数 ③ 発生原因 ④ 負傷又は疾病の程度 ⑤ 応急手当の状況 ⑥ 緊急下船の必要の有無
g	乗員、乗組員等の 行方不明	① 行方不明が判明した日時及び場所 ② 行方不明の日時、場所及び理由（推定） ③ 行方不明者の氏名等 ④ 行方不明者の遺留品等
h	その他の事故	① 事故の状況 ② 事故の原因 ③ 措置状況
i	インシデント	① インシデントの状況 ② インシデントの原因 ③ 措置状況

発 行 2018年9月
発行者 愛媛大学沿岸環境科学研究センター
 〒790-8577 松山市文京町2番5号
 TEL (089) 927-8164
 FAX (089) 927-8167
 E-mail : engan@stu.ehime-u.ac.jp
印 刷 創風社出版

※今後、年報の送付を希望されない場合や、所属機関、住所等の変更がございましたら、お手数ですが上記発行者までお知らせください。

この年報は、再生紙・大豆インキを使用しています。

